

第 4 次印西市地域福祉計画策定のための アンケート調査結果報告書

令和 2 年 3 月

印西市

目次

I 調査の概要.....	1
1. 調査目的.....	2
2. 調査概要.....	2
3. 報告書の見方.....	2
II 市民アンケート調査の結果.....	3
1. 回答者自身のことについて.....	4
2. 地域での暮らしについて.....	9
3. 地域での活動やボランティア活動について.....	25
4. 災害時の対応について.....	45
5. 福祉について.....	51
6. 地域福祉の推進について.....	69
III 団体アンケート調査の結果.....	87
1. 団体のことについて.....	88
2. 団体としての活動について.....	89
3. 地域福祉の推進について.....	105
IV 調査結果の総括.....	115

I 調査の概要

1. 調査目的

本調査は、「第4次印西市地域福祉計画」（令和3～7年度）の策定にあたり、「地域福祉」に関する市民及び関係団体の方々の状況や考え方などについて明らかにし、計画策定のための基礎資料とすることを目的として実施しました。

2. 調査概要

（1）市民アンケート調査

調査対象者：印西市在住の18歳以上の方（無作為抽出）

調査期間：令和元年10月7日～10月22日

調査方法：郵送配布・郵送回収

回収結果：配布数3,000件、有効回収数1,534件、有効回収率51.1%

（2）団体アンケート調査

調査対象者：民生委員・児童委員、支部社協の一部の方

調査期間：令和元年10月7日～10月22日

調査方法：郵送配布・郵送回収

回収結果：配布数148件、有効回収数118件、有効回収率79.7%

3. 報告書の見方

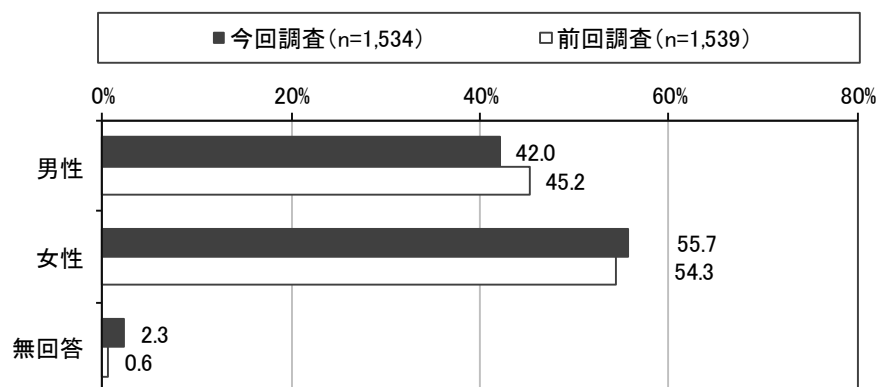
- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても同様です。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「n（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 設問によって一部「n」の数（サンプル数）が少ない場合があることから、その場合は参考値とします。
- クラス集計分析において、全体と同様の傾向の場合は、記載を省略しています（年齢別・地区別除く）。
- 本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。

Ⅱ 市民アンケート調査の結果

1. 回答者自身のことについて

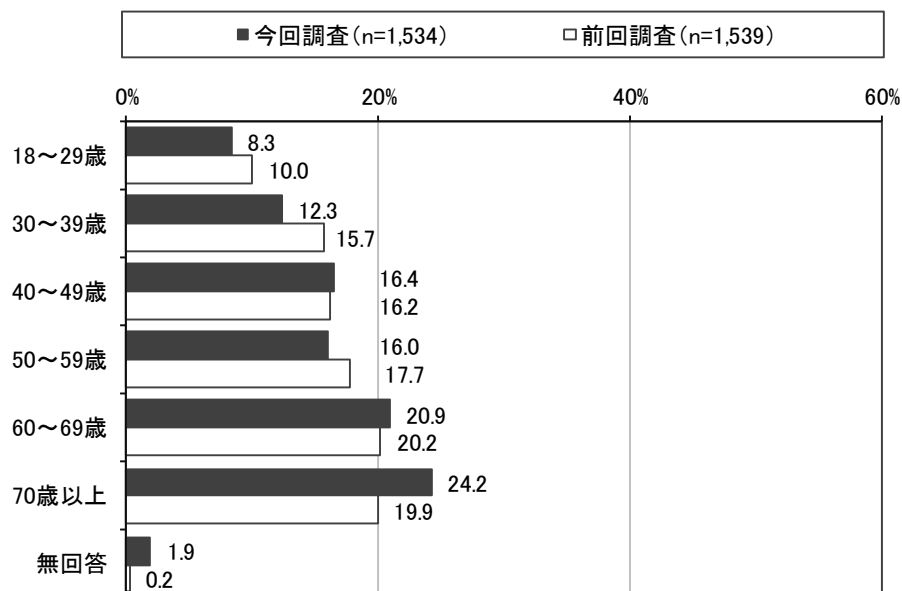
問1 あなたの性別はどちらですか。(単数回答)

「男性」が42.0%、「女性」が55.7%となっています。
前回調査と比較すると、ほぼ同じ傾向となっています。



問2 あなたの年齢はおいくつですか。(単数回答)

「70歳以上」が24.2%と最も多く、次いで「60～69歳」が20.9%、「40～49歳」が16.4%となっています。
前回調査と比較すると、「70歳以上」が4.3ポイント前回より多くなっています。

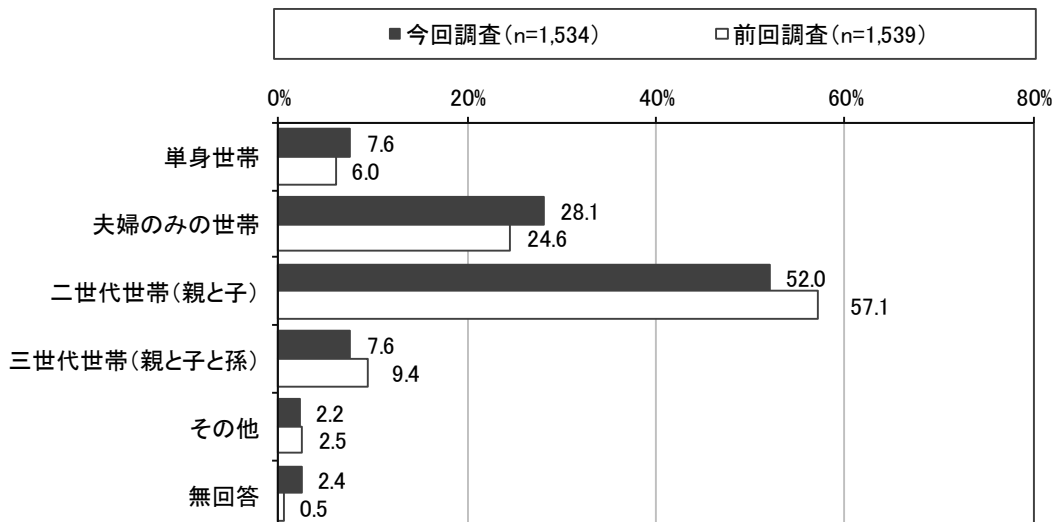


※今回調査では、60歳以上を5歳刻みの選択肢としており、「60～64歳」が9.7%、「65～69歳」が11.2%、「70～74歳」が8.9%、「75歳以上」が15.3%となっています。

問3 あなたの世帯構成は次のうちどれですか。(単数回答)

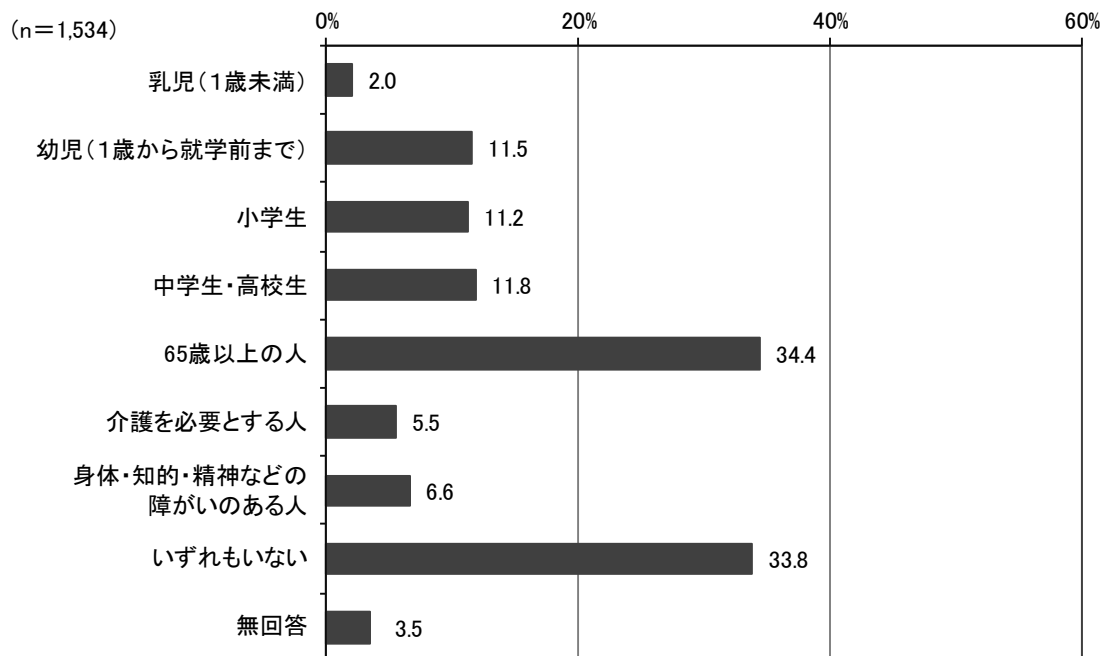
「二世帯世帯(親と子)」が52.0%と最も多く、次いで「夫婦のみの世帯」が28.1%となっています。

前回調査と比較すると、「二世帯世帯(親と子)」が5.1ポイント前回より少なくなっています。



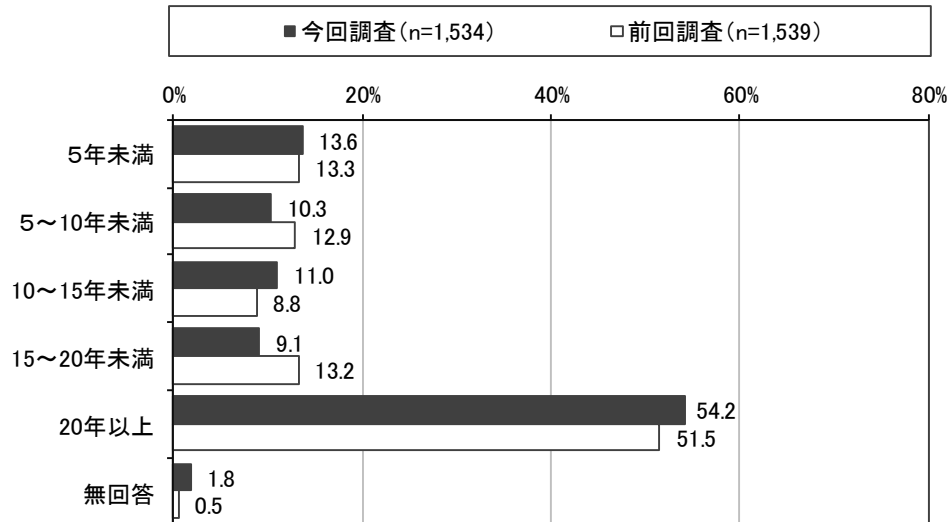
問4 現在、あなた自身、もしくはあなたが同居している家族の中に、次のような方はいますか。(複数回答)

「65歳以上の人」が34.4%と最も多く、次いで「いずれもない」が33.8%となっています。



問5 あなたの印西市（旧印旛村、旧本埜村を含む）での居住年数はどのくらいですか。
（単数回答）

「20年以上」が54.2%と最も多く、次いで「5年未満」が13.6%となっています。
前回調査と比較すると、ほぼ同じ傾向となっています。



※今回調査では、20年以上の選択肢を分割しており、「20～25年未満」が12.1%、「25年以上」が42.1%となっています。

●クロス集計（グレー部分は最多項目）

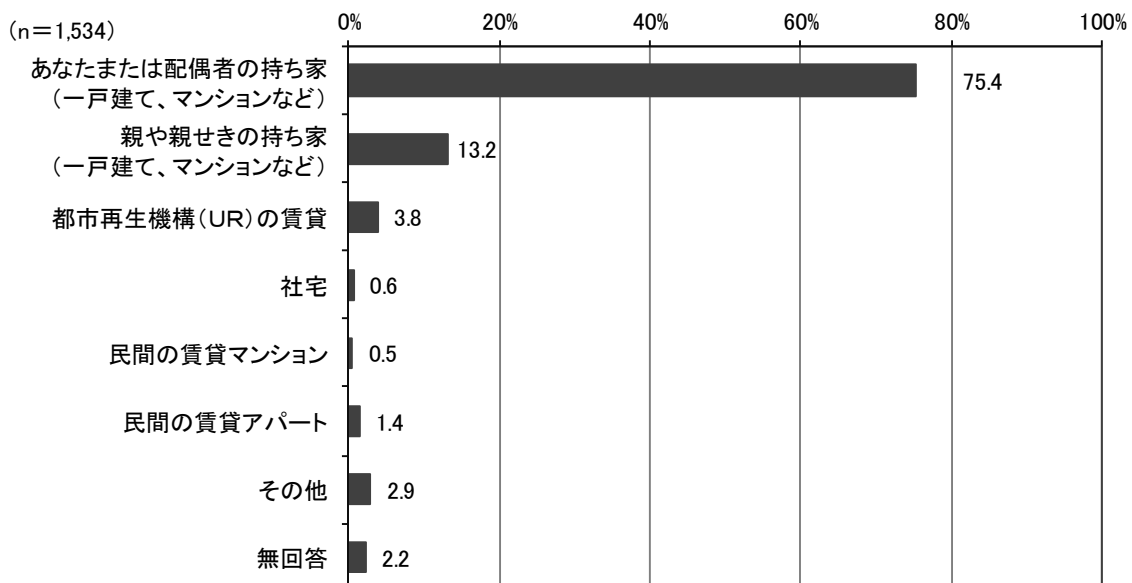
年齢別をみると、18～29歳では「20～25年未満」が、30～39歳では「5年未満」が、40～49歳では「5～10年未満」が、それ以外の年齢では「25年以上」が最も多くなっており、特に50～59歳を除くすべての年代が、いずれも全体より10ポイント以上多くなっています。また、18～29歳では「15～20年未満」が、全体より10ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、船穂・牧の原では「5年未満」が、それ以外の地区では「25年以上」が最も多くなっており、特に船穂・牧の原と木下、小林、大森・永治では、いずれも全体より10ポイント以上多くなっています。また、本埜では「20～25年未満」が、全体より10ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		5年未満	未5年未満	未10年未満	未15年未満	未20年未満	25年以上	無回答	
合計	(n=1,534)	13.6	10.3	11.0	9.1	12.1	42.1	1.8	
年齢別	18～29歳	(n=127)	19.7	5.5	16.5	20.5	26.0	11.8	0.0
	30～39歳	(n=189)	44.4	17.5	5.8	1.6	5.8	24.9	0.0
	40～49歳	(n=251)	18.3	26.3	18.7	12.7	5.2	18.7	0.0
	50～59歳	(n=246)	6.1	5.7	15.4	15.0	20.7	37.0	0.0
	60～69歳	(n=321)	5.6	6.2	7.2	4.4	10.6	66.0	0.0
	70歳以上	(n=371)	5.4	4.9	7.5	7.5	11.6	62.8	0.3
地区別	木下	(n=96)	5.2	4.2	6.3	8.3	8.3	66.7	1.0
	小林	(n=129)	7.0	5.4	4.7	8.5	10.9	62.8	0.8
	大森・永治	(n=105)	6.7	3.8	3.8	6.7	3.8	73.3	1.9
	ニュータウン中央北	(n=197)	8.1	15.2	12.7	6.1	9.6	45.2	3.0
	船穂・牧の原	(n=363)	29.2	14.3	10.2	5.5	14.9	24.0	1.9
	ニュータウン中央南	(n=276)	15.9	13.4	15.6	8.0	10.9	35.1	1.1
	印旛	(n=211)	6.2	7.1	14.2	18.5	6.6	45.5	1.9
	本埜	(n=133)	3.8	6.0	12.0	13.5	26.3	36.8	1.5

問6 現在の住居形態について教えてください。（単数回答）

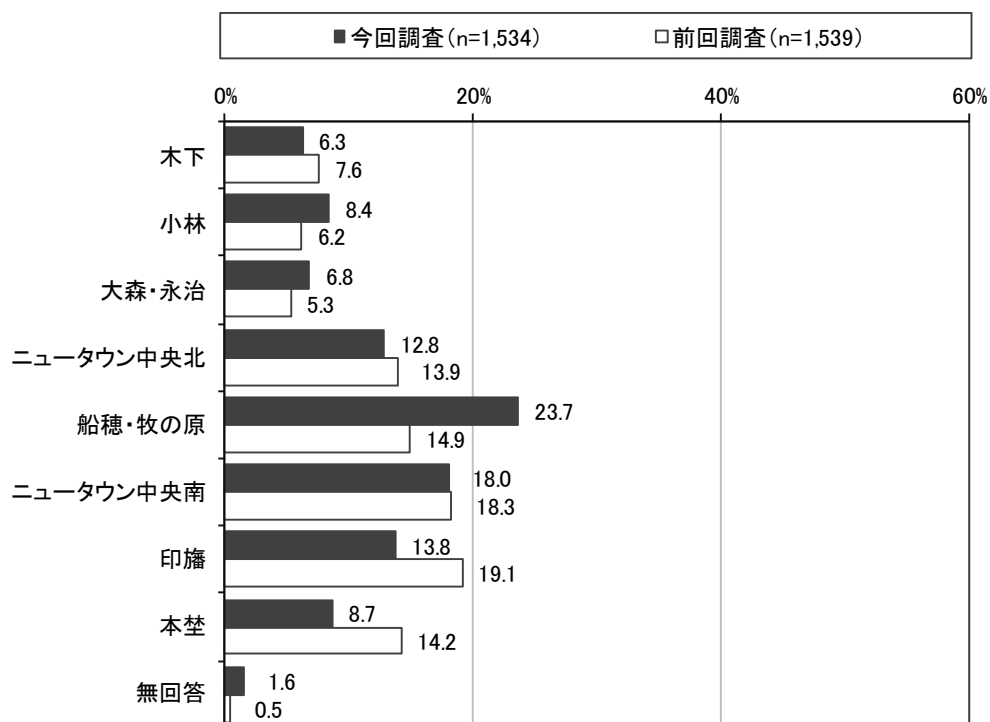
「あなたまたは配偶者の持ち家（一戸建て、マンションなど）」が75.4%と最も多く、次いで「親や親せきの持ち家（一戸建て、マンションなど）」が13.2%となっています。



問7 あなたの居住地区はどちらですか。(単数回答)

「船穂・牧の原」が23.7%と最も多く、次いで「ニュータウン中央南」が18.0%、「印旛」が13.8%となっています。

前回調査と比較すると、「船穂・牧の原」が8.8ポイント前回より多く、反対に「本埜」が5.5ポイント、「印旛」が5.3ポイント前回より少なくなっています。



※居住地区の内訳

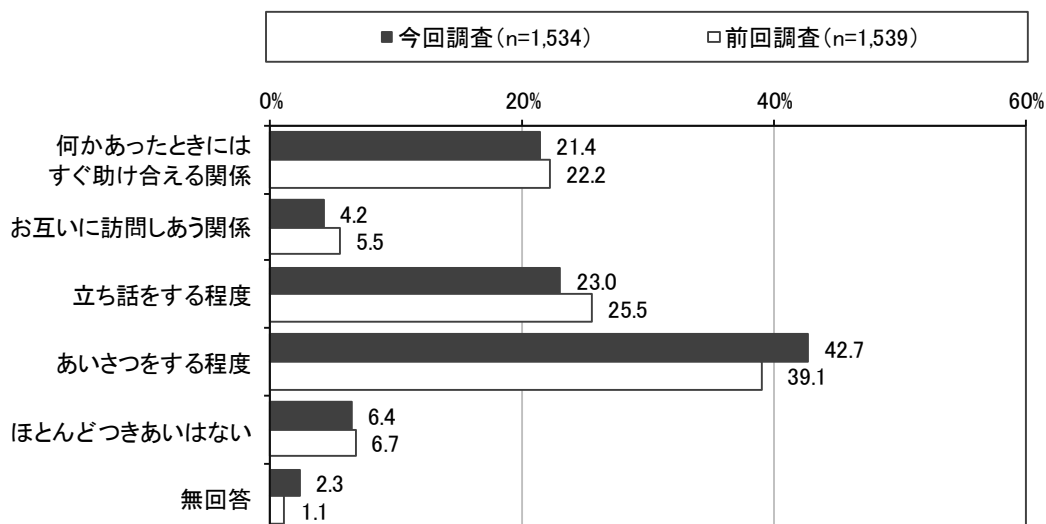
木下	木下、木下南1～2丁目、竹袋、別所、宗甫、木下東1～4丁目、平岡
小林	小林、小林北1～6丁目、小林浅間1～3丁目、小林大門下1～3丁目
大森・永治	大森、鹿黒、鹿黒南3丁目、亀成、発作、相嶋、浅間前、浦部、浦部村新田、白幡、浦幡新田、高西新田、小倉、和泉
ニュータウン中央北	小倉台1～4丁目、大塚3丁目、牧の木戸1丁目、木刈1～7丁目、中央北2丁目
船穂・牧の原	武西、戸神、船尾、松崎、松崎台2丁目、結縁寺、多々羅田、草深、泉、西の原1～4丁目、原2～4丁目、東の原1～3丁目、牧の原3～6丁目
ニュータウン中央南	内野1～3丁目、原山1～3丁目、高花1～6丁目、戸神台1～2丁目、中央南1～2丁目、武西学園台1～3丁目
印旛	瀬戸、山田、吉高、萩原、松虫、岩戸、師戸、鎌苅、大廻、造谷、吉田、平賀、平賀学園台1～3丁目、美瀬1～2丁目、若萩1～3丁目、舞姫1～3丁目
本埜	中根、荒野、竜腹寺、角田、滝、物木、笠神、行徳、川向、下曾根、中、萩埜、桜野、押付、佐野屋、和泉屋、甚兵衛、松木、中田切、下井、長門屋、酒直ト杭、安食ト杭、将監、本埜小林、滝野1～7丁目

2. 地域での暮らしについて

問8 あなたと隣近所とのつきあいほどの程度ですか。(単数回答)

「あいさつをする程度」が42.7%と最も多く、次いで「立ち話をする程度」が23.0%、「何かあったときにはすぐ助け合える関係」が21.4%となっています。

前回調査と比較すると、ほぼ同じ傾向となっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年齢別をみると、いずれも「あいさつをする程度」が最も多くなっています。また、年齢が若くなるにつれて「あいさつをする程度」の割合が多くなっており、特に39歳以下では、全体より10ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、小林では「立ち話をする程度」が、大森・永治と印旛では「何かあったときにはすぐ助け合える関係」が、それ以外の地区では「あいさつをする程度」が最も多く、特に小林の「立ち話をする程度」と、大森・永治と印旛の「何かあったときにはすぐ助け合える関係」、ニュータウン中央南の「あいさつをする程度」では、全体より10ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		す ぐ か あ け つ 合 た え る と き に 係	訪 問 お 互 し い あ に う 関 係	立 ち 話 を す る 程 度	あ い さ つ を す る 程 度	つ ほ き と あ い ど は な い	無 回 答	
合計	(n=1,534)	21.4	4.2	23.0	42.7	6.4	2.3	
年 齢 別	18～29歳	(n=127)	11.8	2.4	7.9	60.6	15.0	2.4
	30～39歳	(n=189)	11.6	1.6	18.5	59.8	6.9	1.6
	40～49歳	(n=251)	19.5	2.4	22.3	47.0	7.6	1.2
	50～59歳	(n=246)	22.8	3.3	22.4	43.1	6.1	2.4
	60～69歳	(n=321)	24.6	5.3	28.0	36.1	3.1	2.8
	70歳以上	(n=371)	25.9	7.0	27.0	32.1	5.1	3.0
地 区 別	木下	(n=96)	21.9	7.3	25.0	35.4	10.4	0.0
	小林	(n=129)	21.7	3.1	37.2	34.1	3.9	0.0
	大森・永治	(n=105)	34.3	6.7	19.0	33.3	3.8	2.9
	ニュータウン中央北	(n=197)	16.8	2.5	24.4	48.7	6.6	1.0
	船穂・牧の原	(n=363)	17.9	4.4	21.2	49.3	5.5	1.7
	ニュータウン中央南	(n=276)	14.9	2.2	19.9	52.9	9.8	0.4
	印旛	(n=211)	33.2	4.3	22.3	31.8	6.2	2.4
	本埜	(n=133)	23.3	7.5	24.8	38.3	4.5	1.5

同居者別をみると、いずれも「あいさつをする程度」が最も多く、特に乳児（1歳未満）のいる人では、全体より10ポイント以上多くなっています。また、介護を必要とする人のいる人では「何かあったときにはすぐ助け合える関係」が、全体より10ポイント以上多くなっています。

住居形態別をみると、いずれも「あいさつをする程度」が最も多く、特に親・親せきの持ち家と社宅、民間賃貸マンション、民間賃貸アパートでは、全体より10ポイント以上多くなっています。また、都市再生機構の賃貸と社宅、民間賃貸マンション、民間賃貸アパート、その他では「ほとんどつきあいはない」が、全体より10ポイント以上多くなっています。

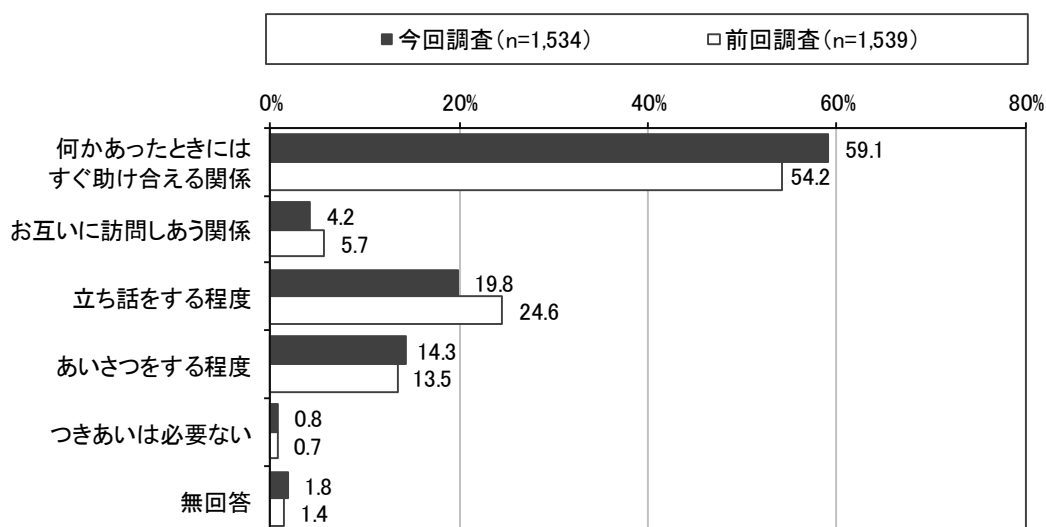
(単位:%)		す何か ぐか 助あ けつ 合た えと る き 関に 係は	訪お 問互 しあ い あに う 関 係	立 ち 話 を す る 程 度	あ い さ つ を す る 程 度	つほ きと あ ん ど は な い	無 回 答	
合計	(n=1,534)	21.4	4.2	23.0	42.7	6.4	2.3	
同居者別	乳児(1歳未満)	(n=30)	16.7	0.0	16.7	56.7	6.7	3.3
	小学校前の幼児	(n=177)	19.2	2.3	28.8	42.4	5.6	1.7
	小学生	(n=172)	22.1	4.1	25.6	41.9	4.1	2.3
	中学生・高校生	(n=181)	23.8	3.3	23.2	44.2	3.3	2.2
	65歳以上の人	(n=528)	24.4	4.5	26.1	37.9	4.2	2.8
	介護を必要とする人	(n=84)	32.1	8.3	19.0	33.3	1.2	6.0
	障がいのある人	(n=102)	18.6	3.9	25.5	44.1	5.9	2.0
	いずれもない	(n=518)	17.4	5.0	19.9	46.9	9.5	1.4
住居形態別	自分又は配偶者の持ち家	(n=1,156)	23.0	4.2	26.3	40.2	3.5	2.7
	親・親せきの持ち家	(n=203)	19.2	3.9	9.4	57.1	8.9	1.5
	都市再生機構の賃貸	(n=58)	3.4	3.4	19.0	51.7	22.4	0.0
	社宅	(n=9)	0.0	0.0	0.0	55.6	44.4	0.0
	民間賃貸マンション	(n=8)	0.0	0.0	0.0	62.5	37.5	0.0
	民間賃貸アパート	(n=22)	0.0	0.0	9.1	54.5	31.8	4.5
	その他	(n=45)	17.8	8.9	20.0	33.3	20.0	0.0

問9 住みよいまちづくりに向けて、あなたはどの程度の近所づきあいが必要だと思いますか。

(単数回答)

「何かあったときにはすぐ助け合える関係」が 59.1%と最も多く、次いで「立ち話をする程度」が 19.8%、「あいさつをする程度」が 14.3%となっています。

前回調査と比較すると、「何かあったときにはすぐ助け合える関係」が 4.9 ポイント前回より多く、反対に「立ち話をする程度」が 4.8 ポイント前回より少なくなっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年齢別をみると、いずれも「何かあったときにはすぐ助け合える関係」が最も多くなっています。また、18～29歳では「あいさつをする程度」が、全体より 10 ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、いずれも「何かあったときにはすぐ助け合える関係」が最も多く、特に印旛では、全体より 10 ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		何かあったときにはすぐ助け合える関係	お互いに訪問しあう関係	立ち話をする程度	あいさつをする程度	つきあいは必要ない	無回答	
合計	(n=1,534)	59.1	4.2	19.8	14.3	0.8	1.8	
年齢別	18～29歳	(n=127)	42.5	3.1	21.3	29.1	1.6	2.4
	30～39歳	(n=189)	48.7	4.8	22.8	20.6	1.6	1.6
	40～49歳	(n=251)	56.2	6.0	19.1	17.1	0.8	0.8
	50～59歳	(n=246)	65.9	2.0	18.3	11.4	0.8	1.6
	60～69歳	(n=321)	63.6	3.1	23.4	8.1	0.6	1.2
	70歳以上	(n=371)	61.7	5.9	17.0	11.6	0.5	3.2
地区別	木下	(n=96)	59.4	6.3	16.7	16.7	0.0	1.0
	小林	(n=129)	66.7	3.9	20.2	7.8	1.6	0.0
	大森・永治	(n=105)	66.7	4.8	14.3	11.4	0.0	2.9
	ニュータウン中央北	(n=197)	54.3	3.0	23.9	14.7	3.0	1.0
	船穂・牧の原	(n=363)	55.6	6.1	19.8	17.4	0.6	0.6
	ニュータウン中央南	(n=276)	55.1	2.5	22.8	18.8	0.4	0.4
	印旛	(n=211)	69.7	4.7	16.6	8.1	0.0	0.9
	本埜	(n=133)	60.2	3.0	20.3	14.3	1.5	0.8

同居者別をみると、いずれも「何かあったときにはすぐ助け合える関係」が最も多く、特に介護を必要とする人では、全体より10ポイント以上多くなっています。

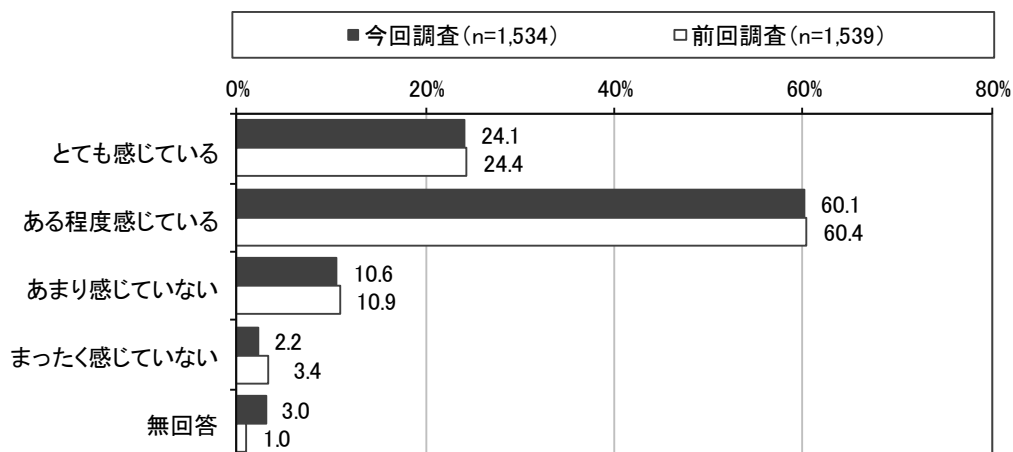
住居形態別をみると、社宅では「立ち話をする程度」が、民間賃貸マンションでは「あいさつをする程度」が、それ以外の住居形態では「何かあったときにはすぐ助け合える関係」が最も多くなっています。また、親・親戚の持ち家では「あいさつをする程度」が、都市再生機構の賃貸では「立ち話をする程度」と「あいさつをする程度」が、社宅では「立ち話をする程度」と「つきあいは必要ない」が、民間賃貸マンションと民間賃貸アパートでは「あいさつをする程度」が、いずれも全体より10ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		す ぐ か あ つ け 合 え る と き 関 係 は	訪 問 互 い あ い あ う 関 係	立 ち 話 を す る 程 度	あ い さ つ を す る 程 度	つ き あ い は 必 要 な い	無 回 答	
合計	(n=1,534)	59.1	4.2	19.8	14.3	0.8	1.8	
同居者別	乳児(1歳未満)	(n=30)	53.3	3.3	26.7	10.0	3.3	3.3
	小学校前の幼児	(n=177)	55.9	6.8	25.4	10.2	0.6	1.1
	小学生	(n=172)	52.3	7.6	23.3	13.4	0.6	2.9
	中学生・高校生	(n=181)	52.5	5.5	21.5	17.7	0.6	2.2
	65歳以上の人	(n=528)	63.8	4.2	18.0	11.9	0.6	1.5
	介護を必要とする人	(n=84)	71.4	6.0	9.5	8.3	2.4	2.4
	障がいのある人	(n=102)	68.6	2.9	15.7	11.8	0.0	1.0
	いずれもない	(n=518)	55.4	3.9	21.8	16.2	1.2	1.5
住居形態別	自分又は配偶者の持ち家	(n=1,156)	62.7	4.4	19.9	10.6	0.4	2.0
	親・親せきの持ち家	(n=203)	49.3	4.4	17.7	25.6	1.5	1.5
	都市再生機構の賃貸	(n=58)	32.8	3.4	31.0	31.0	1.7	0.0
	社宅	(n=9)	22.2	0.0	44.4	22.2	11.1	0.0
	民間賃貸マンション	(n=8)	25.0	0.0	25.0	50.0	0.0	0.0
	民間賃貸アパート	(n=22)	40.9	0.0	13.6	36.4	0.0	9.1
	その他	(n=45)	51.1	6.7	17.8	17.8	6.7	0.0

問 10 現在お住まいの地区に愛着や誇りを感じていますか。(単数回答)

「ある程度感じている」が60.1%と最も多く、「とても感じている」(24.1%)と合わせた“愛着や誇りを感じている”は84.2%となっています。反対に、「あまり感じていない」(10.6%)と「まったく感じていない」(2.2%)合わせた“愛着や誇りを感じていない”は12.8%となっています。

前回調査と比較すると、ほぼ同じ傾向となっています。



●クロス集計 (グレー部分は最多項目)

年齢別をみると、いずれも「ある程度感じている」が最も多く、特に30～39歳と50～59歳では、全体より5ポイント以上多くなっています。また、18～29歳では「まったく感じていない」が、70歳以上では「とても感じている」が、全体より5ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、いずれも「ある程度感じている」が最も多く、特に本埜では、全体より5ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		とても感じている	ある程度感じている	あまり感じていない	まったく感じていない	無回答	
合計	(n=1,534)	24.1	60.1	10.6	2.2	3.0	
年齢別	18～29歳	(n=127)	21.3	55.9	14.2	7.9	0.8
	30～39歳	(n=189)	19.6	66.1	11.1	0.5	2.6
	40～49歳	(n=251)	22.3	61.0	12.0	3.2	1.6
	50～59歳	(n=246)	18.7	66.3	10.6	2.0	2.4
	60～69歳	(n=321)	22.1	63.6	9.0	1.2	4.0
	70歳以上	(n=371)	33.7	50.7	9.7	1.6	4.3
地区別	木下	(n=96)	20.8	59.4	14.6	3.1	2.1
	小林	(n=129)	20.9	61.2	14.7	2.3	0.8
	大森・永治	(n=105)	26.7	59.0	10.5	1.9	1.9
	ニュータウン中央北	(n=197)	20.8	65.0	10.7	1.5	2.0
	船穂・牧の原	(n=363)	28.7	57.3	10.7	1.4	1.9
	ニュータウン中央南	(n=276)	21.4	63.4	9.1	2.9	3.3
	印旛	(n=211)	26.5	55.9	10.9	4.3	2.4
	本埜	(n=133)	24.8	67.7	6.8	0.8	0.0

同居者別をみると、いずれも「ある程度感じている」が最も多くなっています。

住居形態別をみると、民間賃貸アパートでは「ある程度感じている」と「あまり感じていない」が、それ以外の住居形態では「ある程度感じている」が最も多くなっています。また、民間賃貸アパートでは「まったく感じていない」と「あまり感じていない」が、社宅と民間賃貸マンションでは「あまり感じていない」が、全体より10ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		とても感じている	ある程度感じている	あまり感じていない	まったく感じていない	無回答
合計 (n=1,534)		24.1	60.1	10.6	2.2	3.0
同居者別	乳児(1歳未満) (n=30)	30.0	63.3	6.7	0.0	0.0
	小学校前の幼児 (n=177)	24.9	61.6	10.7	1.7	1.1
	小学生 (n=172)	22.1	65.1	7.6	2.9	2.3
	中学生・高校生 (n=181)	22.7	65.7	9.4	1.1	1.1
	65歳以上の人 (n=528)	26.7	57.2	11.0	1.7	3.4
	介護を必要とする人 (n=84)	32.1	52.4	11.9	1.2	2.4
	障がいのある人 (n=102)	25.5	55.9	12.7	3.9	2.0
	いずれもない (n=518)	20.3	61.6	11.4	3.3	3.5
住居形態別	自分又は配偶者の持ち家 (n=1,156)	26.2	60.8	8.4	1.4	3.2
	親・親せきの持ち家 (n=203)	19.7	59.6	13.8	4.4	2.5
	都市再生機構の賃貸 (n=58)	19.0	55.2	19.0	3.4	3.4
	社宅 (n=9)	11.1	55.6	33.3	0.0	0.0
	民間賃貸マンション (n=8)	0.0	62.5	25.0	0.0	12.5
	民間賃貸アパート (n=22)	4.5	40.9	40.9	13.6	0.0
	その他 (n=45)	11.1	62.2	15.6	8.9	2.2

(問 10 で「あまり感じていない」または「まったく感じていない」を選んだ方)

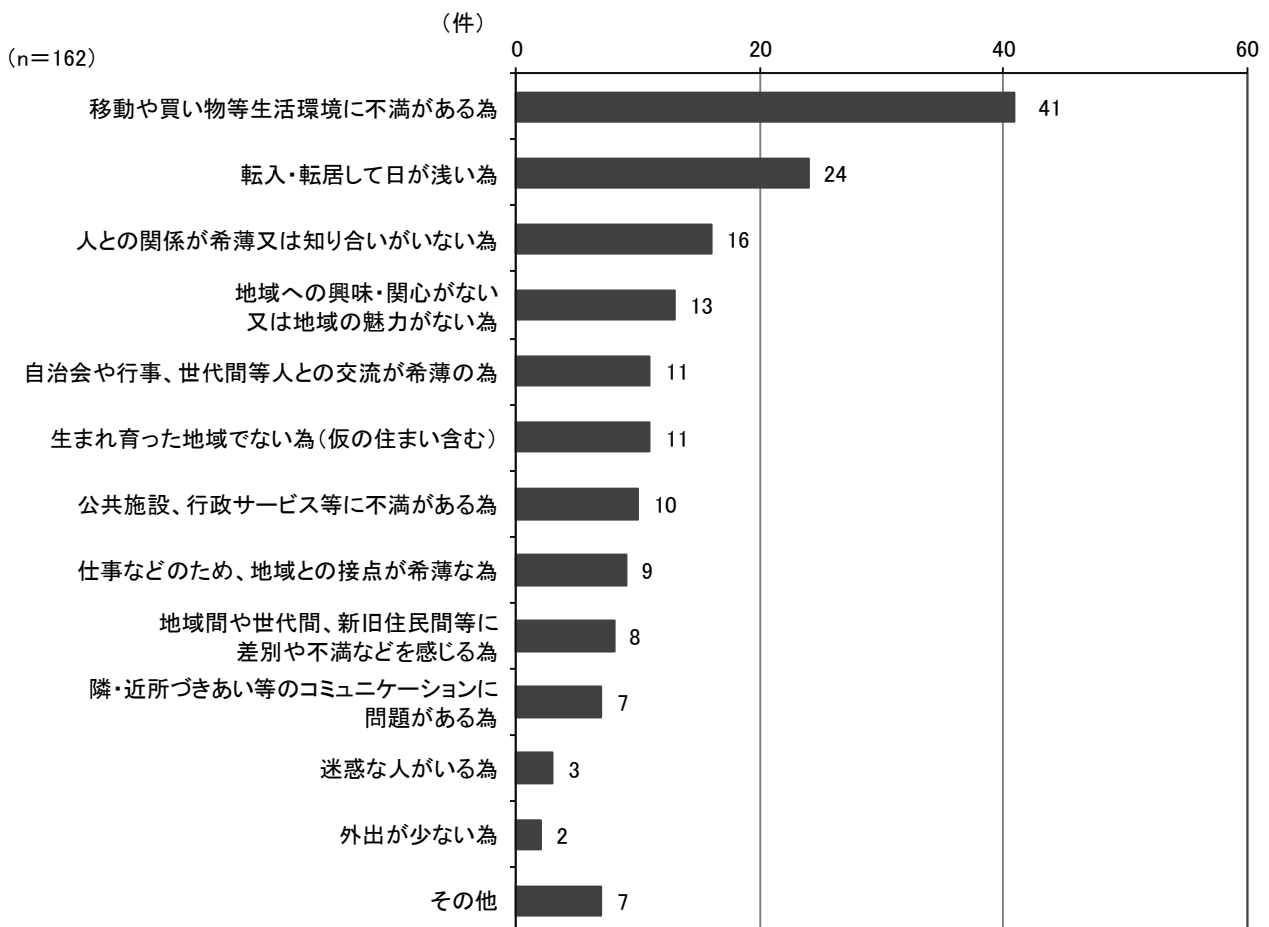
問 10-1 お住まいの地区に愛着や誇りを感じない理由について、自由にお書きください。

(自由回答)

自由回答の回答件数は 162 件でした。

回答内容をみると、「移動や買い物等生活環境に不満がある為」が 41 件と最も多く、次いで「転入・転居して日が浅い為」が 24 件、「人との関係が希薄又は知り合いがいない為」が 16 件となっています。

※個々の回答は複数の内容について触れている場合がありますが、回答を分類するに際しては、回答内容の中で冒頭に述べられたものなど、主要なものひとつに限定して分類を行っています(以下同様)。



※以下は、類似の回答が多いことから、主な回答のみを記載。

移動や買い物等生活環境に不満がある為

- 鉄道運賃が高い。商店が少ない。
- 運転免許は持っていません。毎月病院に行っています。草深バスの本数が少なく非常に困っています。
- 駅やスーパーまで遠いから。
- バス停まで 40 分、ポストも無い、コンビニも近くに無い、シニア世代には大変不便。
- 都内へのアクセスが良くない事。
- 市中央より離れすぎる。

○食事する場所は、チェーン店やフードコートなどで、歩いて行ける美味しいおしゃれな所がない。電車が高いし10分間隔くらいの電車で有って欲しい。専門医の個人病院がすごく少ない。

転入・転居して日が浅い為

- まだここに来て日が浅いから。
- 引っ越しをしてまだ3年目。賃貸アパートで独居老人の為。それでも、外に散歩に行くようになり、挨拶を交わすようになったと話している。
- 環境は良いが愛着や誇りは、10年くらいでは、分からないでしょうか。子供のころから住んでいるのではない、長年住んでいた所から引っ越しして来たからかも。住み始めたばかり。知り合いも少ないから。保育園に入れないから。子育てし易いと思えなかった。
- 住み始めて1年も経っていない。新しい町で歴史を感じられない。
- 転居して来て日が浅く地域について何も知らないし解らない。地域の新聞、広報等を見ながら印西市の事を知ろうと努力中。友人、知人がいないので印西市の事が解らない。聞く機会、知る機会が無い。
- まだ単身赴任より戻ってきたばかりのため。

人との関係が希薄又は知り合いがいない為

- よそよそしい感じがする。地元の店（個人経営）が少なく、特色がない。
- 近所の人とあまり会わない。
- 長年住んだ家を手放し、新興住宅に引っ越しました。周りは若い人が多く、昼間はあまり人が居なくて、出歩く人は夕方の時間が多い様です。
- 車で移動をする人がほとんどで、外で会って会話をすることが無い。近所の人との接触が無い為、孤立状態。隣2~3件のお宅の名前と顔を覚えているがほとんど知りません。
- 知り合いもいないし、よく話す人もない。住んで間もない。
- お隣に、どんな人がいるのかさえわかりません。

地域への興味・関心がない又は地域の魅力がない為

- 愛着や誇りを感じる理由が特に無いから。
- 自慢するものが何もない。
- 住むうえで必要な物は揃うが、この地区ならではの物が無いように思う。個人の小料理店や地域住民の人が開くワークショップや趣味教室など。特色が無いと愛着や誇りは生まれない。ただ、ここで見る朝焼けはとても綺麗。空気が綺麗なのだと思う。

自治会や行事、世代間等人との交流が希薄の為

- 1年3ヶ月住んでいるが、地域のイベント参加があまり出来ない。子どもが小さくて、不安の為、参加しづらい。
- 自治会に入っておらず、交流が無い為、必要を感じない。
- 若い人達なので。
- マンション内の住民同士でもあまり挨拶が返って来ない。
- 地区の事が分からない。

- 当自治会は3年ほど前に大切な住民のコミュニケーションの場である地元の夏祭り不参加が決議された。要因は高齢化による役割負担が出来ないという自分勝手な考え方をする人が多くなった。自分を含めて高齢化により大切な若手に引き渡していこうという雰囲気はありません。
- 地域・地区の活動に参加していないため地域・地区の意識が希薄。（愛着を感じる部分が地区にあるのか分からない）。

生まれ育った地域でない為（仮の住まい含む）

- 元々最初から住んでいたわけではないから。
- 自分が生まれ育った場所では無いからと思います。平日も仕事で朝出掛けて、夜帰宅して家にいるので、地域の人とあまり接しないので、愛着はあまり感じてないです。
- 25年間小倉台の集合住宅に住んで居た為、現在の住居の近所の方とは世代差を感じる。
- 小さい頃からそこで育ったわけではないため。日中は仕事で、地域とふれあうのは週末のみのため（近所を散歩する程度）。

公共施設、行政サービス等に不満がある為

- 464号沿線に大きな図書館や体育館等の公共施設が無い。役所が不便な所にあり遠い。警察署が恥ずかしいくらいみすぼらしく、小さくてぼろい。（消防署は綺麗で464の近くにあり訪問しやすい）
- 乱開発で自然が壊れている。動画を取っているより道路整備をちゃんとして欲しい。ちょっと裏の方に行くと外人が山林にごみを捨てている。
- 歩道整備が必要。千葉臼井印西線（64号）は大型車が朝から行き来しており、騒音がすごいです。大型車の規制があってもいいのでは。また子供が歩くには、歩道がないと危険です。
- 商業施設はたくさんあり、生活には便利だと思いますが、福祉や文化的施設が乏しい。市の中心に文化センターや大きな図書館が無い為人と人のコミュニケーションがとれず、若い人中心の核家族に焦点をあてた街になっている気がする。病院でも、印旛日本医大があっても、地域の人がすぐに診てもらうことができず、住みやすい街といわれているが、実感がもてない。便利な街ではなく住みやすい街づくりをしてもらいたいといつも思っています。
- ニュータウンと言うだけあって、街に歴史が無いので魅力を感じない。買い物は便利だが、産婦人科や耳鼻科、皮膚科などが少なく年を取ってからの生活が不安。子供の遊び場が貧相。山や海が無い上、公園があっても幼児が遊べる程度の遊具しかなく、あとは芝生ばかり。ファミリー世帯が増えているので、小学校の子供が遊べるアスレチック等を作るべきではないのか。ちらほらと健康遊具を見るが使っている人は見ない。最低でも1つの小学校の学区に1つ、子供に行きたいと思わせるような公園を作ってほしい。マンションのエントランスのソファや、手ごたえのない遊具に座ってゲームをしている小学生を見ると不憫になります。
- 役所へ行った際、職員がサービス業であることを忘れ横柄とも思われる態度だった時に期待できないと思った。

仕事などのため、地域との接点が希薄な為

- 仕事上の都合により、一時的に移住している為。
- 日中は仕事で居ないので、近所の方と付き合う機会が無い。
- 仕事で忙しく、あまり関わりが持てない。

地域間や世代間、新旧住民間等に差別や不満などを感じる為

- 千葉NT 地域ばかり発展しているが、木下地区は不便になるばかりで、何故かNT 地区の新住民に田舎者扱いされバカにされる発言が多く、劣等感を感じる。
- ここに住んで50年以上になるけれど、今の住所は20年経ち初めから住んでいないので、よそ者みたいに感じます。なじめません。
- 年寄りが若い夫婦に対して意地悪な土地柄のせいとか、年上の方が年下に対してマウントしてくる。年寄りが「やらなくてよい」と言うので近所づきあいがしづらい。
- 両隣とも永住しているから。
- 住民の年齢層に偏りがある（団塊、団塊ジュニアが多すぎる）。
- 高齢の方々が多く住まわれていて、何事にも高齢者主体と考え、子供や若者が住みづらい為。
- 地域の差を感じる。

隣・近所づきあい等のコミュニケーションに問題がある為

- 信用できる人がいないから。昔からいる人がいばっているから。
- 田舎らしいせまい人間関係が苦手。車がないとどこへ行くにも不便。電車賃も高いので就職などで少し困る。
- 30年程住んでいるが、良い方もいらっしゃるが、人のうわさ話など、あまり聞きたくない内容とか勝手な事を言っていたり、意地悪をする方がいました。今はだいぶ落ち着いてきて、現在が一番良い状態に(立ち話で当たり触らずの内容)やっとなっているから。
- 印西、住んでいる所は好きです。ただあいさつの出来ない人が多すぎる。犬の散歩ですれ違った人、大人、子供に「こんにちは」と言ってもほぼ返ってこない。チラ見程度。元気に子供があいさつする時代は終わってしまった？と思い悲しいです。防犯上もとても良くありません。皆人見知りなのでしょうか。「あいさつ運動」など、自治会でもっと力を入れて声がけしやすい地区を築く一歩にして欲しいです。

不審な人がいる為

- 住宅地で50~60キロのスピードで走る住人や、ボールを蹴って人の家の車にぶつけても悪びれないで、注意しても反省しない。それが一部の人だけじゃないと分かった時、もっと思い遣りのあるまちにならないと誇りに思えない。
- 暴走族による爆音。交差点などでグルグルと回る（ドリフトなど）の走り屋。
- 迷惑行為をする隣人がいる。

外出が少ない為

- 我家は夫婦共障害者。外出も余りない。
- 外に出ない。

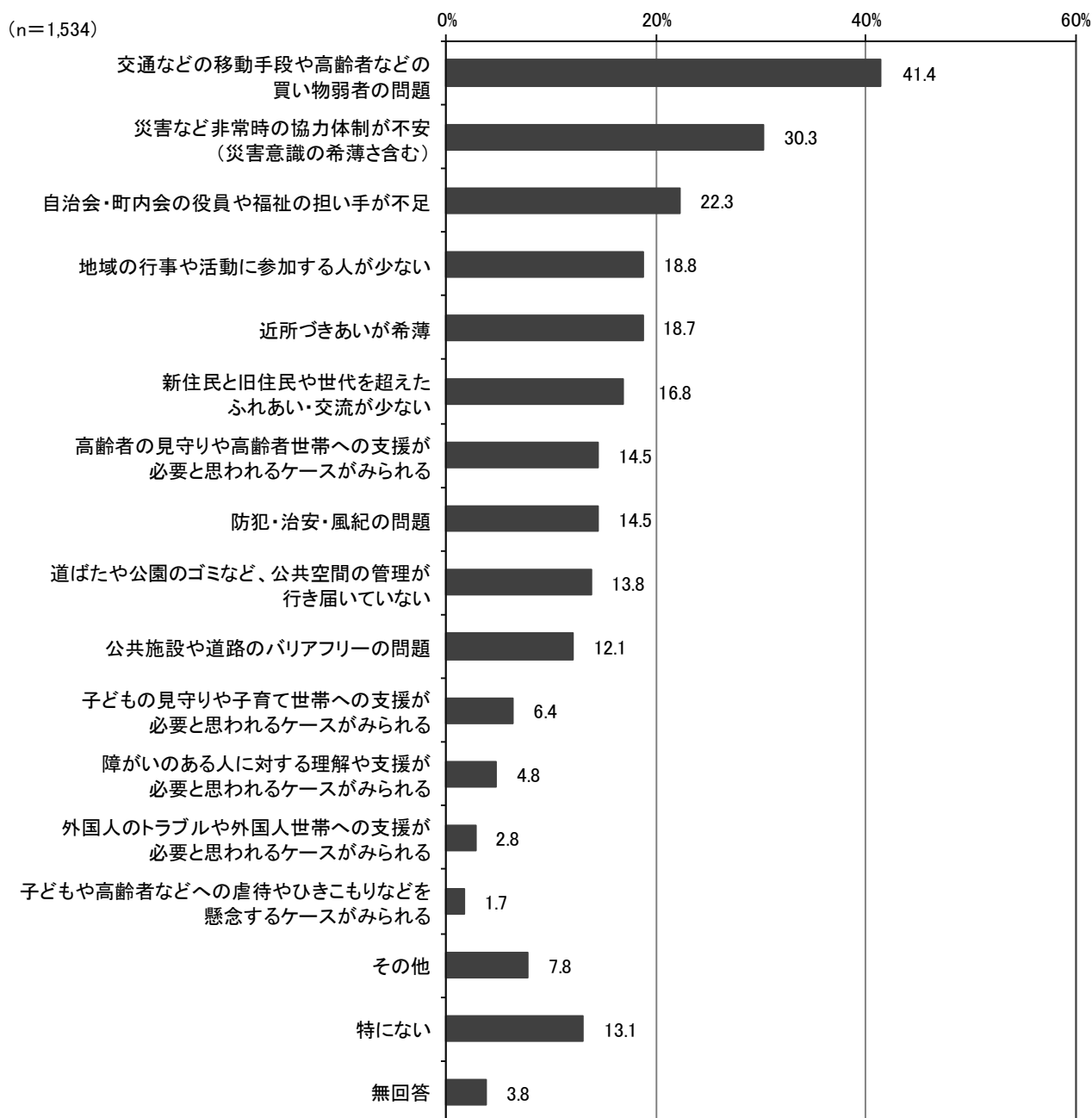
その他

- 若い世代が他の区域へ転居してしまう。
- 台風。利根川が心配。

- 地域住民は、良い人ばかりですが、1.引っ越して来た時の、不動産の条件が全然違う（例えば駅の位置）。2.駅まで遠い。3.集中浄化槽（早く解決して頂きたい）。4.毎年要望していても改善してくれない。5.家が売れば引越したい。いには野・千葉ニュータウン等はいいが、僻地を早く考えて下さい。
- 警察は市民の財産を守らないです。地域での車の盗難は相次ぎ、警察は打つ手が無いです。印西市警察能力の問題と思います。
- 老人向けのスポーツが盛んな事と道路が整備されていて走り易い以外は、未だ印西市にはなじめません。

問 11 身近な地域で気になること、問題と感ずることがありますか。(複数回答)

「交通などの移動手段や高齢者などの買い物弱者の問題」が 41.4%と最も多く、次いで「災害など非常時の協力体制が不安（災害意識の希薄さ含む）」が 30.3%、「自治会・町内会の役員や福祉の担い手が不足」が 22.3%となっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年齢別をみると、いずれも「交通などの移動手段や高齢者などの買い物弱者の問題」が最も多くなっています。また、18～29歳では「特でない」が、50～59歳では「自治会・町内会の役員や福祉の担い手が不足」が、全体より10ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、いずれも「交通などの移動手段や高齢者などの買い物弱者の問題」が最も多く、特に木下と小林では、全体より10ポイント以上多くなっています。また、ニュータウン中央北では「自治会・町内会の役員や福祉の担い手が不足」が、全体より10ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		近所づきあいが希薄	ふ新 れ住 れ民 あ い ・ 交 流 が 少 な い と 旧 住 民 や 世 代 を 超 え た	が地 域の 行事 や活 動に 参加 する 人	担自 自治 手が 会・ 町内 会の 役員 や福 祉の	な公 道ば 公共 空間 の管 理が 行き 届い てい	がの 支 援が 必要 と思 われ るケ ー スへ	子ど もが 見守 りや 子育 てケ ー スへ	がの 支 援が 必要 と思 われ るケ ー スへ	高 齢者 の見 守り や高 齢者 世帯 へ	み支 援が 必要 と思 われ るケ ー ス	障が いあ る人 に対 する 理 解や	ひき こも りな どを 懸念 する ケ ー ス	子 ども や高 齢者 など への 虐待 や	
合計 (n=1,534)		18.7	16.8	18.8	22.3	13.8	6.4	14.5	4.8	1.7					
年齢別	18～29歳 (n=127)	11.0	15.0	13.4	15.7	11.8	6.3	9.4	4.7	1.6					
	30～39歳 (n=189)	18.5	19.0	11.6	13.8	18.0	14.3	9.0	5.8	2.6					
	40～49歳 (n=251)	15.5	17.9	18.7	20.3	14.7	10.8	9.2	3.6	1.6					
	50～59歳 (n=246)	17.1	15.0	24.4	32.5	12.6	5.7	17.1	4.5	2.4					
	60～69歳 (n=321)	19.0	17.1	23.4	28.0	16.8	2.8	17.4	5.0	2.5					
	70歳以上 (n=371)	24.8	16.7	17.0	18.1	9.2	2.4	19.1	5.4	0.3					
地区別	木下 (n=96)	26.0	16.7	20.8	15.6	12.5	5.2	22.9	4.2	4.2					
	小林 (n=129)	18.6	24.0	16.3	21.7	13.2	3.1	10.1	7.0	1.6					
	大森・永治 (n=105)	14.3	25.7	23.8	19.0	11.4	3.8	17.1	2.9	0.0					
	ニュータウン中央北 (n=197)	19.8	16.8	21.3	33.0	11.7	6.1	15.7	4.6	1.5					
	船穂・牧の原 (n=363)	20.1	16.5	17.4	19.8	19.3	10.5	11.3	4.4	1.9					
	ニュータウン中央南 (n=276)	23.6	14.1	18.8	21.7	13.0	6.2	14.9	6.2	2.2					
	印旛 (n=211)	8.5	12.8	17.5	21.8	11.4	2.8	14.2	1.9	0.5					
本荻 (n=133)	20.3	17.3	20.3	26.3	12.8	9.0	18.8	8.3	2.3						
(単位:%)		スへの がの み支 ら援 れが 必 要 と思 われ るケ ー ス	ど の 通 買 い の 物 の 移 動 手 段 や 高 齢 者 な	防 犯 ・ 治 安 ・ 風 紀 の 問 題	パ 公 共 ア 施 フ 設 り 道 路 の 問 題	安 災 害 な ど 非 常 時 の 協 力 体 制 が 不	そ の 他	特 に ない	無 回 答						
合計 (n=1,534)		2.8	41.4	14.5	12.1	30.3	7.8	13.1	3.8						
年齢別	18～29歳 (n=127)	2.4	34.6	12.6	11.0	23.6	10.2	25.2	2.4						
	30～39歳 (n=189)	4.8	28.0	18.5	9.5	26.5	12.2	11.6	2.6						
	40～49歳 (n=251)	4.0	39.0	19.9	12.0	27.9	10.8	15.9	1.6						
	50～59歳 (n=246)	2.8	48.8	15.0	14.6	34.6	8.5	7.3	2.8						
	60～69歳 (n=321)	2.2	43.0	13.4	16.5	34.0	5.3	10.6	3.4						
	70歳以上 (n=371)	1.9	46.4	9.4	8.4	30.5	4.6	14.6	7.3						
地区別	木下 (n=96)	1.0	56.3	14.6	14.6	35.4	5.2	13.5	3.1						
	小林 (n=129)	1.6	58.1	14.0	16.3	32.6	4.7	7.8	1.6						
	大森・永治 (n=105)	8.6	43.8	13.3	11.4	22.9	10.5	11.4	6.7						
	ニュータウン中央北 (n=197)	2.5	35.0	14.7	12.7	31.0	7.1	12.7	2.0						
	船穂・牧の原 (n=363)	3.3	30.0	15.7	12.1	27.3	11.0	14.3	2.5						
	ニュータウン中央南 (n=276)	3.6	39.1	15.2	14.1	30.1	8.7	16.7	2.2						
	印旛 (n=211)	1.4	48.8	14.7	9.5	33.2	5.7	13.3	3.3						
本荻 (n=133)	0.8	51.1	12.0	7.5	38.3	5.3	9.0	3.8							

同居者別をみると、乳児（1歳未満）では「交通などの移動手段や高齢者などの買い物弱者の問題」と「災害など非常時の協力体制が不安」が、それ以外の同居者では「交通などの移動手段や高齢者などの買い物弱者の問題」が最も多くなっています。また、乳児（1歳未満）では「防犯・治安・風紀の問題」が、幼児（1歳から就学前まで）では「子どもの見守りや子育て世帯への支援が必要と思われるケースがみられる」が、介護を必要とする人では「高齢者の見守りや高齢者世帯への支援が必要と思われるケースがみられる」と「交通などの移動手段や高齢者などの買い物弱者の問題」が、障がいのある人では「地域の行事や活動に参加する人が少ない」と「自治会・町内会の役員や福祉の担い手が不足」、「障がいのある人に対する理解や支援が必要と思われるケースがみられる」、「交通などの移動手段や高齢者などの買い物弱者の問題」が、いずれも全体より10ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		近所づきあいが希薄	ふれあい・旧住民や世代を超えた交流が少ない	地域の行事や活動に参加する人が少ない	自治会・町内会の役員や福祉の担い手が不足	公園や公園の管理が行き届いていない	道路や公園のゴミなどがみられる	子どもの見守りや子育て世帯への支援が必要と思われるケースがみられる	高齢者の見守りや高齢者世帯への支援が必要と思われるケースがみられる	障がいのある人に対する理解や支援が必要と思われるケースがみられる	子どもや高齢者などへの虐待や懸念するケースがみられる
同居者別	合計 (n=1,534)	18.7	16.8	18.8	22.3	13.8	6.4	14.5	4.8	1.7	
	乳児(1歳未満) (n=30)	16.7	20.0	3.3	13.3	20.0	10.0	6.7	3.3	3.3	
	小学校前の幼児 (n=177)	20.3	18.6	14.1	12.4	20.3	17.5	6.8	1.7	0.6	
	小学生 (n=172)	15.7	19.2	20.9	23.3	16.3	15.1	11.0	7.0	1.7	
	中学生・高校生 (n=181)	12.2	14.4	21.0	19.9	11.6	8.3	7.7	2.2	0.6	
	65歳以上の人 (n=528)	20.8	18.9	22.7	24.6	13.8	3.8	19.1	6.3	2.3	
	介護を必要とする人 (n=84)	15.5	16.7	25.0	26.2	15.5	6.0	27.4	8.3	2.4	
	障がいのある人 (n=102)	22.5	18.6	32.4	33.3	14.7	6.9	22.5	22.5	4.9	
	いずれもない (n=518)	18.7	15.4	18.5	23.7	12.5	3.1	13.9	2.3	1.4	
(単位:%)		外国人世帯への支援が求められる必要と思われる外国人世帯	交通などの移動手段や高齢者などの買い物弱者の問題	防犯・治安・風紀の問題	公共施設や道路の問題	災害など非常時の協力体制が不安	その他	特になし	無回答		
同居者別	合計 (n=1,534)	2.8	41.4	14.5	12.1	30.3	7.8	13.1	3.8		
	乳児(1歳未満) (n=30)	6.7	30.0	26.7	20.0	30.0	16.7	6.7	6.7		
	小学校前の幼児 (n=177)	3.4	27.1	19.2	12.4	25.4	13.0	16.4	2.3		
	小学生 (n=172)	5.8	32.6	19.8	14.0	27.9	7.0	16.3	2.3		
	中学生・高校生 (n=181)	3.3	35.9	19.3	8.8	27.1	11.6	12.7	3.3		
	65歳以上の人 (n=528)	2.7	49.4	12.5	13.6	32.6	6.6	11.9	3.6		
	介護を必要とする人 (n=84)	1.2	54.8	16.7	13.1	33.3	6.0	6.0	3.6		
	障がいのある人 (n=102)	6.9	52.9	12.7	13.7	32.4	4.9	10.8	2.0		
	いずれもない (n=518)	1.5	42.9	12.9	12.5	31.5	6.6	13.9	3.3		

住居形態別をみると、社宅では「交通などの移動手段や高齢者などの買い物弱者の問題」と「災害など非常時の協力体制が不安」が、民間賃貸マンションでは「近所づきあいが希薄」が、それ以外の住居形態では「交通などの移動手段や高齢者などの買い物弱者の問題」が最も多く、特に民間賃貸マンションの「近所づきあいが希薄」では、全体より10ポイント以上多くなっています。また、都市再生機構の賃貸では「近所づきあいが希薄」が、民間賃貸マンションでは「子どもの見守りや子育て世帯への支援が必要と思われるケースがみられる」と「高齢者の見守りや高齢者世帯への支援が必要と思われるケースがみられる」、「防犯・治安・風紀の問題」、「公共施設や道路のバリアフリーの問題」、「その他」が、民間賃貸アパートとその他では「特になし」が、全体より10ポイント以上多くなっています。

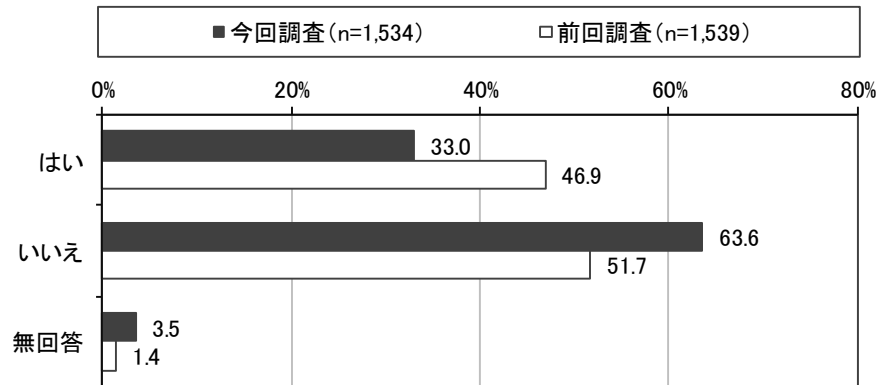
(単位:%)		近所づきあいが希薄	ふ・新 れ住 あ民 い旧 ・住 交民 流が が少 少不 ない を 超 え た	が地 少域 ないの 行事 や活 動に 参加 する 人	担自 自治 手会 が・ 不町 足内 会 の 役 員 や 福 祉 の	な公 道ば 空た 間のや 管公 理園 がの 行ゴミ きなど、 届いて い	がの 支支 援援 がが 必必 要要 と思 われ るる ケケ ー スス へ ス へ	がの 支支 援援 がが 必必 要要 と思 われ るる ケケ ー ス へ ス へ	み支 ら援 れるが 必要 と思 われ るる ケケ ー ス が や	障障 がい のの あある るる に 対 する 理 解 が や	ひ子 がみ ここ もも りり なな どど をを 懸懸 念念 す る ケケ ー ス が や
合計 (n=1,534)		18.7	16.8	18.8	22.3	13.8	6.4	14.5	4.8	1.7	
住居形態別	自分又は配偶者の持ち家 (n=1,156)	19.9	17.5	19.3	23.3	15.2	6.6	14.4	4.8	1.6	
	親・親せきの持ち家 (n=203)	8.9	15.8	20.7	22.7	10.3	4.9	17.2	3.9	2.5	
	都市再生機構の賃貸 (n=58)	31.0	17.2	20.7	17.2	8.6	5.2	19.0	8.6	1.7	
	社宅 (n=9)	11.1	11.1	11.1	22.2	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	
	民間賃貸マンション (n=8)	50.0	12.5	25.0	25.0	0.0	25.0	25.0	12.5	0.0	
	民間賃貸アパート (n=22)	22.7	13.6	0.0	0.0	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	
	その他 (n=45)	15.6	11.1	8.9	13.3	4.4	2.2	8.9	6.7	2.2	
(単位:%)		スへの がの み支 ら人 れ援 がの らト るラ る弱 る者 要ブ と思 とル 思や わ外 れ国 る人 ケ世 ー帯	ど交 の通 買な いの 物移 の動 手手 段段 や高 問高 題齢 者者 な	防 犯 ・ 治 安 ・ 風 紀 の 問 題	パ公 リ共 ア施 フ設 リや ー道 の路 のの 問問 題題	安災 害害 ななど 非常 時の 協協 力力 体体 制制 がが 不	そ の 他	特 に な い	無 回 答		
合計 (n=1,534)		2.8	41.4	14.5	12.1	30.3	7.8	13.1	3.8		
住居形態別	自分又は配偶者の持ち家 (n=1,156)	2.9	40.8	14.8	12.1	31.3	7.2	11.6	4.3		
	親・親せきの持ち家 (n=203)	2.0	45.8	15.8	12.8	25.1	8.4	14.8	1.0		
	都市再生機構の賃貸 (n=58)	3.4	50.0	12.1	15.5	34.5	12.1	22.4	1.7		
	社宅 (n=9)	0.0	33.3	11.1	11.1	33.3	11.1	22.2	0.0		
	民間賃貸マンション (n=8)	0.0	37.5	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0		
	民間賃貸アパート (n=22)	4.5	40.9	0.0	4.5	36.4	13.6	27.3	0.0		
	その他 (n=45)	6.7	33.3	8.9	6.7	22.2	11.1	26.7	4.4		

3. 地域での活動やボランティア活動について

問 12 あなたは、地域で活動を行うさまざまな組織・団体に加入していますか。(単数回答)

「はい」が33.0%、「いいえ」が63.6%となっています。

前回調査と比較すると、「いいえ」が11.9ポイント前回より多く、反対に「はい」が13.9ポイント前回より少なくなっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年齢別をみると、いずれも「いいえ」が最も多く、特に18～29歳では、全体より10ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、いずれも「いいえ」が最も多く、特に木下では、全体より10ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		はい	いいえ	無回答
合計	(n=1,534)	33.0	63.6	3.5
年齢別	18～29歳	5.5	92.9	1.6
	30～39歳	27.0	70.4	2.6
	40～49歳	40.2	58.2	1.6
	50～59歳	31.7	65.4	2.8
	60～69歳	40.8	56.7	2.5
	70歳以上	34.8	58.5	6.7
地区別	木下	22.9	74.0	3.1
	小林	39.5	57.4	3.1
	大森・永治	36.2	61.9	1.9
	ニュータウン中央北	40.1	57.4	2.5
	船穂・牧の原	32.8	65.6	1.7
	ニュータウン中央南	27.5	69.9	2.5
	印旛	33.2	64.0	2.8
	本荃	36.1	59.4	4.5

同居者別をみると、いずれも「いいえ」が最も多くなっています。また、小学生と中学生・高校生では「はい」が、全体より10ポイント以上多くなっています。

住居形態別をみると、いずれも「いいえ」が最も多く、特に自分又は配偶者の持ち家以外では、全体より10ポイント以上多くなっています。

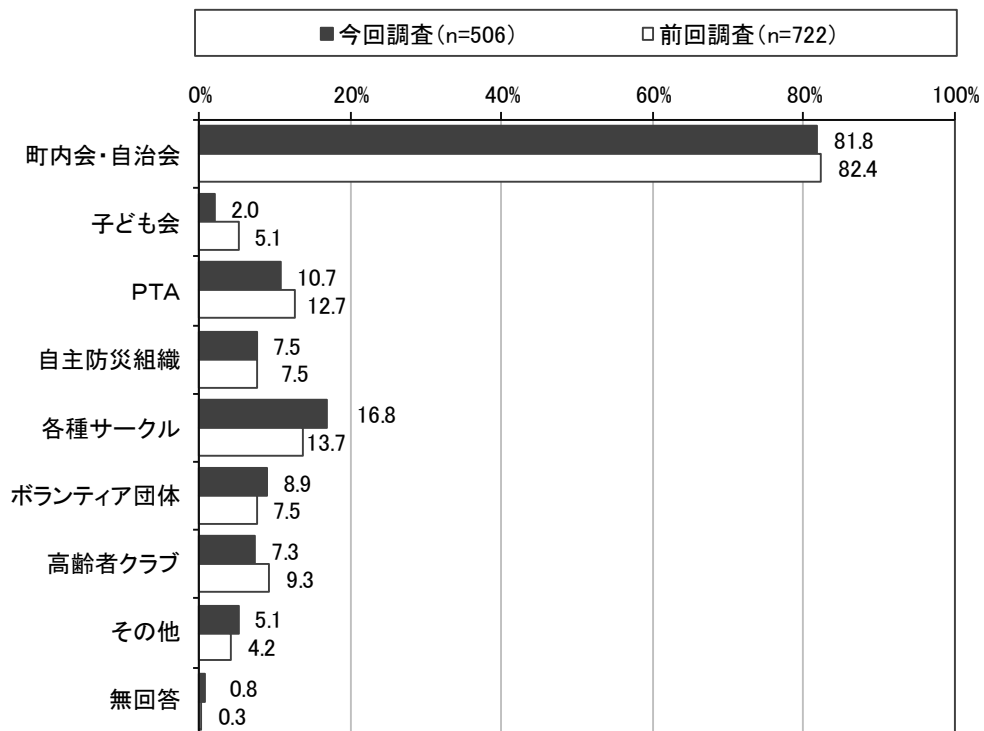
(単位:%)		はい	いいえ	無回答
合計 (n=1,534)		33.0	63.6	3.5
同居者別	乳児(1歳未満) (n=30)	26.7	73.3	0.0
	小学校前の幼児 (n=177)	31.6	67.8	0.6
	小学生 (n=172)	46.5	50.0	3.5
	中学生・高校生 (n=181)	44.2	52.5	3.3
	65歳以上の人 (n=528)	34.7	61.6	3.8
	介護を必要とする人 (n=84)	39.3	57.1	3.6
	障がいのある人 (n=102)	29.4	67.6	2.9
	いずれもない (n=518)	29.2	67.4	3.5
住居形態別	自分又は配偶者の持ち家 (n=1,156)	38.5	57.9	3.6
	親・親せきの持ち家 (n=203)	16.3	80.8	3.0
	都市再生機構の賃貸 (n=58)	13.8	84.5	1.7
	社宅 (n=9)	11.1	88.9	0.0
	民間賃貸マンション (n=8)	12.5	87.5	0.0
	民間賃貸アパート (n=22)	4.5	95.5	0.0
	その他 (n=45)	13.3	82.2	4.4

(問 12で「はい」を選んだ方)

問 12-1 加入している組織・団体は何ですか。(複数回答)

「町内会・自治会」が81.8%と最も多く、次いで「各種サークル」が16.8%、「PTA」が10.7%となっています。

前回調査と比較すると、ほぼ同じ傾向となっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

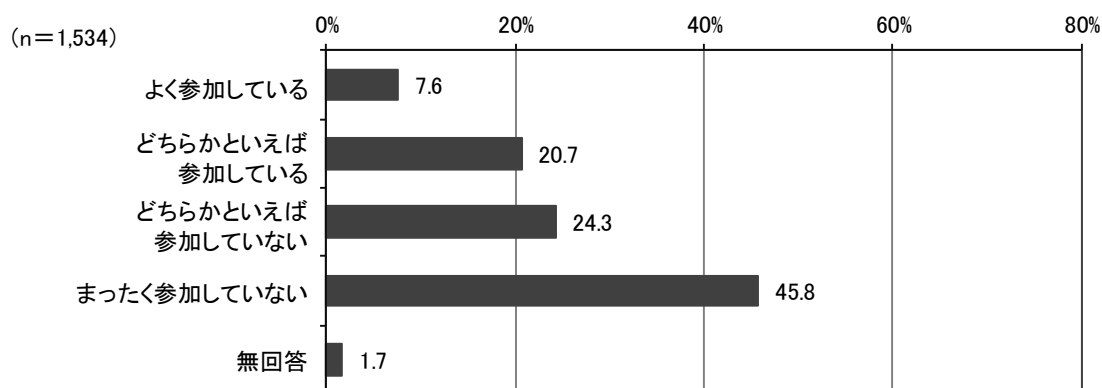
年齢別をみると、いずれも「町内会・自治会」が最も多く、特に39歳以下では、全体より10ポイント以上多くなっています。また、18～29歳では「その他」が、40～49歳では「PTA」が、70歳以上では「各種サークル」と「ボランティア団体」、「高齢者クラブ」が、いずれも全体より10ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、いずれも「町内会・自治会」が最も多くなっています。また、ニュータウン中央北では「各種サークル」が、本埜では「その他」が、ともに全体より10ポイント以上多くなっています。

(単位：%)		町内会・自治会	子ども会	P T A	自主 防 災 組 織	各 種 サ ー ク ル	ボ ラ ン テ ィ ア 団 体	高 齢 者 ク ラ ブ	そ の 他	無 回 答
合計 (n=506)		81.8	2.0	10.7	7.5	16.8	8.9	7.3	5.1	0.8
年 齢 別	18～29歳 (n=7)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0
	30～39歳 (n=51)	96.1	5.9	19.6	5.9	5.9	0.0	2.0	2.0	0.0
	40～49歳 (n=101)	84.2	5.9	36.6	8.9	6.9	3.0	0.0	5.0	0.0
	50～59歳 (n=78)	91.0	0.0	3.8	7.7	7.7	6.4	0.0	7.7	0.0
	60～69歳 (n=131)	83.2	0.8	0.8	9.2	22.9	6.9	4.6	6.1	0.8
	70歳以上 (n=129)	65.9	0.0	0.0	6.2	30.2	20.9	23.3	3.1	2.3
地 区 別	木下 (n=22)	81.8	4.5	22.7	4.5	18.2	18.2	9.1	4.5	0.0
	小林 (n=51)	78.4	2.0	7.8	3.9	19.6	11.8	2.0	7.8	2.0
	大森・永治 (n=38)	73.7	5.3	13.2	15.8	18.4	2.6	7.9	2.6	2.6
	ニュータウン中央北 (n=79)	89.9	0.0	17.7	7.6	29.1	6.3	7.6	3.8	0.0
	船穂・牧の原 (n=119)	91.6	0.8	9.2	5.9	7.6	6.7	5.9	1.7	0.0
	ニュータウン中央南 (n=76)	75.0	3.9	9.2	10.5	25.0	7.9	6.6	2.6	0.0
	印旛 (n=70)	82.9	2.9	4.3	5.7	8.6	8.6	14.3	5.7	1.4
	本埜 (n=48)	62.5	0.0	10.4	8.3	14.6	18.8	6.3	18.8	2.1

問 13 あなたは現在、地域での活動やボランティア活動などに参加していますか。(単数回答)

「まったく参加していない」が45.8%と最も多く、「どちらかといえば参加していない」(24.3%)と合わせた“参加していない”は70.1%となっています。反対に、「よく参加している」(7.6%)と「どちらかといえば参加している」(20.7%)合わせた“参加している”は28.3%となっています。



●クロス集計 (グレー部分は最多項目)

年齢別をみると、いずれも「まったく参加していない」が最も多く、特に39歳以下では、全体より10ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、いずれも「まったく参加していない」が最も多く、特に木下とニュータウン中央南では、全体より5ポイント以上多くなっています。また、大森・永治では「よく参加している」が、小林と本埜では「どちらかといえば参加している」が、印旛では「どちらかといえば参加していない」が、いずれも全体より5ポイント以上多くなっています。

(単位: %)		よく参加している	どちらかといえば参加している	どちらかといえば参加していない	まったく参加していない	無回答	
合計	(n=1,534)	7.6	20.7	24.3	45.8	1.7	
年齢別	18~29歳	(n=127)	0.0	3.9	17.3	78.0	0.8
	30~39歳	(n=189)	3.2	16.9	17.5	60.3	2.1
	40~49歳	(n=251)	9.2	22.7	23.9	44.2	0.0
	50~59歳	(n=246)	5.7	18.7	26.8	48.0	0.8
	60~69歳	(n=321)	11.2	22.4	28.7	35.5	2.2
	70歳以上	(n=371)	9.4	25.6	25.9	36.7	2.4
地区別	木下	(n=96)	6.3	16.7	24.0	52.1	1.0
	小林	(n=129)	8.5	31.0	27.9	30.2	2.3
	大森・永治	(n=105)	15.2	22.9	17.1	41.0	3.8
	ニュータウン中央北	(n=197)	3.0	21.8	28.4	44.7	2.0
	船穂・牧の原	(n=363)	5.8	20.1	23.1	49.3	1.7
	ニュータウン中央南	(n=276)	6.5	14.1	22.5	55.1	1.8
	印旛	(n=211)	11.4	19.4	31.3	36.5	1.4
	本埜	(n=133)	9.0	27.1	18.0	45.9	0.0

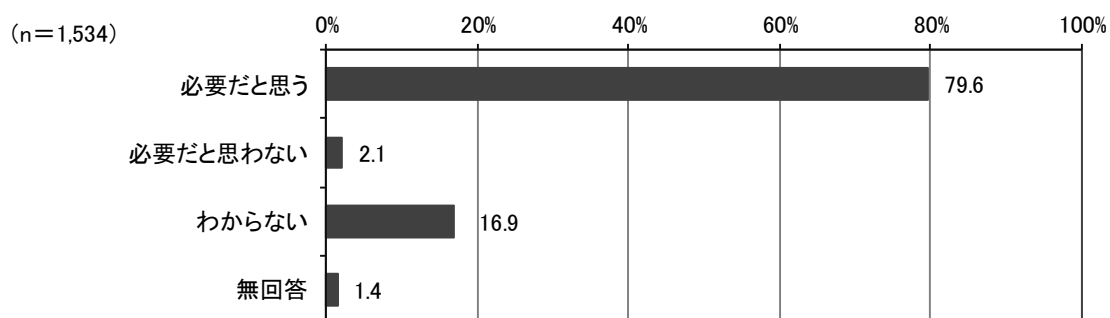
同居者別をみると、いずれも「まったく参加していない」が最も多く、特に乳児（1歳未満）では全体より10ポイント以上多くなっています。

住居形態別をみると、いずれも「まったく参加していない」が最も多く、特に自分又は配偶者の持ち家とその他を除く住居形態別では、全体より10ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		よく参加している	参加しているといえ	参加してはいない	まったく参加していない	無回答
合計 (n=1,534)		7.6	20.7	24.3	45.8	1.7
同居者別	乳児(1歳未満) (n=30)	10.0	10.0	13.3	66.7	0.0
	小学校前の幼児 (n=177)	6.8	20.3	22.0	49.7	1.1
	小学生 (n=172)	8.7	30.2	26.7	33.7	0.6
	中学生・高校生 (n=181)	11.0	23.2	31.5	33.7	0.6
	65歳以上の人 (n=528)	10.4	21.0	24.8	41.3	2.5
	介護を必要とする人 (n=84)	13.1	20.2	25.0	41.7	0.0
	障がいのある人 (n=102)	7.8	20.6	23.5	48.0	0.0
	いずれもない (n=518)	4.8	18.5	23.7	51.4	1.5
住居形態別	自分又は配偶者の持ち家 (n=1,156)	8.7	23.3	27.0	39.4	1.6
	親・親せきの持ち家 (n=203)	4.4	11.8	17.2	65.0	1.5
	都市再生機構の賃貸 (n=58)	3.4	10.3	12.1	72.4	1.7
	社宅 (n=9)	0.0	0.0	11.1	88.9	0.0
	民間賃貸マンション (n=8)	0.0	12.5	0.0	87.5	0.0
	民間賃貸アパート (n=22)	0.0	4.5	0.0	90.9	4.5
	その他 (n=45)	4.4	8.9	31.1	55.6	0.0

問 14 あなたは、地域での支え合い、助け合いの必要性についてどう思いますか。(単数回答)

「必要だと思う」が79.6%と最も多く、次いで「わからない」が16.9%、「必要だと思わない」が2.1%となっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年齢別をみると、いずれも「必要だと思う」が最も多くなっています。また、18～29歳では「わからない」が全体より5ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、全体とほぼ同じ傾向となっています。

(単位:%)		必要 だ と 思 う	必要 だ と 思 わ ない	わ か ら ない	無 回 答	
合計	(n=1,534)	79.6	2.1	16.9	1.4	
年齢別	18～29歳	(n=127)	73.2	2.4	23.6	0.8
	30～39歳	(n=189)	79.9	1.6	17.5	1.1
	40～49歳	(n=251)	76.5	2.0	21.5	0.0
	50～59歳	(n=246)	77.2	3.7	17.9	1.2
	60～69歳	(n=321)	82.9	1.2	14.3	1.6
	70歳以上	(n=371)	82.5	2.2	13.2	2.2
地区別	木下	(n=96)	77.1	0.0	19.8	3.1
	小林	(n=129)	72.9	3.9	20.9	2.3
	大森・永治	(n=105)	81.9	3.8	12.4	1.9
	ニュータウン中央北	(n=197)	76.6	3.6	18.8	1.0
	船穂・牧の原	(n=363)	81.0	1.7	16.3	1.1
	ニュータウン中央南	(n=276)	79.7	1.8	16.3	2.2
	印旛	(n=211)	82.5	1.4	15.6	0.5
	本埜	(n=133)	82.0	0.8	16.5	0.8

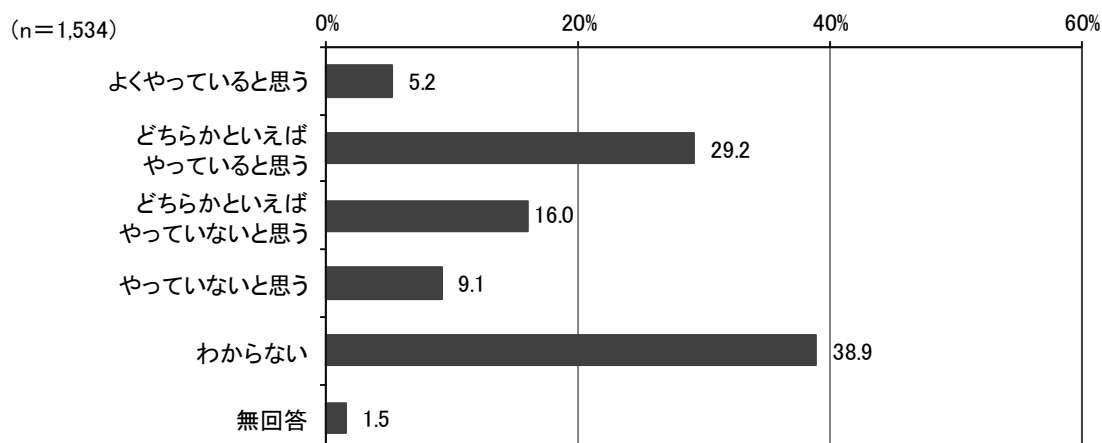
住居形態別をみると、民間賃貸マンションでは「必要だと思う」と「わからない」が、それ以外の居住形態では「必要だと思う」が最も多くなっています。また、親・親せきの持ち家と社宅、民間賃貸マンション、民間賃貸アパートでは「わからない」が、全体より10ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		必要 だと思 う	必要 だと思 わない	わ か ら な い	無 回 答	
合計	(n=1,534)	79.6	2.1	16.9	1.4	
住 居 形 態 別	自分又は配偶者の持ち家	(n=1,156)	81.7	1.9	15.0	1.5
	親・親せきの持ち家	(n=203)	73.9	2.0	23.2	1.0
	都市再生機構の賃貸	(n=58)	77.6	3.4	19.0	0.0
	社宅	(n=9)	66.7	0.0	33.3	0.0
	民間賃貸マンション	(n=8)	50.0	0.0	50.0	0.0
	民間賃貸アパート	(n=22)	59.1	4.5	36.4	0.0
	その他	(n=45)	71.1	6.7	20.0	2.2

問 15 あなたは、印西市における地域での支え合い、助け合いについてどう感じていますか。

(単数回答)

「わからない」が 38.9%と最も多くなっています。次いで「どちらかといえばやっていると思う」が 29.2%で、「よくやっていると思う」(5.2%)と合わせた“やっていると思う”は 34.4%となっています。反対に、「どちらかといえばやっていないと思う」(16.0%)と「やっていないと思う」(9.1%)合わせた“やっていないと思う”は 25.1%となっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年齢別をみると、いずれも「わからない」が最も多く、特に 39 歳以下では全体より 5 ポイント以上多くなっています。また、30～39 歳では「やっていないと思う」が、全体より 5 ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、小林と本埜では「どちらかといえばやっていると思う」が、大森・永治では「どちらかといえばやっていると思う」と「わからない」が、それ以外の地区では「わからない」が最も多くなっています。また、小林と本埜では「どちらかといえばやっていると思う」が、大森・永治では「よくやっていると思う」が、全体より 5 ポイント以上多くなっています。

		思 よ く や っ て い る と	や ど ち ら か い え ば や っ て い る と い う ば	や ど ち ら か い え ば や っ て い な い と い う ば	や っ て い な い と い う	わ か ら な い	無 回 答
(単位:%)							
合計 (n=1,534)		5.2	29.2	16.0	9.1	38.9	1.5
年齢別	18～29歳 (n=127)	4.7	21.3	13.4	11.0	48.8	0.8
	30～39歳 (n=189)	2.6	21.7	12.2	15.9	46.6	1.1
	40～49歳 (n=251)	3.6	29.1	14.7	10.8	41.4	0.4
	50～59歳 (n=246)	4.1	30.5	16.7	8.9	39.8	0.0
	60～69歳 (n=321)	3.7	33.3	20.2	7.2	33.6	1.9
	70歳以上 (n=371)	9.7	31.3	16.4	5.9	34.0	2.7
地区別	木下 (n=96)	7.3	30.2	13.5	8.3	38.5	2.1
	小林 (n=129)	6.2	34.9	17.1	12.4	27.9	1.6
	大森・永治 (n=105)	11.4	30.5	18.1	6.7	30.5	2.9
	ニュータウン中央北 (n=197)	5.1	29.4	15.2	9.1	39.6	1.5
	船穂・牧の原 (n=363)	2.5	27.8	16.5	11.0	40.5	1.7
	ニュータウン中央南 (n=276)	4.7	24.6	15.9	10.1	43.8	0.7
	印旛 (n=211)	7.6	25.6	18.5	5.7	41.2	1.4
	本埜 (n=133)	2.3	39.8	12.8	7.5	36.1	1.5

同居者別をみると、小学生と中学生・高校生、介護を必要とする人では「どちらかといえばやっていると思う」が、それ以外の同居者では「わからない」が最も多く、特に乳児（1歳未満）の「わからない」では、全体より10ポイント以上多くなっています。

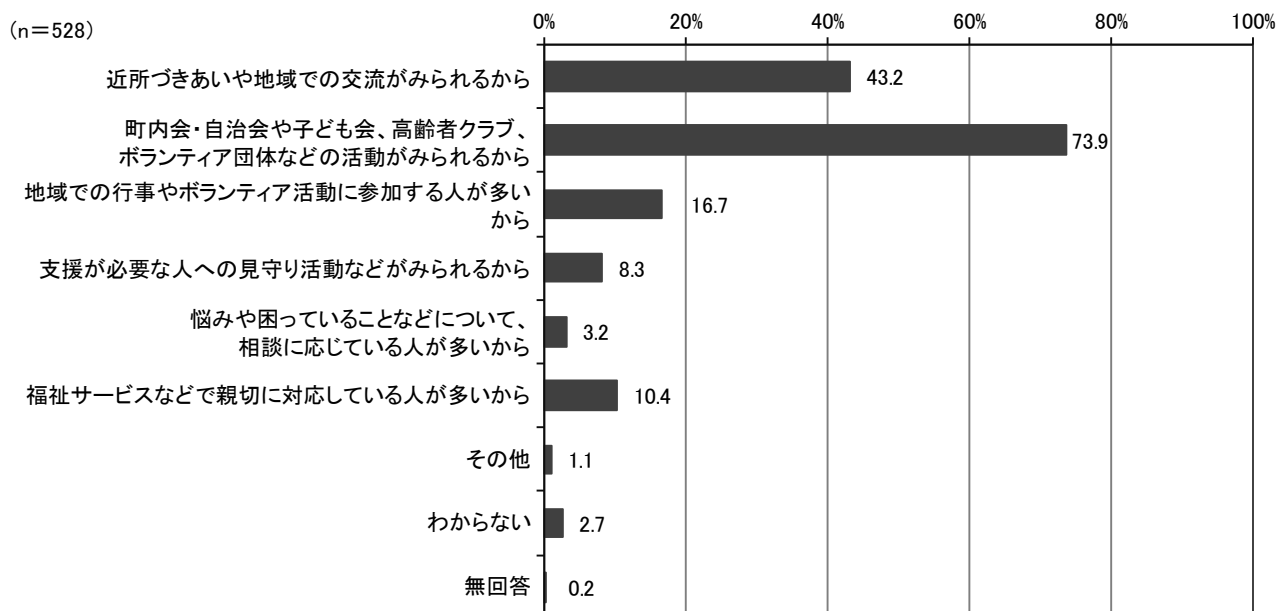
住居形態別をみると、いずれも「わからない」が最も多く、特に親・親せきの持ち家と社宅、民間賃貸マンション、民間賃貸アパートでは、いずれも全体より10ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		よくやっている と思う	どちらかとい えうば	どちらかとい えうば	やっていない と思う	わからない	無回答	
合計	(n=1,534)	5.2	29.2	16.0	9.1	38.9	1.5	
同居者別	乳児(1歳未満)	(n=30)	0.0	20.0	6.7	13.3	60.0	0.0
	小学校前の幼児	(n=177)	2.8	27.7	13.0	14.7	41.2	0.6
	小学生	(n=172)	5.2	33.1	18.0	11.6	32.0	0.0
	中学生・高校生	(n=181)	6.1	32.6	19.3	9.4	32.0	0.6
	65歳以上の人	(n=528)	5.3	31.4	15.7	7.0	38.4	2.1
	介護を必要とする人	(n=84)	4.8	33.3	25.0	6.0	28.6	2.4
	障がいのある人	(n=102)	6.9	27.5	19.6	5.9	39.2	1.0
いずれもない	(n=518)	5.4	26.4	16.6	9.1	41.1	1.4	
住居形態別	自分又は配偶者の持ち家	(n=1,156)	5.2	31.2	17.9	9.2	35.1	1.4
	親・親せきの持ち家	(n=203)	3.9	22.7	10.3	9.4	52.7	1.0
	都市再生機構の賃貸	(n=58)	10.3	20.7	12.1	10.3	46.6	0.0
	社宅	(n=9)	0.0	22.2	11.1	11.1	55.6	0.0
	民間賃貸マンション	(n=8)	0.0	12.5	25.0	12.5	50.0	0.0
	民間賃貸アパート	(n=22)	0.0	13.6	9.1	13.6	63.6	0.0
	その他	(n=45)	6.7	31.1	6.7	6.7	44.4	4.4

(問 15で「よくやっていると思う」または「どちらかといえばやっていると思う」を選んだ方)

問 15-1 地域での支え合い、助け合いをやっていると思う理由は何ですか。(複数回答)

「町内会・自治会や子ども会、高齢者クラブ、ボランティア団体などの活動がみられるから」が73.9%と最も多く、次いで「近所づきあいや地域での交流がみられるから」が43.2%、「地域での行事やボランティア活動に参加する人が多いから」が16.7%となっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年齢別をみると、いずれも「町内会・自治会や子ども会、高齢者クラブ、ボランティア団体などの活動がみられるから」が最も多く、特に 50～59 歳では全体より5ポイント以上多くなっています。また、60～69 歳では「近所づきあいや地域での交流がみられるから」が、全体より5ポイント以上多くなっています。

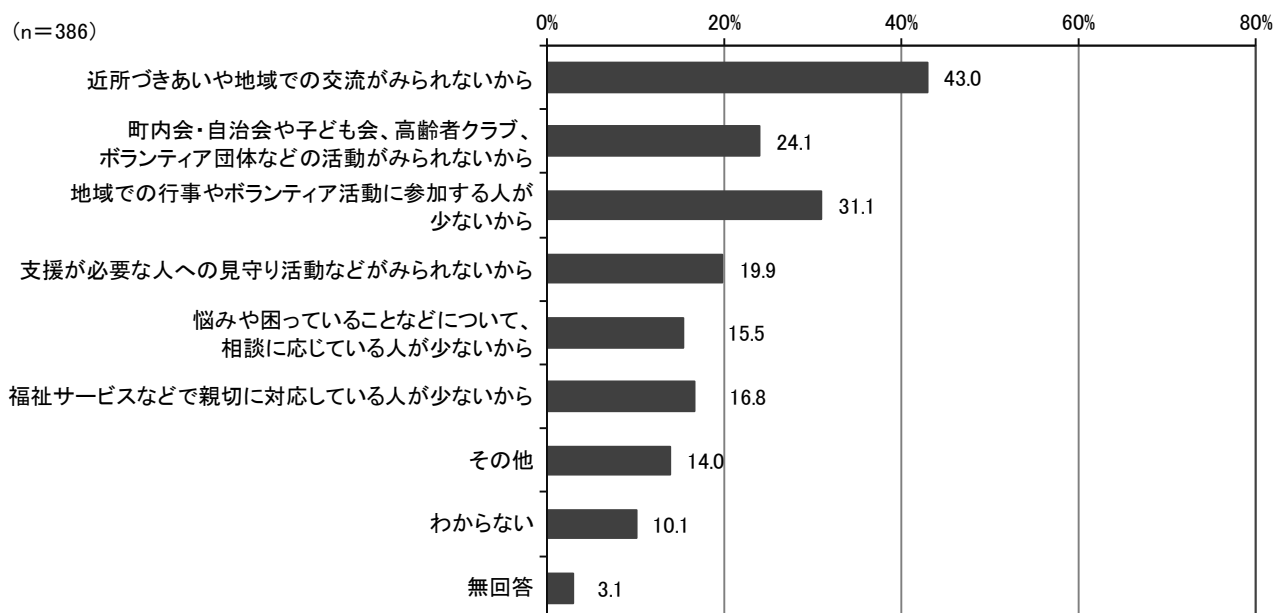
地区別をみると、いずれも「町内会・自治会や子ども会、高齢者クラブ、ボランティア団体などの活動がみられるから」が最も多く、特に小林とニュータウン中央北では、全体より5ポイント以上多くなっています。また、大森・永治と印旛では「近所づきあいや地域での交流がみられるから」が、小林と本埜では「地域での行事やボランティア」が、ニュータウン中央北では「支援が必要な人への見守り活動などがみられるから」が、木下と本埜では「福祉サービスなどで親切に対応している人が多いから」が、いずれも全体より5ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		み ら れ る か ら	近 所 づ き あ い や 地 域 で の 交 流 が	団 体 な ど の 活 動 が み ら れ る か ら	高 齢 者 ク ラ ブ 、 自 治 会 や 子 ど も 会 、	町 内 会 ・ 自 治 会 や ボ ラ ン テ ィ ア	活 動 に 参 加 す る 人 が 多 い か ら	地 域 で の 行 事 や ボ ラ ン テ ィ ア	支 援 が 必 要 な 人 へ の 見 守 り 活 動	な ど が み ら れ る か ら	支 援 が 必 要 な 人 へ の 見 守 り 活 動	多 い か ら	悩 み や 困 っ て い る こ と な ど に つ い て 、 相 談 に 応 じ て い る 人 が	対 応 し て い る 人 が 多 い か ら	福 祉 サ ー ビ ス な ど で 親 切 に	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答	
合計	(n=528)	43.2	73.9	16.7	8.3	3.2	10.4	1.1	2.7	0.2									
年齢別	18～29歳	(n=33)	30.3	60.6	15.2	6.1	6.1	12.1	0.0	6.1	0.0								
	30～39歳	(n=46)	45.7	69.6	8.7	6.5	6.5	6.5	0.0	4.3	0.0								
	40～49歳	(n=82)	40.2	78.0	15.9	7.3	3.7	2.4	2.4	2.4	0.0								
	50～59歳	(n=85)	36.5	81.2	10.6	10.6	5.9	7.1	2.4	1.2	0.0								
	60～69歳	(n=119)	49.6	76.5	18.5	5.0	1.7	12.6	0.8	2.5	0.8								
	70歳以上	(n=152)	42.8	69.1	21.1	11.8	1.3	16.4	0.7	2.6	0.0								
地区別	木下	(n=36)	44.4	75.0	11.1	5.6	5.6	16.7	0.0	0.0	0.0								
	小林	(n=53)	32.1	83.0	22.6	7.5	3.8	9.4	5.7	3.8	0.0								
	大森・永治	(n=44)	54.5	61.4	11.4	9.1	0.0	13.6	0.0	4.5	0.0								
	ニュータウン中央北	(n=68)	41.2	79.4	14.7	14.7	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0								
	船穂・牧の原	(n=110)	47.3	70.9	16.4	8.2	5.5	9.1	0.9	4.5	0.0								
	ニュータウン中央南	(n=81)	32.1	77.8	11.1	4.9	3.7	11.1	0.0	4.9	0.0								
	印旛	(n=70)	54.3	67.1	21.4	7.1	2.9	5.7	0.0	0.0	1.4								
	本埜	(n=56)	42.9	76.8	23.2	8.9	3.6	16.1	3.6	1.8	0.0								

(問 15で「どちらかといえばやっていないと思う」または「やっていないと思う」を選んだ方)

問 15-2 地域での支え合い、助け合いをやっていないと思う理由は何ですか。(複数回答)

「近所づきあいや地域での交流がみられないから」が 43.0%と最も多く、次いで「地域での行事やボランティア活動に参加する人が少ないから」が 31.1%、「町内会・自治会や子ども会、高齢者クラブ、ボランティア団体などの活動がみられないから」が 24.1%となっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

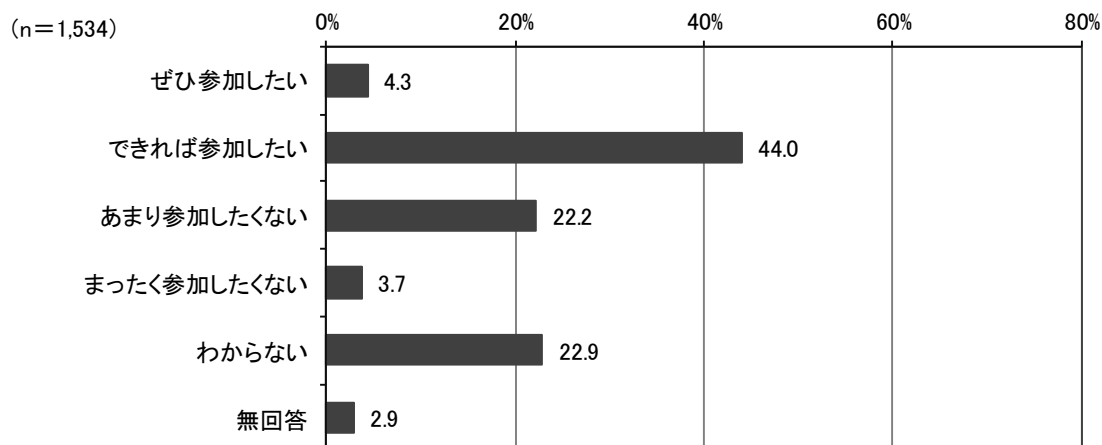
年齢別をみると、いずれも「近所づきあいや地域での交流がみられないから」が最も多くなっています。また、50～59歳では「地域での行事やボランティア活動に参加する人が少ないから」が、全体より10ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、大森・永治では「近所づきあいや地域での交流がみられないから」と「町内会・自治会や子ども会、高齢者クラブ、ボランティア団体などの活動がみられないから」が、印旛では「近所づきあいや地域での交流がみられないから」と「地域での行事やボランティア活動に参加する人が少ないから」が、それ以外の地区では「近所づきあいや地域での交流がみられないから」が最も多くなっています。また、大森・永治では「町内会・自治会や子ども会、高齢者クラブ、ボランティア団体などの活動がみられないから」が、ニュータウン中央南では「地域での行事やボランティア活動に参加する人が少ないから」が、本埜では「福祉サービスなどで親切に対応している人が少ないから」が、いずれも全体より10ポイント以上多くなっています。

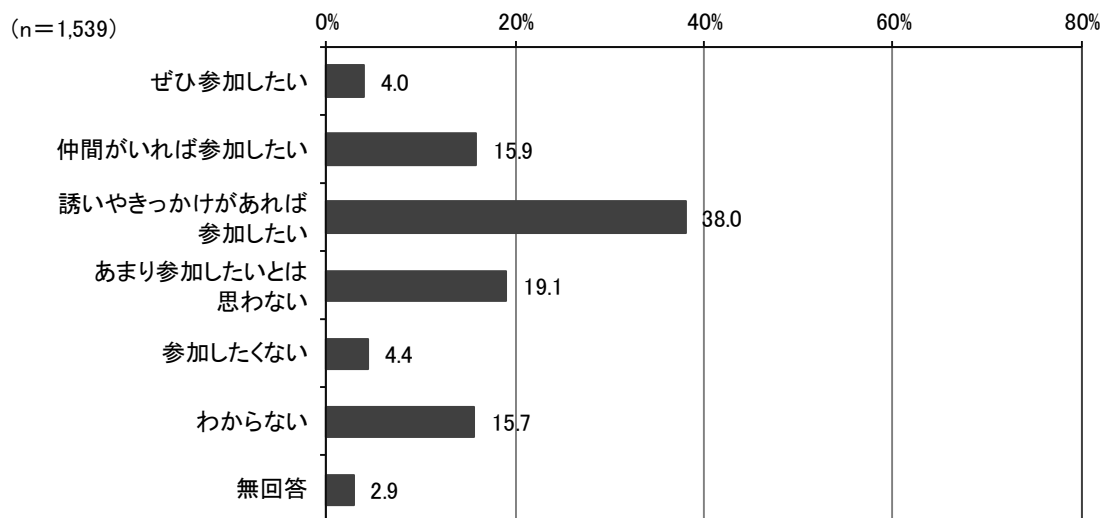
(単位:%)		近所づきあいや地域での交流がみられないから	高齢者クラブ、自治会や子ども会、ボランティア団体	町内会・自治会や子ども会、活動に参加する人が少ないから	地域での行事やボランティア活動に参加する人が少ないから	支援が必要ないから	支障がみられないから	見守り活動など	悩みや困っていることなどに人が少	ついでに相談している人が少	福祉サービスなどで親切に対応している人が少ないから	その他	わからない	無回答
合計	(n=386)	43.0	24.1	31.1	19.9	15.5	16.8	14.0	10.1	3.1				
年齢別	18～29歳	(n=31)	38.7	29.0	29.0	19.4	9.7	12.9	9.7	19.4	0.0			
	30～39歳	(n=53)	52.8	34.0	20.8	18.9	11.3	9.4	18.9	7.5	0.0			
	40～49歳	(n=64)	35.9	25.0	29.7	20.3	6.3	7.8	17.2	15.6	1.6			
	50～59歳	(n=63)	50.8	23.8	42.9	23.8	20.6	19.0	20.6	4.8	0.0			
	60～69歳	(n=88)	39.8	21.6	37.5	14.8	15.9	20.5	9.1	8.0	4.5			
	70歳以上	(n=83)	42.2	19.3	22.9	24.1	22.9	25.3	10.8	9.6	8.4			
地区別	木下	(n=21)	52.4	19.0	38.1	23.8	9.5	14.3	9.5	4.8	0.0			
	小林	(n=38)	47.4	23.7	23.7	13.2	15.8	23.7	15.8	13.2	5.3			
	大森・永治	(n=26)	34.6	34.6	30.8	26.9	23.1	23.1	15.4	3.8	0.0			
	ニュータウン中央北	(n=48)	41.7	20.8	37.5	18.8	14.6	12.5	14.6	12.5	4.2			
	船穂・牧の原	(n=100)	49.0	31.0	23.0	17.0	9.0	8.0	15.0	7.0	2.0			
	ニュータウン中央南	(n=72)	48.6	19.4	43.1	27.8	22.2	18.1	12.5	16.7	0.0			
	印旛	(n=51)	27.5	17.6	27.5	15.7	15.7	19.6	11.8	11.8	5.9			
本埜	(n=27)	33.3	22.2	29.6	18.5	18.5	29.6	14.8	3.7	11.1				

問 16 あなたは今後、地域の活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。(単数回答)

「できれば参加したい」が44.0%と最も多く、「ぜひ参加したい」(4.3%)と合わせた“参加したい”は48.3%となっています。反対に、「あまり参加したくない」(22.2%)と「まったく参加したくない」(3.7%)合わせた“参加したくない”は25.9%となっています。



※(参考) 前回調査の参加意向をみると、「あまり参加したいと思わない」(19.1%)と「参加したくない」(4.4%)合わせた“参加したくない”は23.5%となっており、今回調査とほぼ同じ傾向となっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年齢別をみると、いずれも「できれば参加したい」が最も多くなっています。また、18～29歳では「あまり参加したくない」が、全体より5ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、いずれも「できれば参加したい」が最も多くなっています。また、印旛では「わからない」が、全体より5ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		ぜひ参加したい	できれば参加したい	あまり参加したくない	まったく参加したくない	わからない	無回答	
合計	(n=1,534)	4.3	44.0	22.2	3.7	22.9	2.9	
年齢別	18～29歳	(n=127)	1.6	37.0	31.5	7.9	19.7	2.4
	30～39歳	(n=189)	4.2	47.1	20.6	3.7	23.3	1.1
	40～49歳	(n=251)	4.0	47.8	19.5	3.2	24.7	0.8
	50～59歳	(n=246)	4.1	43.5	23.6	1.6	25.6	1.6
	60～69歳	(n=321)	5.0	43.9	20.9	2.8	24.3	3.1
	70歳以上	(n=371)	4.9	41.2	23.2	4.6	20.5	5.7
地区別	木下	(n=96)	2.1	31.3	27.1	8.3	27.1	4.2
	小林	(n=129)	4.7	44.2	24.8	4.7	18.6	3.1
	大森・永治	(n=105)	7.6	46.7	17.1	7.6	17.1	3.8
	ニュータウン中央北	(n=197)	3.0	45.7	22.8	4.1	21.3	3.0
	船穂・牧の原	(n=363)	4.7	46.0	22.3	3.0	20.7	3.3
	ニュータウン中央南	(n=276)	3.6	43.5	24.3	1.4	25.0	2.2
	印旛	(n=211)	3.8	41.7	20.4	3.3	28.4	2.4
	本埜	(n=133)	6.8	46.6	19.5	3.0	23.3	0.8

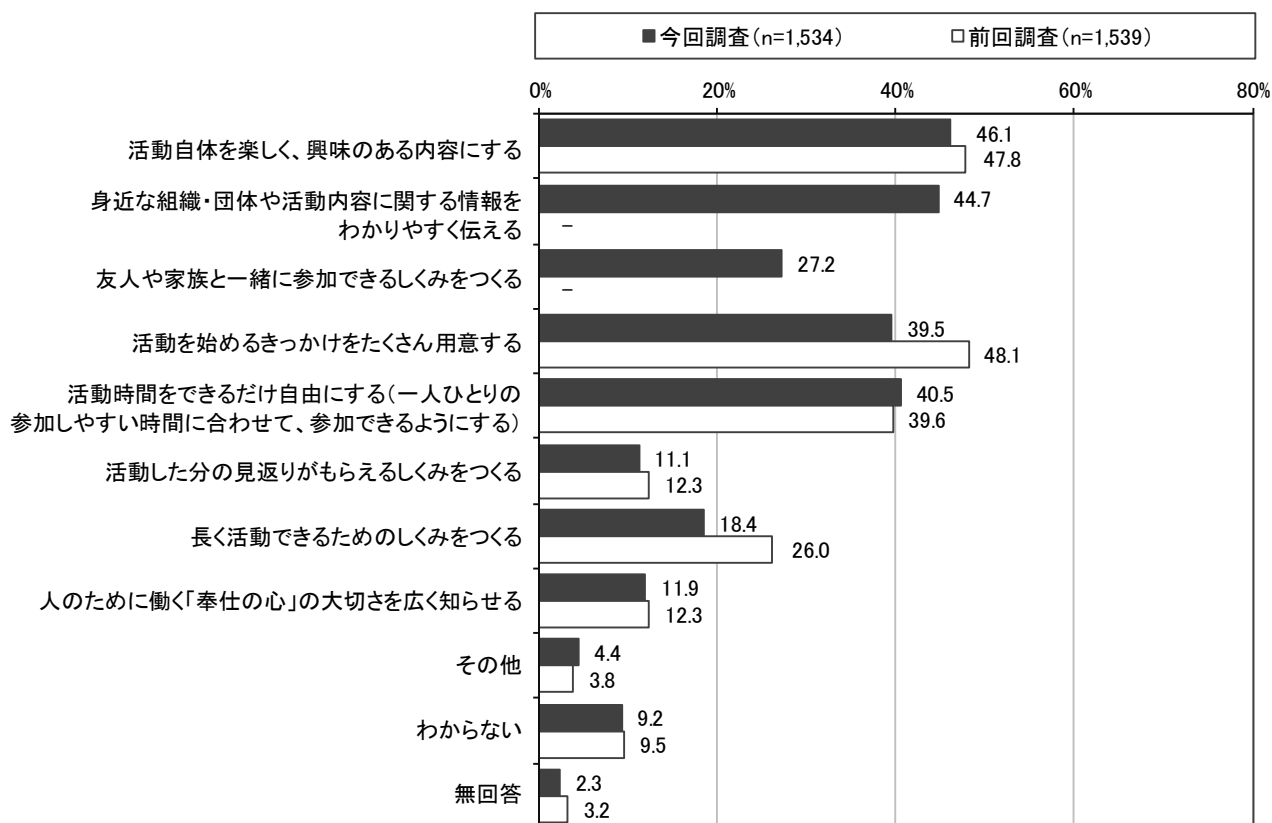
住居形態別をみると、社宅と民間賃貸マンション、その他では「わからない」が、民間賃貸アパートでは「あまり参加したくない」が、それ以外の住居形態では「できれば参加したい」が最も多くなっています。また、社宅と民間賃貸マンション、その他では「わからない」が、民間賃貸アパートでは「あまり参加したくない」が、いずれも全体より10ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		ぜひ参加したい	できれば参加したい	あまり参加したくない	まったく参加したくない	わからない	無回答	
合計	(n=1,534)	4.3	44.0	22.2	3.7	22.9	2.9	
住居形態別	自分又は配偶者の持ち家	(n=1,156)	4.3	46.8	21.6	3.0	21.4	2.9
	親・親せきの持ち家	(n=203)	3.0	37.4	26.6	5.9	25.1	2.0
	都市再生機構の賃貸	(n=58)	3.4	34.5	24.1	5.2	31.0	1.7
	社宅	(n=9)	11.1	33.3	0.0	0.0	44.4	11.1
	民間賃貸マンション	(n=8)	0.0	12.5	25.0	0.0	50.0	12.5
	民間賃貸アパート	(n=22)	9.1	18.2	36.4	13.6	22.7	0.0
	その他	(n=45)	2.2	26.7	22.2	4.4	40.0	4.4

問 17 たくさんの人に地域での活動やボランティア活動に参加してもらうためには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答）

「活動自体を楽しく、興味のある内容にする」が 46.1%と最も多く、次いで「身近な組織・団体や活動内容に関する情報をわかりやすく伝える」が 44.7%、「活動時間をできるだけ自由にする（一人ひとりの参加しやすい時間に合わせて、参加できるようにする）」が 40.5%、「活動を始めるきっかけをたくさん用意する」が 39.5%となっています。

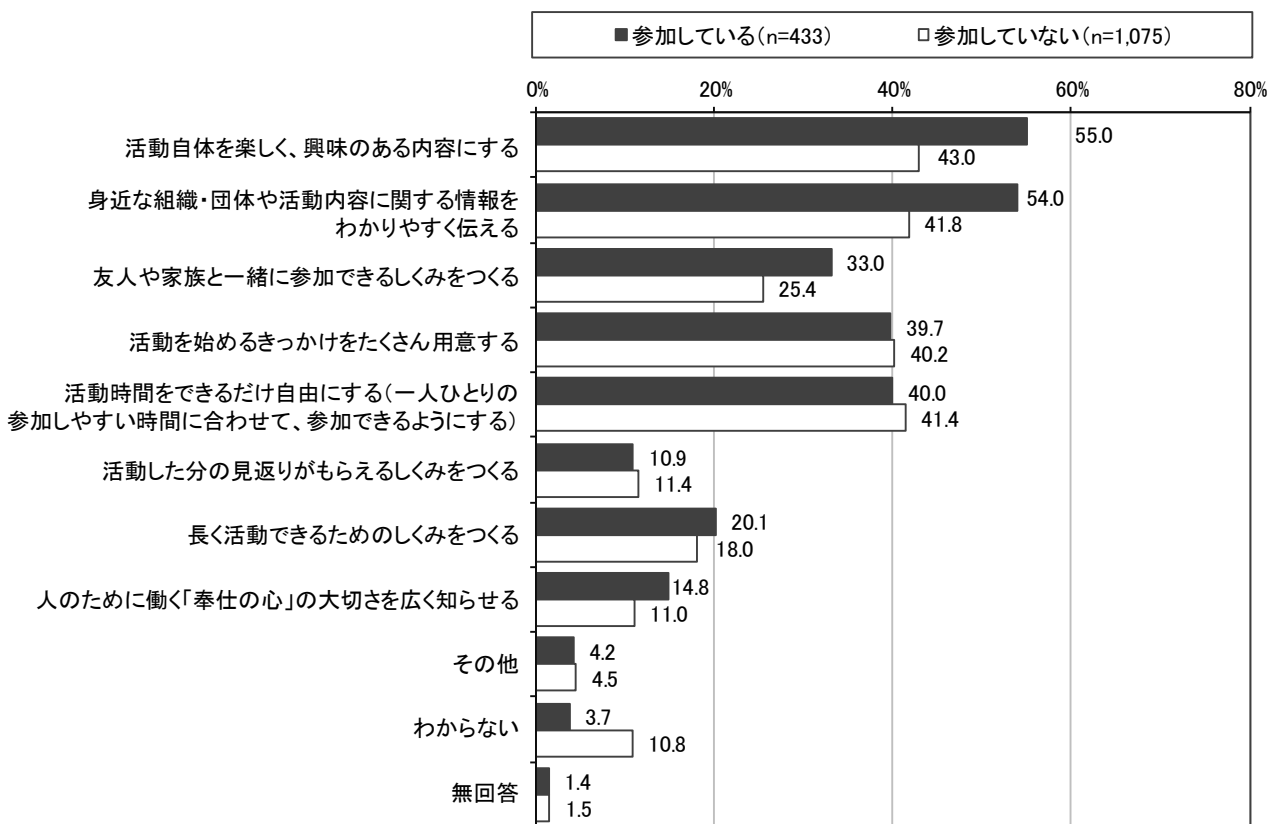
前回調査と比較すると、「活動を始めるきっかけをたくさん用意する」が 8.6 ポイント、「長く活動できるためのしくみをつくる」が 7.6 ポイント前回より少なくなっています。



(参考/問 13 の地域での活動やボランティア活動の参加状況別からみた活動参加に必要なこと)

問 17 のより多く参加してもらうために必要なことを、問 13 の参加状況別でみると、「活動自体を楽しく、興味のある内容にする」（参加している 55.0%、参加していない 43.0%）をはじめ、「身近な組織・団体や活動内容に関する情報をわかりやすく伝える」（参加している 54.0%、参加していない 41.8%）、「友人や家族と一緒に参加できるしくみをつくる」（参加している 33.0%、参加していない 25.4%）では、“参加している”回答者と比べ“参加していない”回答者が、いずれも5ポイント以上少なくなっています。ただし、“参加している”回答者と“参加していない”回答者の上位4項目は、同一となっています。

一方、「わからない」（参加している 3.7%、参加していない 10.8%）では、“参加している”回答者と比べ“参加していない”回答者が、5ポイント以上多くなっています。



※問 13 の参加状況別とは、「よく参加している」と「どちらかといえば参加している」を合わせた“参加している”回答者と、「まったく参加していない」と「どちらかといえば参加していない」を合わせた“参加していない”回答者別として、集計しました。

●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年齢別をみると、50～69歳では「身近な組織・団体や活動内容に関する情報をわかりやすく伝える」が、それ以外の年齢では「活動自体を楽しく、興味のある内容にする」が最も多く、特に30～39歳の「活動自体を楽しく、興味のある内容にする」では、全体より10ポイント以上多くなっています。また、18～29歳では「活動した分の見返りがもらえるしくみをつくる」が、30～39歳では「友人や家族と一緒に参加できるしくみをつくる」が、70歳以上では「わからない」が、全体より10ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、大森・永治と印旛では「活動自体を楽しく、興味のある内容にする」が、木下とニュータウン中央北では「活動時間をできるだけ自由にする」が、それ以外の地区では「身近な組織・団体や活動内容に関する情報をわかりやすく伝える」が最も多く、特にニュータウン中央北の「活動時間をできるだけ自由にする」では、全体より5ポイント以上多くなっています。また、ニュータウン中央北では「長く活動できるためのしくみをつくる」が、木下と印旛では「わからない」が、ともに全体より5ポイント以上多くなっています。

(単位：%)		興活動の ある自 体を楽 しく、 内容に する	わ活動 かり自 やす体 くを 伝楽 えるしく る、 情内容 報に をす	参友 加人 でや 可家 る族 しく と一 み緒 をつ くる	た活 く動 さ を 始 め る き つ か け を	自活 由動 に時 間 を で き る だ け	も活 ら動 えし る し く の 見 返 り を つ く る	し長 く活 動 を つ く る た め の	の人の 大た 切め さを にに 働働 くく 「一 奉奉 仕仕 のの 心心」	その他	わ か ら な い	無 回 答	
合計	(n=1,534)	46.1	44.7	27.2	39.5	40.5	11.1	18.4	11.9	4.4	9.2	2.3	
年齢別	18～29歳	(n=127)	54.3	37.8	35.4	38.6	40.2	22.8	15.0	7.9	5.5	6.3	2.4
	30～39歳	(n=189)	58.7	45.5	47.6	47.1	41.3	20.6	19.6	6.9	4.8	5.3	0.5
	40～49歳	(n=251)	53.4	46.2	33.9	43.0	47.8	14.7	19.9	6.0	4.8	8.0	0.0
	50～59歳	(n=246)	41.9	51.6	28.0	47.2	47.2	10.2	22.4	11.4	5.3	6.9	0.8
	60～69歳	(n=321)	39.3	48.0	19.9	42.4	44.5	8.7	18.1	15.3	3.7	8.7	2.2
	70歳以上	(n=371)	41.2	38.0	15.1	25.9	28.0	2.4	15.9	17.8	3.8	15.4	5.4
地区別	木下	(n=96)	37.5	39.6	31.3	32.3	41.7	15.6	14.6	11.5	3.1	14.6	6.3
	小林	(n=129)	42.6	45.0	24.0	38.0	37.2	9.3	17.1	9.3	8.5	10.1	2.3
	大森・永治	(n=105)	49.5	43.8	25.7	40.0	34.3	8.6	15.2	12.4	2.9	6.7	6.7
	ニュータウン中央北	(n=197)	48.2	49.2	23.4	41.1	49.7	7.6	23.9	10.7	4.6	7.1	2.0
	船穂・牧の原	(n=363)	46.6	46.8	32.0	41.3	41.0	11.3	16.8	12.4	4.7	6.9	1.7
	ニュータウン中央南	(n=276)	47.8	48.9	27.9	47.5	41.7	12.3	19.6	13.0	3.3	8.3	1.8
	印旛	(n=211)	46.9	31.8	22.7	31.3	36.5	10.9	16.6	10.9	4.3	14.7	0.9
	本埜	(n=133)	45.9	47.4	29.3	36.1	39.1	14.3	22.6	15.0	3.8	8.3	2.3

同居者別をみると、いずれもないでは「身近な組織・団体や活動内容に関する情報をわかりやすく伝える」が、それ以外の同居者では「活動自体を楽しく、興味のある内容にする」が最も多く、特に乳児（1歳未満）と小学校前の幼児の「活動自体を楽しく、興味のある内容にする」では、ともに全体より10ポイント以上多くなっています。また、乳児（1歳未満）と小学校前の幼児、小学生、中学生・高校生では「友人や家族と一緒に参加できるしくみをつくる」が、いずれも全体より10ポイント以上多くなっています。

住居形態別をみると、社宅では「活動自体を楽しく、興味のある内容にする」と「身近な組織・団体や活動内容に関する情報をわかりやすく伝える」が、民間賃貸マンションでは「身近な組織・団体や活動内容に関する情報をわかりやすく伝える」と「活動を始めるきっかけをたくさん用意する」と「活動時間をできるだけ自由にする」が、民間賃貸アパートでは「活動時間をできるだけ自由にする」が、それ以外の住居形態では「活動自体を楽しく、興味のある内容にする」が最も多く、特に社宅の「活動自体を楽しく、興味のある内容にする」と「身近な組織・団体や活動内容に関する情報をわかりやすく伝える」では、全体より10ポイント以上多くなっています。また、社宅では「長く活動できるためのしくみをつくる」が、民間賃貸マンションでは「人のために働く『奉仕の心』の大切さを広く知らせる」と「その他」が、いずれも全体より10ポイント以上多くなっています。

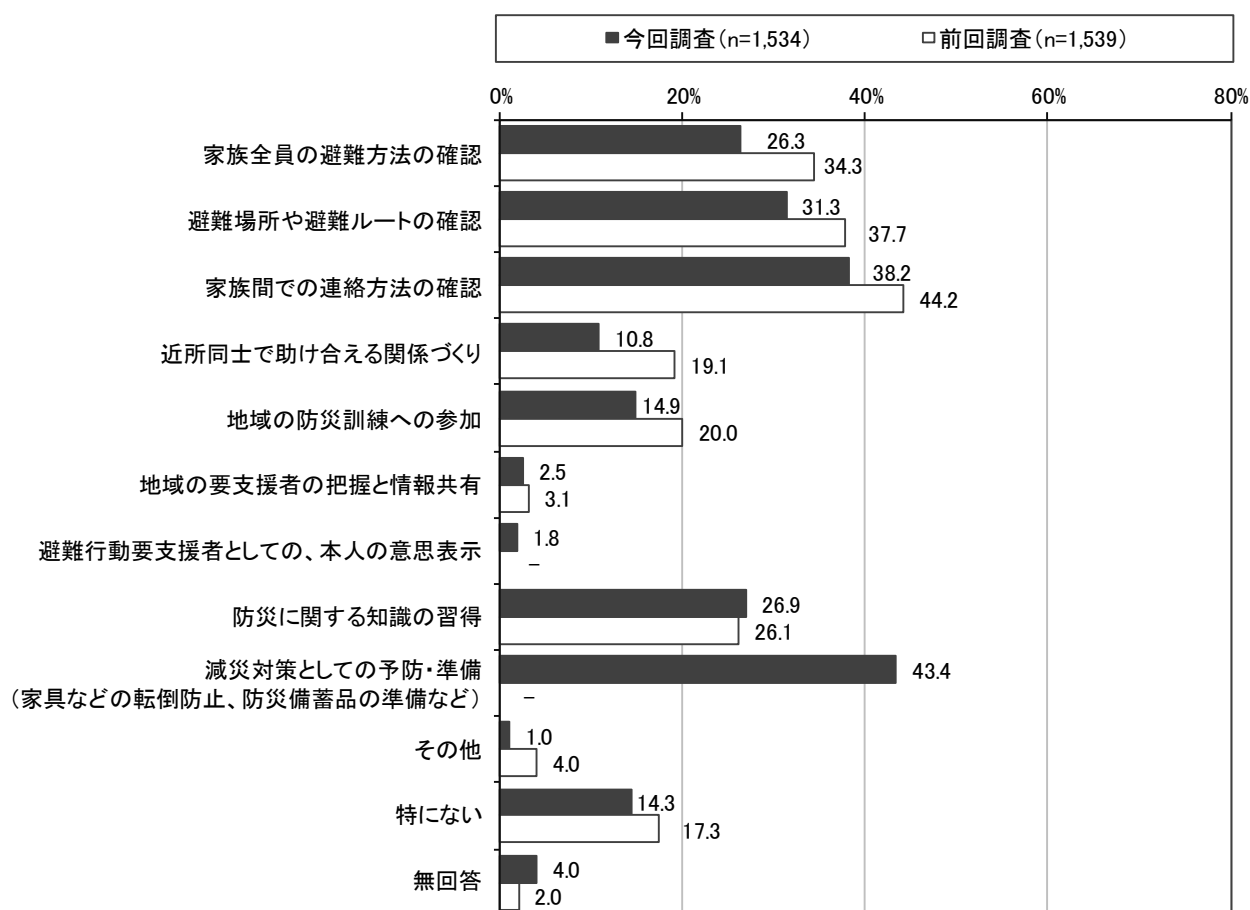
(単位:%)		興活動の 興味のある 活動自体を 内容を楽しく 内容にする	わか活動 かり内容 やすく関 する 内容を 伝える 情報 を	参加人 や家族 と一緒に みをつ くる	た活動 さを始 める きつ かけを	自活動 時間に する できる だけ	も活動 した分 の 見返り をつ ける	し長く く活 動を つ づ ける た め の	の人の 大切 さを に 働 く 「 奉 仕 の 心 」	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答	
合計	(n=1,534)	46.1	44.7	27.2	39.5	40.5	11.1	18.4	11.9	4.4	9.2	2.3	
同居者別	乳児(1歳未満)	(n=30)	63.3	30.0	50.0	40.0	23.3	16.7	16.7	0.0	6.7	3.3	0.0
	小学校前の幼児	(n=177)	61.0	44.1	45.8	44.1	42.4	17.5	16.4	9.0	5.6	4.0	0.0
	小学生	(n=172)	52.9	41.9	43.6	41.3	42.4	18.0	16.9	8.1	2.9	8.7	1.2
	中学生・高校生	(n=181)	51.4	42.0	39.8	43.1	43.1	14.9	23.2	7.2	5.0	7.2	1.1
	65歳以上の人	(n=528)	45.5	45.1	22.2	38.4	41.5	8.3	19.1	15.7	4.4	9.5	2.8
	介護を必要とする人	(n=84)	51.2	42.9	32.1	34.5	33.3	8.3	17.9	14.3	4.8	11.9	3.6
	障がいのある人	(n=102)	52.0	47.1	26.5	32.4	39.2	11.8	12.7	13.7	1.0	10.8	0.0
	いずれもない	(n=518)	41.7	45.9	23.6	39.6	40.0	10.4	18.3	12.2	4.8	10.2	2.7
住居形態別	自分又は配偶者の持ち家	(n=1,156)	45.6	45.4	27.5	40.1	40.8	10.1	18.8	12.0	4.4	8.6	2.1
	親・親せきの持ち家	(n=203)	51.2	46.3	32.0	38.9	41.9	17.2	18.2	9.4	3.9	9.9	2.0
	都市再生機構の賃貸	(n=58)	51.7	43.1	17.2	43.1	41.4	12.1	24.1	19.0	1.7	12.1	0.0
	社宅	(n=9)	55.6	55.6	0.0	44.4	33.3	22.2	33.3	0.0	11.1	11.1	0.0
	民間賃貸マンション	(n=8)	25.0	37.5	25.0	37.5	37.5	12.5	12.5	25.0	25.0	12.5	0.0
	民間賃貸アパート	(n=22)	22.7	31.8	13.6	36.4	40.9	9.1	0.0	9.1	13.6	18.2	4.5
	その他	(n=45)	44.4	28.9	22.2	26.7	31.1	6.7	11.1	13.3	2.2	17.8	6.7

4. 災害時の対応について

問 18 大地震や水害などの災害等に備えて、日ごろの生活の中で心がけたり、実施していることはありますか。（複数回答）

「減災対策としての予防・準備（家具などの転倒防止、防災備蓄品の準備など）」が 43.4%と最も多く、次いで「家族間での連絡方法の確認」が 38.2%、「避難場所や避難ルートの確認」が 31.3%となっています。一方、「地域の防災訓練への参加」は 14.9%、「近所同士で助け合える関係づくり」は 10.8%となっています。

前回調査と比較すると、「近所同士で助け合える関係づくり」が 8.3 ポイント、「家族全員の避難方法の確認」が 8.0 ポイント、「避難場所や避難ルートの確認」が 6.4 ポイント、「家族間での連絡方法の確認」が 6.0 ポイント、「地域の防災訓練への参加」が 5.1 ポイント前回より少なくなっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年齢別をみると、いずれも「減災対策としての予防・準備」が最も多く、特に40～49歳では全体より5ポイント以上多くなっています。また、18～29歳では「特にない」が、50～59歳では「家族間での連絡方法の確認」が、70歳以上では「地域の防災訓練への参加」が、いずれも全体より5ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、木下、小林、大森・永治では「家族間での連絡方法の確認」が、それ以外の地区では「減災対策としての予防・準備」が最も多く、特にニュータウン中央北とニュータウン中央南の「減災対策としての予防・準備」では、全体より5ポイント以上多くなっています。また、木下では「家族全員の避難方法の確認」が、小林では「避難場所や避難ルートの確認」が、大森・永治では「避難場所や避難ルートの確認」と「地域の防災訓練への参加」が、いずれも全体より5ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		家族全員の避難方法の確認	避難場所や避難ルートの確認	家族間での連絡方法の確認	く近所同士で助け合える関係づくり	地域の防災訓練への参加	地域の防災訓練への参加	情報共有	地域の要支援者の把握と	本人の意思表示	避難行動要支援者としての、	防災に関する知識の習得	準備	減災対策としての予防・	その他	特にない	無回答
合計	(n=1,534)	26.3	31.3	38.2	10.8	14.9	2.5	1.8	26.9	43.4	1.0	14.3	4.0				
年齢別	18～29歳	(n=127)	21.3	31.5	40.2	6.3	5.5	3.1	2.4	34.6	41.7	0.8	19.7	2.4			
	30～39歳	(n=189)	28.0	28.6	31.2	9.0	9.0	0.5	0.0	27.5	40.7	0.5	18.0	2.6			
	40～49歳	(n=251)	27.9	29.9	35.9	10.4	12.0	0.8	0.8	31.5	48.6	1.6	13.1	1.6			
	50～59歳	(n=246)	29.3	30.5	44.7	8.1	13.0	2.4	0.8	24.0	46.3	1.6	15.0	2.0			
	60～69歳	(n=321)	22.7	31.5	42.4	10.6	17.1	2.5	1.9	24.3	43.9	0.3	11.5	4.7			
	70歳以上	(n=371)	27.2	34.2	34.0	13.7	22.6	4.6	3.8	25.1	39.6	1.3	13.7	7.0			
地区別	木下	(n=96)	34.4	27.1	35.4	10.4	8.3	5.2	2.1	22.9	31.3	1.0	20.8	6.3			
	小林	(n=129)	26.4	37.2	42.6	9.3	21.7	3.1	1.6	30.2	41.9	0.8	10.9	2.3			
	大森・永治	(n=105)	29.5	40.0	41.0	15.2	20.0	2.9	2.9	27.6	28.6	1.9	18.1	7.6			
	ニュータウン中央北	(n=197)	29.4	32.0	42.1	9.1	19.8	4.1	1.0	24.4	49.2	1.5	10.7	4.1			
	船穂・牧の原	(n=363)	26.2	30.9	35.8	11.0	13.2	1.4	2.5	25.9	44.9	1.1	15.4	2.2			
	ニュータウン中央南	(n=276)	26.4	32.2	39.1	9.8	17.8	2.5	1.8	30.8	50.0	1.1	13.0	1.1			
	印旛	(n=211)	24.2	28.9	39.3	12.8	10.9	0.9	0.5	28.4	41.2	0.0	13.7	6.2			
	本埜	(n=133)	18.8	25.6	32.3	10.5	8.3	3.8	1.5	24.1	42.1	1.5	16.5	6.8			

同居者別をみると、中学生・高校生と介護を必要とする人、障がいのある人では「家族間での連絡方法の確認」が、それ以外の同居者では「減災対策としての予防・準備」が最も多くなっています。

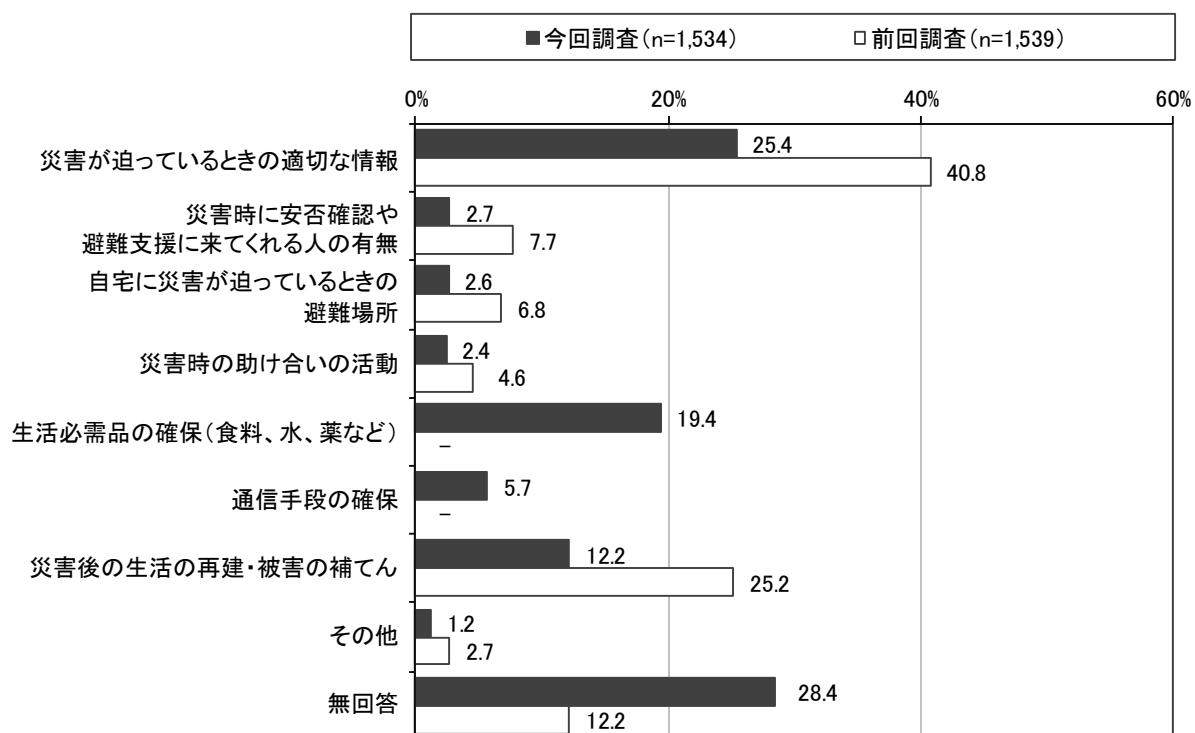
住居形態別をみると、社宅と民間賃貸マンションでは「家族間での連絡方法の確認」が、民間賃貸アパートでは「避難場所や避難ルートの確認」と「家族間での連絡方法の確認」が、その他では「家族間での連絡方法の確認」と「減災対策としての予防・準備」が、それ以外の住居形態では「減災対策としての予防・準備」が最も多く、特に都市再生機構の賃貸の「減災対策としての予防・準備」では、全体より10ポイント以上多くなっています。また、民間賃貸マンションでは「その他」が、その他では「特になし」が、全体より10ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		家族全員の避難方法の確認	避難場所や避難ルートの確認	家族間での連絡方法の確認	近所同士で助け合える関係づくり	地域の防災訓練への参加	地域の要支援者の把握と情報共有	避難行動要支援者としての、本人の意思表示	防災に関する知識の習得	減災対策としての予防・準備	その他	特になし	無回答	
合計	(n=1,534)	26.3	31.3	38.2	10.8	14.9	2.5	1.8	26.9	43.4	1.0	14.3	4.0	
同居者別	乳児(1歳未満)	(n=30)	30.0	20.0	30.0	10.0	6.7	0.0	0.0	30.0	40.0	0.0	20.0	3.3
	小学校前の幼児	(n=177)	26.6	28.2	28.2	9.6	10.7	0.6	0.0	27.1	48.6	1.1	19.8	2.3
	小学生	(n=172)	32.6	30.8	34.9	12.8	15.7	0.6	1.2	26.7	39.5	1.2	12.2	2.9
	中学生・高校生	(n=181)	32.0	31.5	44.2	11.6	11.6	2.2	0.6	23.8	37.0	1.7	14.4	5.0
	65歳以上の人	(n=528)	26.5	30.7	38.4	10.2	18.4	2.7	2.8	28.6	43.8	0.8	12.3	5.1
	介護を必要とする人	(n=84)	26.2	31.0	40.5	16.7	15.5	3.6	6.0	19.0	33.3	0.0	11.9	9.5
	障がいのある人	(n=102)	33.3	32.4	46.1	9.8	15.7	3.9	3.9	27.5	40.2	2.0	11.8	3.9
いずれもない	(n=518)	24.7	32.0	38.0	9.1	14.3	3.5	1.5	27.0	44.0	1.2	16.8	3.5	
住居形態別	自分又は配偶者の持ち家	(n=1,156)	27.9	31.3	38.1	10.9	17.2	2.4	1.6	26.6	44.2	1.0	13.8	3.7
	親・親せきの持ち家	(n=203)	18.2	30.5	38.4	9.9	6.4	3.4	3.0	31.0	41.9	0.0	16.3	4.4
	都市再生機構の賃貸	(n=58)	27.6	39.7	37.9	5.2	10.3	1.7	3.4	34.5	56.9	0.0	10.3	0.0
	社宅	(n=9)	22.2	22.2	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	22.2	0.0	11.1	22.2
	民間賃貸マンション	(n=8)	25.0	25.0	62.5	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	50.0	12.5	0.0	12.5
	民間賃貸アパート	(n=22)	27.3	36.4	36.4	4.5	4.5	0.0	0.0	27.3	27.3	4.5	22.7	0.0
	その他	(n=45)	20.0	28.9	31.1	13.3	11.1	4.4	2.2	15.6	31.1	4.4	26.7	6.7

問 19 災害が起こった時、特に不安に思うことはどれですか。(単数回答)

無回答を除くと、「災害が迫っているときの適切な情報」が 25.4%と最も多く、次いで「生活必需品の確保(食料、水、薬など)」が 19.4%、「災害後の生活の再建・被害の補てん」が 12.2%となっています。

前回調査と比較すると、「無回答」が 16.2 ポイント前回より多く、反対に「災害が迫っているときの適切な情報」が 15.4 ポイント、「災害後の生活の再建・被害の補てん」が 13.0 ポイント前回より少なくなっています。



※本設問は、単数回答ながら複数回答者が数多くみられ、その方を無回答に振り分けたことから、無回答者が多くなりました。

●クロス集計（グレー部分は無回答を除く最多項目）

無回答を除く年齢別をみると、いずれも「災害が迫っているときの適切な情報」が最も多く、特に60～69歳では全体より5ポイント以上多くなっています。

無回答を除く地区別をみると、船穂・牧の原では「生活必需品の確保」が、本埜では「生活必需品の確保」と「災害が迫っているときの適切な情報」が、それ以外の地区では「災害が迫っているときの適切な情報」が最も多く、特に木下と大森・永治の「災害が迫っているときの適切な情報」と船穂・牧の原の「生活必需品の確保」では、いずれも全体より5ポイント以上多くなっています。

(単位：%)		災害が迫っているときの適切な情報	災害時に安否確認や避難支援にきてくれる人の有無	自宅に避難場所が迫っている	災害時の助け合いの活動	生活必需品の確保	通信手段の確保	被災後の生活の再建・被害の補てん	その他	無回答
合計 (n=1,534)		25.4	2.7	2.6	2.4	19.4	5.7	12.2	1.2	28.4
年齢別	18～29歳 (n=127)	19.7	0.8	2.4	2.4	18.9	8.7	13.4	3.9	29.9
	30～39歳 (n=189)	21.2	4.8	3.2	2.6	20.6	6.9	11.6	1.1	28.0
	40～49歳 (n=251)	24.3	2.0	1.6	1.2	22.7	4.8	13.5	0.4	29.5
	50～59歳 (n=246)	21.1	2.4	2.0	1.6	19.9	8.1	15.0	0.8	28.9
	60～69歳 (n=321)	31.8	2.2	2.2	3.1	13.4	5.3	14.0	0.9	27.1
	70歳以上 (n=371)	27.0	3.2	4.0	3.0	21.6	3.8	8.4	1.3	27.8
地区別	木下 (n=96)	34.4	2.1	4.2	3.1	10.4	0.0	13.5	3.1	29.2
	小林 (n=129)	31.0	0.8	3.1	0.8	14.7	3.1	14.7	2.3	29.5
	大森・永治 (n=105)	34.3	2.9	4.8	1.9	15.2	1.9	14.3	1.0	23.8
	ニュータウン中央北 (n=197)	22.8	3.6	3.0	2.5	18.8	9.1	11.7	1.5	26.9
	船穂・牧の原 (n=363)	21.2	1.9	1.9	1.9	23.7	6.3	13.8	0.8	28.4
	ニュータウン中央南 (n=276)	27.2	3.3	2.5	3.3	21.4	4.3	7.6	0.7	29.7
	印旛 (n=211)	22.7	2.8	1.9	3.3	19.0	7.6	12.8	0.5	29.4
	本埜 (n=133)	20.3	3.8	2.3	2.3	20.3	8.3	12.8	1.5	28.6

無回答を除く同居者別をみると、乳児（1歳未満）と小学生、中学生・高校生では「生活必需品の確保」が、それ以外の同居者では「災害が迫っているときの適切な情報」が最も多く、特に乳児（1歳未満）の「生活必需品の確保」では、全体より10ポイント以上多くなっています。

無回答を除く住居形態別をみると、都市再生機構の賃貸と社宅、民間賃貸マンション、その他では「生活必需品の確保」が、それ以外の住居形態では「災害が迫っているときの適切な情報」が最も多く、特に社宅と民間賃貸マンションの「生活必需品の確保」と民間賃貸アパートの「災害が迫っているときの適切な情報」が、全体より10ポイント以上多くなっています。また、社宅では「災害後の生活の再建・被害の補てん」が、民間賃貸マンションでは「その他」が、全体より10ポイント以上多くなっています。

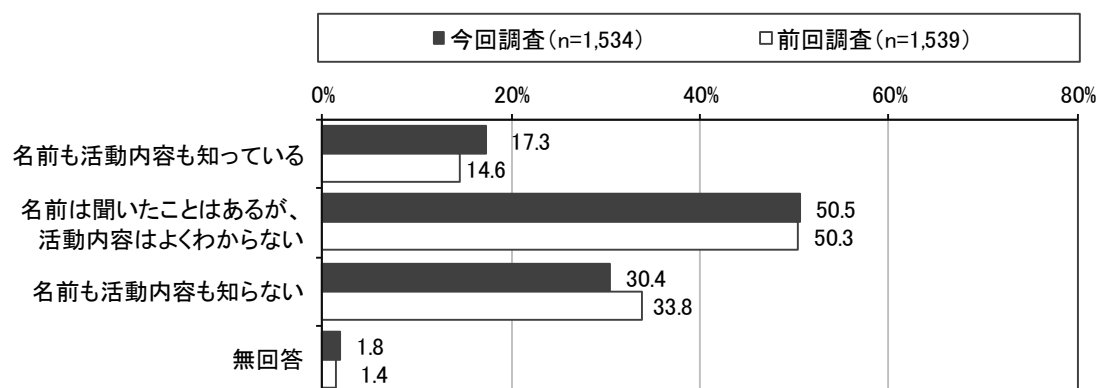
(単位:%)		適切な情報	災害が迫っているときの	災害時に安否確認や避難支援	災害時の避難場所	自宅に災害が迫っている	災害時の助け合いの活動	生活必需品の確保	通信手段の確保	補てん後の生活の再建・被害の	その他	無回答
合計	(n=1,534)	25.4	2.7	2.6	2.4	19.4	5.7	12.2	1.2	28.4		
同居者別	乳児(1歳未満)	(n=30)	26.7	0.0	6.7	0.0	30.0	6.7	10.0	0.0	20.0	
	小学校前の幼児	(n=177)	27.7	2.8	2.3	1.7	21.5	5.6	7.9	1.1	29.4	
	小学生	(n=172)	20.9	3.5	1.2	1.7	22.1	6.4	9.3	0.0	34.9	
	中学生・高校生	(n=181)	20.4	1.7	2.8	1.7	23.2	6.1	16.0	1.7	26.5	
	65歳以上の人	(n=528)	27.1	2.5	3.8	3.4	16.5	7.0	12.5	0.4	26.9	
	介護を必要とする人	(n=84)	27.4	7.1	6.0	1.2	15.5	2.4	13.1	1.2	26.2	
	障がいのある人	(n=102)	18.6	6.9	2.0	3.9	16.7	7.8	16.7	1.0	26.5	
いずれもない	(n=518)	24.3	2.5	1.9	1.9	20.3	5.0	12.7	1.9	29.3		
住居形態別	自分又は配偶者の持ち家	(n=1,156)	26.5	2.5	2.5	2.4	19.3	4.9	12.1	1.0	28.8	
	親・親せきの持ち家	(n=203)	22.7	3.0	3.0	1.5	15.8	10.3	15.3	1.5	27.1	
	都市再生機構の賃貸	(n=58)	17.2	1.7	0.0	6.9	22.4	10.3	10.3	3.4	27.6	
	社宅	(n=9)	11.1	0.0	11.1	0.0	33.3	0.0	22.2	0.0	22.2	
	民間賃貸マンション	(n=8)	12.5	12.5	12.5	0.0	37.5	0.0	0.0	12.5	12.5	
	民間賃貸アパート	(n=22)	40.9	4.5	4.5	0.0	13.6	9.1	9.1	0.0	18.2	
その他	(n=45)	13.3	2.2	4.4	2.2	28.9	2.2	13.3	2.2	31.1		

5. 福祉について

問 20 印西市社会福祉協議会をご存知ですか。(単数回答)

「名前は聞いたことはあるが、活動内容はよくわからない」が 50.5%と最も多く、次いで「名前も活動内容も知らない」が 30.4%、「名前も活動内容も知っている」が 17.3%となっています。

前回調査と比較すると、ほぼ同じ傾向となっています。



※前回調査の設問では、支部社協も含めて、「印西市社会福祉協議会や支部社会福祉協議会をご存知ですか」となっています。

●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年齢別をみると、39歳以下では「名前も活動内容も知らない」が、それ以外の年齢では「名前は聞いたことはあるが、活動内容はよくわからない」が最も多く、特に49歳以下の「名前も活動内容も知らない」では、全体より10ポイント以上多くなっています。また、年齢が上がるにつれて、「名前も活動内容も知っている」と「名前は聞いたことはあるが、活動内容はよくわからない」の割合が多くなっています。

地区別をみると、いずれも「名前は聞いたことはあるが、活動内容はよくわからない」が最も多く、特に印旛と本埜では、全体より5ポイント以上多くなっています。また、大森・永治では「名前も活動内容も知っている」が、船穂・牧の原とニュータウン中央南では「名前も活動内容も知らない」が、全体より5ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		知 つ て い る 活 動 内 容 も	よ く わ か ら な い 活 動 内 容 は	名 前 も 活 動 内 容 も 知 ら な い	無 回 答
合計 (n=1,534)		17.3	50.5	30.4	1.8
年 齢 別	18～29歳 (n=127)	3.9	22.0	72.4	1.6
	30～39歳 (n=189)	5.8	37.0	55.6	1.6
	40～49歳 (n=251)	10.4	45.8	43.0	0.8
	50～59歳 (n=246)	16.7	58.1	23.6	1.6
	60～69歳 (n=321)	20.2	59.8	17.4	2.5
	70歳以上 (n=371)	29.9	56.6	11.6	1.9
地 区 別	木下 (n=96)	21.9	54.2	20.8	3.1
	小林 (n=129)	20.2	52.7	26.4	0.8
	大森・永治 (n=105)	25.7	50.5	21.0	2.9
	ニュータウン中央北 (n=197)	19.8	48.2	29.4	2.5
	船穂・牧の原 (n=363)	11.8	47.4	39.7	1.1
	ニュータウン中央南 (n=276)	15.9	46.4	37.0	0.7
	印旛 (n=211)	16.1	56.4	25.1	2.4
	本埜 (n=133)	18.0	57.9	21.8	2.3

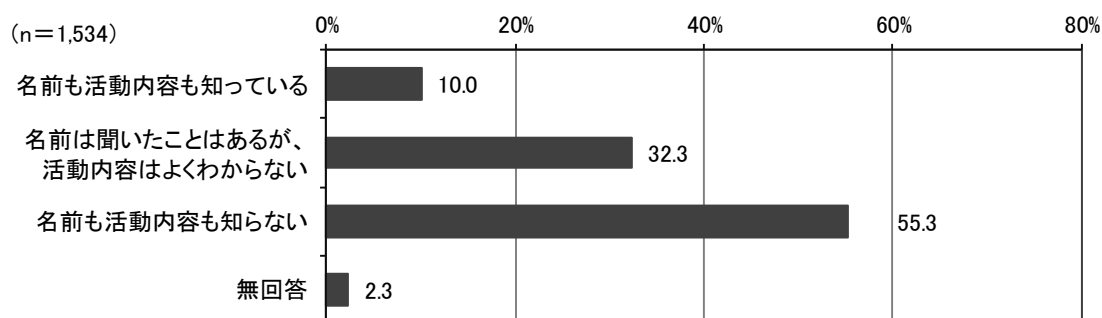
同居者別をみると、乳児（1歳未満）では「名前は聞いたことはあるが、活動内容はよくわからない」と「名前も活動内容も知らない」が、小学校前の幼児では「名前も活動内容も知らない」が、それ以外の同居者では「名前は聞いたことはあるが、活動内容はよくわからない」が最も多くなっています。また、乳児（1歳未満）と小学校前の幼児の「名前も活動内容も知らない」では、ともに全体より10ポイント以上多くなっています。

住居形態別をみると、親・親せきの持ち家と社宅、民間賃貸マンション、民間賃貸アパートでは「名前も活動内容も知らない」が、それ以外の住居形態では「名前は聞いたことはあるが、活動内容はよくわからない」が最も多く、特に親・親せきの持ち家と社宅、民間賃貸マンション、民間賃貸アパートの「名前も活動内容も知らない」では、全体より10ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		名前も活動内容も知らない	名前も活動内容も知らないが、聞いた内容はよくわからない	名前も活動内容も知らない	無回答	
合計	(n=1,534)	17.3	50.5	30.4	1.8	
同居者別	乳児(1歳未満)	(n=30)	0.0	50.0	50.0	0.0
	小学校前の幼児	(n=177)	9.0	36.7	53.1	1.1
	小学生	(n=172)	10.5	49.4	38.4	1.7
	中学生・高校生	(n=181)	11.0	52.5	34.3	2.2
	65歳以上の人	(n=528)	24.2	53.4	20.5	1.9
	介護を必要とする人	(n=84)	23.8	57.1	17.9	1.2
	障がいのある人	(n=102)	24.5	44.1	29.4	2.0
いずれもない	(n=518)	15.4	52.1	30.5	1.9	
住居形態別	自分又は配偶者の持ち家	(n=1,156)	19.1	53.4	26.0	1.5
	親・親せきの持ち家	(n=203)	9.4	38.4	50.2	2.0
	都市再生機構の賃貸	(n=58)	12.1	51.7	36.2	0.0
	社宅	(n=9)	11.1	33.3	44.4	11.1
	民間賃貸マンション	(n=8)	12.5	12.5	50.0	25.0
	民間賃貸アパート	(n=22)	4.5	40.9	54.5	0.0
	その他	(n=45)	20.0	40.0	35.6	4.4

問 21 印西市の支部社会福祉協議会（支部社協）をご存知ですか。（単数回答）

「名前も活動内容も知らない」が55.3%と最も多く、次いで「名前は聞いたことはあるが、活動内容はよくわからない」が32.3%、「名前も活動内容も知っている」が10.0%となっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年齢別をみると、70歳以上では「名前は聞いたことはあるが、活動内容はよくわからない」が、それ以外の年齢では「名前も活動内容も知らない」が最も多く、特に30～49歳の「名前も活動内容も知らない」と70歳以上の「名前は聞いたことはあるが、活動内容はよくわからない」では、全体より10ポイント以上多くなっています。また、年齢が上がるにつれて、「名前も活動内容も知っている」と「名前は聞いたことはあるが、活動内容はよくわからない」の割合が多くなっています。

地区別をみると、いずれも「名前も活動内容も知らない」が最も多く、特に船穂・牧の原とニュータウン中央南では全体より5ポイント以上多くなっています。また、小林と大森・永治、本埜では「名前は聞いたことはあるが、活動内容はよくわからない」が、全体より5ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		名前も活動内容も知らない	名前は聞いたことはあるが、活動内容はよくわからない	名前も活動内容も知っている	無回答
合計 (n=1,534)		55.3	32.3	10.0	2.3
年齢別	18～29歳 (n=127)	82.7	14.2	1.6	1.6
	30～39歳 (n=189)	78.3	15.9	4.2	1.6
	40～49歳 (n=251)	70.9	23.1	5.2	0.8
	50～59歳 (n=246)	52.4	37.0	8.9	1.6
	60～69歳 (n=321)	48.0	39.6	10.0	2.5
	70歳以上 (n=371)	31.8	43.9	20.2	4.0
地区別	木下 (n=96)	47.9	35.4	12.5	4.2
	小林 (n=129)	50.4	40.3	8.5	0.8
	大森・永治 (n=105)	41.0	40.0	13.3	5.7
	ニュータウン中央北 (n=197)	58.4	28.4	10.2	3.0
	船穂・牧の原 (n=363)	61.7	28.9	8.0	1.4
	ニュータウン中央南 (n=276)	61.6	28.6	9.1	0.7
	印旛 (n=211)	54.0	31.3	11.4	3.3
	本埜 (n=133)	46.6	39.8	11.3	2.3

同居者別をみると、介護を必要とする人では「名前は聞いたことはあるが、活動内容はよくわからない」が、それ以外の同居者では「名前は聞いたことはあるが、活動内容はよくわからない」が最も多く、特に介護を必要とする人と「名前は聞いたことはあるが、活動内容はよくわからない」と、乳児（1歳未満）と小学校前の幼児、小学生の「名前も活動内容も知らない」では、全体より10ポイント以上多くなっています。

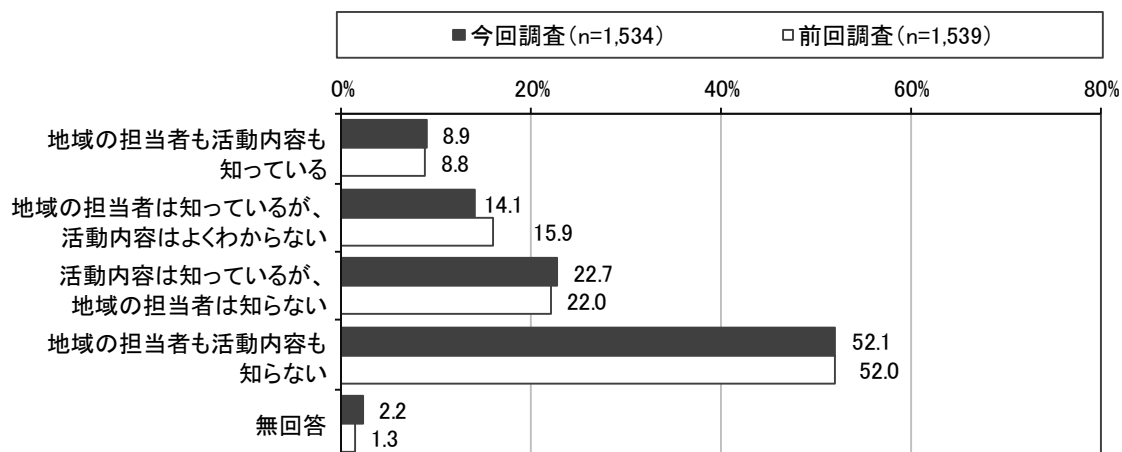
住居形態別をみると、いずれも「名前も活動内容も知らない」が最も多く、特に親・親せきの持ち家と社宅、民間賃貸アパートでは、全体より10ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		名前も活動内容も知らない	名前が、聞いたことはあるが、活動内容はよくわからない	名前も活動内容も知らない	無回答	
合計	(n=1,534)	10.0	32.3	55.3	2.3	
同居者別	乳児(1歳未満)	(n=30)	0.0	30.0	70.0	0.0
	小学校前の幼児	(n=177)	3.4	18.6	76.8	1.1
	小学生	(n=172)	5.2	26.2	66.9	1.7
	中学生・高校生	(n=181)	7.7	27.1	63.0	2.2
	65歳以上の人	(n=528)	12.1	39.2	45.3	3.4
	介護を必要とする人	(n=84)	15.5	42.9	40.5	1.2
	障がいのある人	(n=102)	14.7	39.2	43.1	2.9
いずれもない	(n=518)	10.2	32.2	55.4	2.1	
住居形態別	自分又は配偶者の持ち家	(n=1,156)	10.9	35.6	51.6	2.0
	親・親せきの持ち家	(n=203)	5.9	19.7	71.9	2.5
	都市再生機構の賃貸	(n=58)	12.1	32.8	55.2	0.0
	社宅	(n=9)	0.0	11.1	77.8	11.1
	民間賃貸マンション	(n=8)	0.0	12.5	62.5	25.0
	民間賃貸アパート	(n=22)	4.5	4.5	90.9	0.0
	その他	(n=45)	13.3	28.9	51.1	6.7

問 22 あなたがお住まいの地域の民生委員・児童委員をご存知ですか。(単数回答)

「地域の担当者も活動内容も知らない」が 52.1%と最も多く、次いで「活動内容は知っているが、地域の担当者は知らない」が 22.7%、「地域の担当者は知っているが、活動内容はよくわからない」が 14.1%、「地域の担当者も活動内容も知っている」が 8.9%となっています。

前回調査と比較すると、ほぼ同じ傾向となっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年齢別をみると、いずれも「地域の担当者も活動内容も知らない」が最も多く、特に49歳以下では全体より10ポイント以上多くなっています。また、年齢が上がるにつれて、「地域の担当者も活動内容も知っている」と「地域の担当者は知っているが、活動内容はよくわからない」の割合が多くなっています。

地区別をみると、いずれも「地域の担当者も活動内容も知らない」が最も多く、特に船穂・牧の原とニュータウン中央南では全体より5ポイント以上多くなっています。また、大森・永治と本埜では「地域の担当者は知っているが、活動内容はよくわからない」が、木下とニュータウン中央北では「活動内容は知っているが、地域の担当者は知らない」が、全体より5ポイント以上多くなっています。

(単位：%)		知地 域の 担 当 者 も 活 動 内 容 も	活地 域の 内 容 は よ く わ か ら な い が、	地活 域の 内 容 は 知 つ て い る が、	知地 ら な い 担 当 者 も 活 動 内 容 も	無 回 答	
合計	(n=1,534)	8.9	14.1	22.7	52.1	2.2	
年 齢 別	18～29歳	(n=127)	1.6	5.5	7.9	83.5	1.6
	30～39歳	(n=189)	1.6	5.3	12.7	78.8	1.6
	40～49歳	(n=251)	2.8	7.6	23.1	65.3	1.2
	50～59歳	(n=246)	6.1	12.2	32.5	48.0	1.2
	60～69歳	(n=321)	9.3	13.4	30.8	43.9	2.5
	70歳以上	(n=371)	19.9	28.3	19.4	29.1	3.2
地 区 別	木下	(n=96)	7.3	8.3	29.2	51.0	4.2
	小林	(n=129)	7.8	13.2	21.7	55.8	1.6
	大森・永治	(n=105)	11.4	21.0	21.9	41.0	4.8
	ニュータウン中央北	(n=197)	11.7	7.1	28.9	49.2	3.0
	船穂・牧の原	(n=363)	8.8	10.7	20.7	58.7	1.1
	ニュータウン中央南	(n=276)	5.4	16.7	20.3	57.6	0.0
	印旛	(n=211)	12.8	18.5	19.4	46.4	2.8
	本埜	(n=133)	6.8	21.8	24.1	44.4	3.0

同居者別をみると、いずれも「地域の担当者も活動内容も知らない」が最も多く、特に乳児（1歳未満）と小学校前の幼児、小学生では、全体より10ポイント以上多くなっています。また、介護を必要とする人では「地域の担当者は知っているが、活動内容はよくわからない」が、全体より10ポイント以上多くなっています。

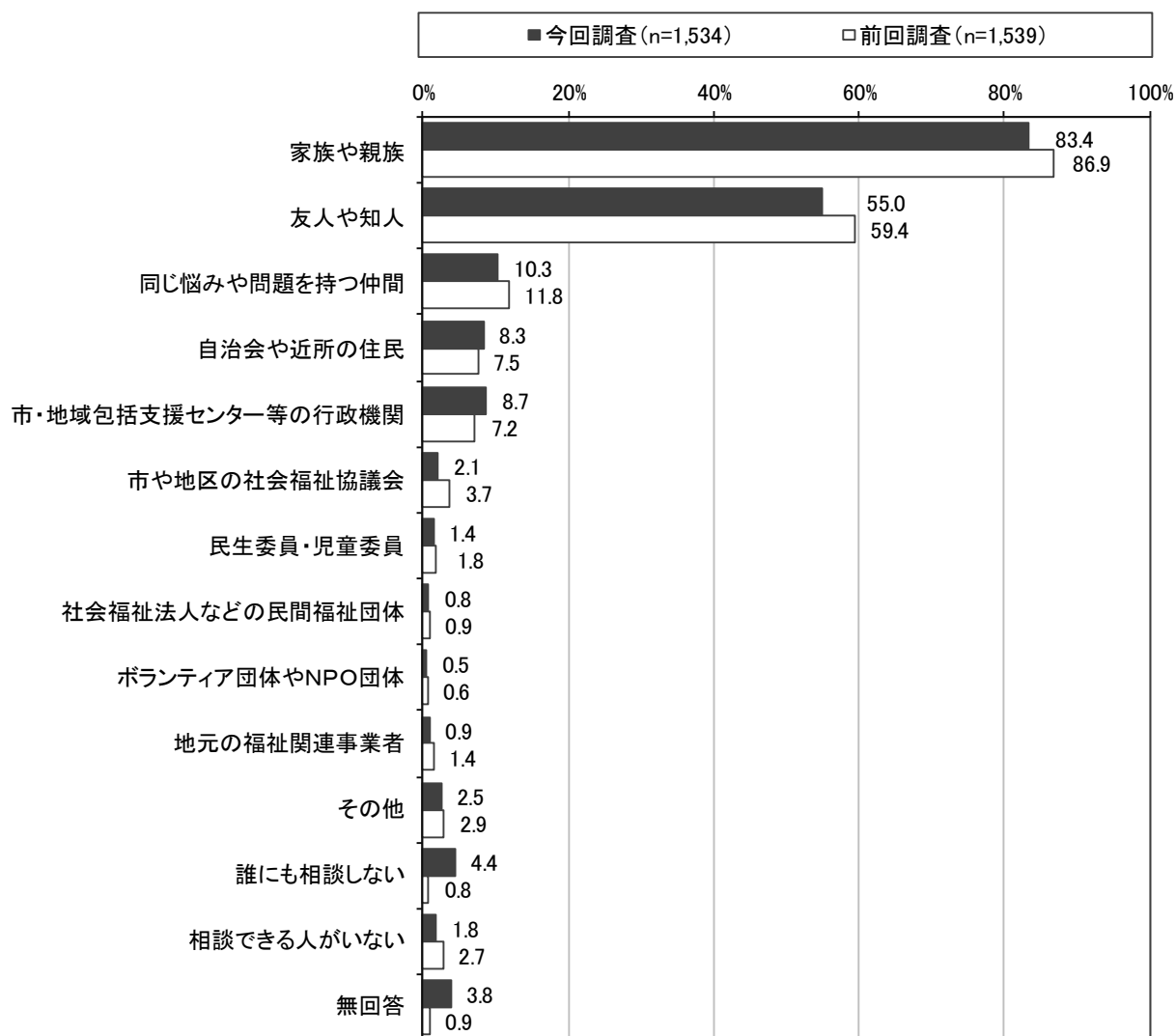
住居形態別をみると、いずれも「地域の担当者も活動内容も知らない」が最も多く、特に親・親せきの持ち家と社宅、民間賃貸アパートでは、全体より10ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		知 地 域 の 担 当 者 も 活 動 内 容 も	活 地 域 内 の 担 当 者 は よ く わ か ら な い が、	地 活 動 内 容 は 知 つ て い る が、	知 地 域 の 担 当 者 も 活 動 内 容 も	無 回 答	
合計	(n=1,534)	8.9	14.1	22.7	52.1	2.2	
同居者別	乳児(1歳未満)	(n=30)	3.3	10.0	23.3	63.3	0.0
	小学校前の幼児	(n=177)	1.7	5.1	11.3	80.8	1.1
	小学生	(n=172)	3.5	11.6	19.8	63.4	1.7
	中学生・高校生	(n=181)	5.0	14.4	27.6	50.8	2.2
	65歳以上の人	(n=528)	12.5	19.5	23.5	41.9	2.7
	介護を必要とする人	(n=84)	13.1	26.2	21.4	36.9	2.4
	障がいのある人	(n=102)	9.8	7.8	26.5	53.9	2.0
	いずれもない	(n=518)	8.1	12.9	24.1	52.5	2.3
住居形態別	自分又は配偶者の持ち家	(n=1,156)	9.4	15.6	24.5	48.9	1.6
	親・親せきの持ち家	(n=203)	4.9	10.8	14.3	67.0	3.0
	都市再生機構の賃貸	(n=58)	10.3	13.8	20.7	55.2	0.0
	社宅	(n=9)	0.0	0.0	11.1	77.8	11.1
	民間賃貸マンション	(n=8)	0.0	12.5	25.0	50.0	12.5
	民間賃貸アパート	(n=22)	0.0	4.5	22.7	72.7	0.0
	その他	(n=45)	13.3	2.2	24.4	51.1	8.9

問 23 あなたは生活上の心配事や困り事について助言や手助けが欲しいときに、誰に相談していますか。（複数回答／3つまで）

「家族や親族」が83.4%と最も多く、次いで「友人や知人」が55.0%、「同じ悩みや問題を持つ仲間」が10.3%となっています。一方、「相談できる人がいない」が1.8%となっています。

前回調査と比較すると、ほぼ同じ傾向となっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年齢別をみると、いずれも「家族や親族」が最も多く、特に 30～39 歳では全体より5ポイント以上多くなっています。また、18～29 歳と 40～49 歳では「友人や知人」と「同じ悩みや問題を持つ仲間」が、30～39 歳では「友人や知人」が、全体より5ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、全体とほぼ同じ傾向となっています。

(単位:%)		家族や親族	友人や知人	同じ悩みや問題を持つ仲間	自治会や近所の住民	市・地域の行政機関 包括支援センター等	市や地区の社会福祉協議会	民生委員・児童委員	社会福祉法人などの 民間福祉団体	NPO団体 ボランティア団体や	地元の福祉関連事業者	その他	誰にも相談しない	相談できる人がいない	無回答	
合計	(n=1,534)	83.4	55.0	10.3	8.3	8.7	2.1	1.4	0.8	0.5	0.9	2.5	4.4	1.8	3.8	
年齢別	18～29歳	(n=127)	82.7	74.0	17.3	2.4	3.1	0.0	0.8	0.0	0.0	5.5	5.5	1.6	1.6	
	30～39歳	(n=189)	89.4	69.3	14.3	10.1	6.3	0.5	1.1	0.5	1.6	3.7	1.6	1.1	4.2	
	40～49歳	(n=251)	86.9	67.7	15.5	5.2	7.6	1.2	0.0	0.0	0.0	2.4	4.4	2.4	2.8	
	50～59歳	(n=246)	82.1	57.3	12.2	8.9	9.3	1.6	0.0	1.2	0.0	0.4	2.4	5.3	1.6	3.7
	60～69歳	(n=321)	84.1	51.7	7.2	8.7	8.7	2.5	1.2	1.6	0.3	0.6	1.9	5.0	1.9	3.7
	70歳以上	(n=371)	78.7	34.2	3.8	10.5	12.9	4.3	4.3	0.3	1.3	2.2	1.9	4.3	1.9	4.9
地区別	木下	(n=96)	78.1	46.9	10.4	3.1	7.3	2.1	1.0	0.0	1.0	1.0	8.3	4.2	0.0	4.2
	小林	(n=129)	82.9	57.4	6.2	11.6	6.2	0.8	0.8	1.6	1.6	0.8	1.6	5.4	0.8	3.1
	大森・永治	(n=105)	84.8	58.1	10.5	9.5	12.4	4.8	1.9	0.0	0.0	0.0	1.0	3.8	0.0	3.8
	ニュータウン中央北	(n=197)	80.7	55.3	10.7	10.2	8.1	2.0	2.0	1.0	0.5	1.0	2.0	4.1	2.0	7.6
	船穂・牧の原	(n=363)	86.0	57.9	10.7	7.7	8.3	2.2	2.2	0.6	0.3	0.8	3.6	5.0	1.7	2.5
	ニュータウン中央南	(n=276)	87.7	55.8	10.5	9.8	8.3	0.7	0.4	0.7	0.4	2.2	2.5	4.7	2.2	1.8
	印旛	(n=211)	82.5	50.7	12.3	7.1	10.4	2.4	0.0	0.9	0.0	0.0	1.4	2.8	2.8	3.3
	本埜	(n=133)	80.5	54.9	10.5	6.0	9.0	3.0	3.0	1.5	0.8	0.8	0.8	2.3	2.3	6.0

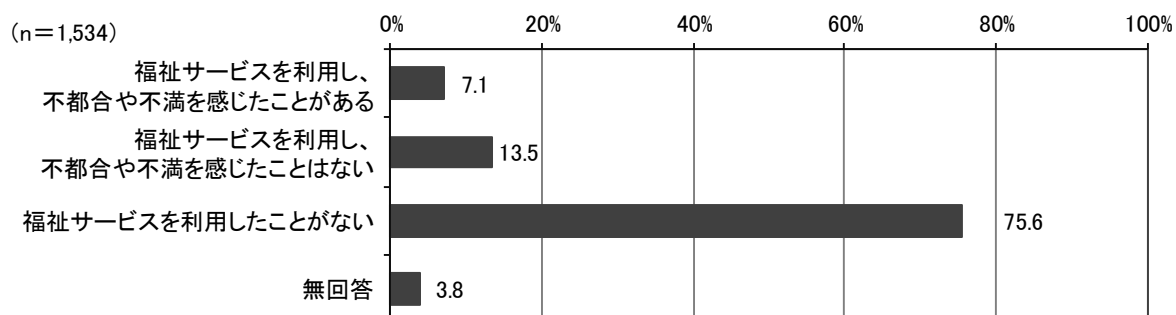
同居者別をみると、いずれも「家族や親族」が最も多く、特に乳児（1歳未満）では、全体より10ポイント以上多くなっています。また、小学校前の幼児と小学生、中学生・高校生では「友人や知人」が、全体より10ポイント以上多くなっています。

住居形態別をみると、いずれも「家族や親族」が最も多くなっています。また、民間賃貸マンションでは「その他」が、全体より10ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		家族や親族	友人や知人	同じ悩みや問題を持つ仲間	自治会や近所の住民	市・地域包括支援センター等	市や地区の社会福祉協議会	民生委員・児童委員	民間福祉法人などの	社会福祉法人などの	NPO団体	ボランティア団体や	地元の福祉関連事業者	その他	誰にも相談しない	相談できる人がいない	無回答
合計	(n=1,534)	83.4	55.0	10.3	8.3	8.7	2.1	1.4	0.8	0.5	0.9	0.9	2.5	4.4	1.8	3.8	
同居者別	乳児(1歳未満)	(n=30)	96.7	63.3	10.0	6.7	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	
	小学校前の幼児	(n=177)	91.5	66.7	13.0	10.7	7.9	0.6	0.0	0.0	0.0	1.1	7.3	2.3	0.0	1.7	
	小学生	(n=172)	88.4	72.7	16.3	8.7	5.8	2.3	0.0	0.6	0.0	0.6	2.3	3.5	0.0	2.9	
	中学生・高校生	(n=181)	86.7	71.8	16.0	5.5	6.6	2.2	0.0	0.6	0.0	0.0	2.2	2.8	2.8	2.8	
	65歳以上の人	(n=528)	83.5	47.7	10.4	8.3	10.8	2.8	1.9	1.1	0.6	2.1	2.5	5.1	0.8	3.8	
	介護を必要とする人	(n=84)	88.1	46.4	14.3	8.3	22.6	7.1	3.6	3.6	1.2	3.6	2.4	1.2	1.2	2.4	
	障がいのある人	(n=102)	77.5	45.1	17.6	4.9	10.8	5.9	2.9	6.9	2.0	2.0	2.0	4.9	2.0	4.9	
いずれもない	(n=518)	81.1	53.5	7.9	7.9	8.1	1.4	1.5	0.2	0.8	0.2	1.9	5.0	3.1	4.6		
住居形態別	自分又は配偶者の持ち家	(n=1,156)	83.6	55.7	9.9	9.9	9.3	2.3	1.4	0.9	0.5	0.9	2.5	4.2	1.6	3.5	
	親・親せきの持ち家	(n=203)	85.7	64.5	12.8	3.4	6.4	1.0	1.0	1.0	0.0	1.0	3.0	3.9	1.0	3.9	
	都市再生機構の賃貸	(n=58)	82.8	37.9	13.8	3.4	12.1	0.0	1.7	0.0	1.7	0.0	0.0	10.3	5.2	1.7	
	社宅	(n=9)	88.9	33.3	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	
	民間賃貸マンション	(n=8)	87.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	12.5	
	民間賃貸アパート	(n=22)	68.2	40.9	0.0	0.0	9.1	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	9.1	4.5	4.5	
	その他	(n=45)	80.0	35.6	13.3	0.0	6.7	4.4	4.4	0.0	0.0	0.0	2.2	2.2	2.2	8.9	

問 24 あなたやご家族は、福祉サービスの利用に関して、これまでに不都合を感じたり、不満に思ったことはありますか。（単数回答）

「福祉サービスを利用したことがない」が75.6%と最も多く、次いで「福祉サービスを利用し、不都合や不満を感じたことはない」が13.5%、「福祉サービスを利用し、不都合や不満を感じたことがある」が7.1%となっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年齢別をみると、いずれも「福祉サービスを利用したことがない」が最も多く、特に40～49歳では全体より5ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、いずれも「福祉サービスを利用したことがない」が最も多くなっています。また、小林では「福祉サービスを利用し、不都合や不満を感じたことがある」が、木下では「福祉サービスを利用し、不都合や不満を感じたことはない」が、全体より5ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		こ と が あ る 不 満 を 感 じ た し、	こ と は な い 不 満 を 感 じ た し、	こ と が な い 福 祉 サ ー ビ ス を 利 用 し た	無 回 答	
合計	(n=1,534)	7.1	13.5	75.6	3.8	
年 齢 別	18～29歳	(n=127)	5.5	11.8	79.5	3.1
	30～39歳	(n=189)	10.1	11.1	76.7	2.1
	40～49歳	(n=251)	6.0	9.2	84.1	0.8
	50～59歳	(n=246)	9.3	15.4	72.8	2.4
	60～69歳	(n=321)	7.5	14.0	74.1	4.4
	70歳以上	(n=371)	4.9	15.9	72.2	7.0
地 区 別	木下	(n=96)	4.2	20.8	69.8	5.2
	小林	(n=129)	13.2	11.6	72.1	3.1
	大森・永治	(n=105)	4.8	16.2	72.4	6.7
	ニュータウン中央北	(n=197)	5.6	14.2	76.6	3.6
	船穂・牧の原	(n=363)	8.0	10.2	79.6	2.2
	ニュータウン中央南	(n=276)	7.2	11.6	79.0	2.2
	印旛	(n=211)	4.7	16.6	73.5	5.2
本埜	(n=133)	8.3	15.0	72.2	4.5	

同居者別をみると、介護を必要とする人と障がいのある人では「福祉サービスを利用し、不都合や不満を感じたことはない」が、それ以外の同居者では「福祉サービスを利用したことがない」が最も多く、特に介護を必要とする人と障がいのある人では「福祉サービスを利用し、不都合や不満を感じたことはない」が、全体より10ポイント以上多くなっています。また、障がいのある人では「福祉サービスを利用し、不都合や不満を感じたことがある」が、全体より10ポイント以上多くなっています。

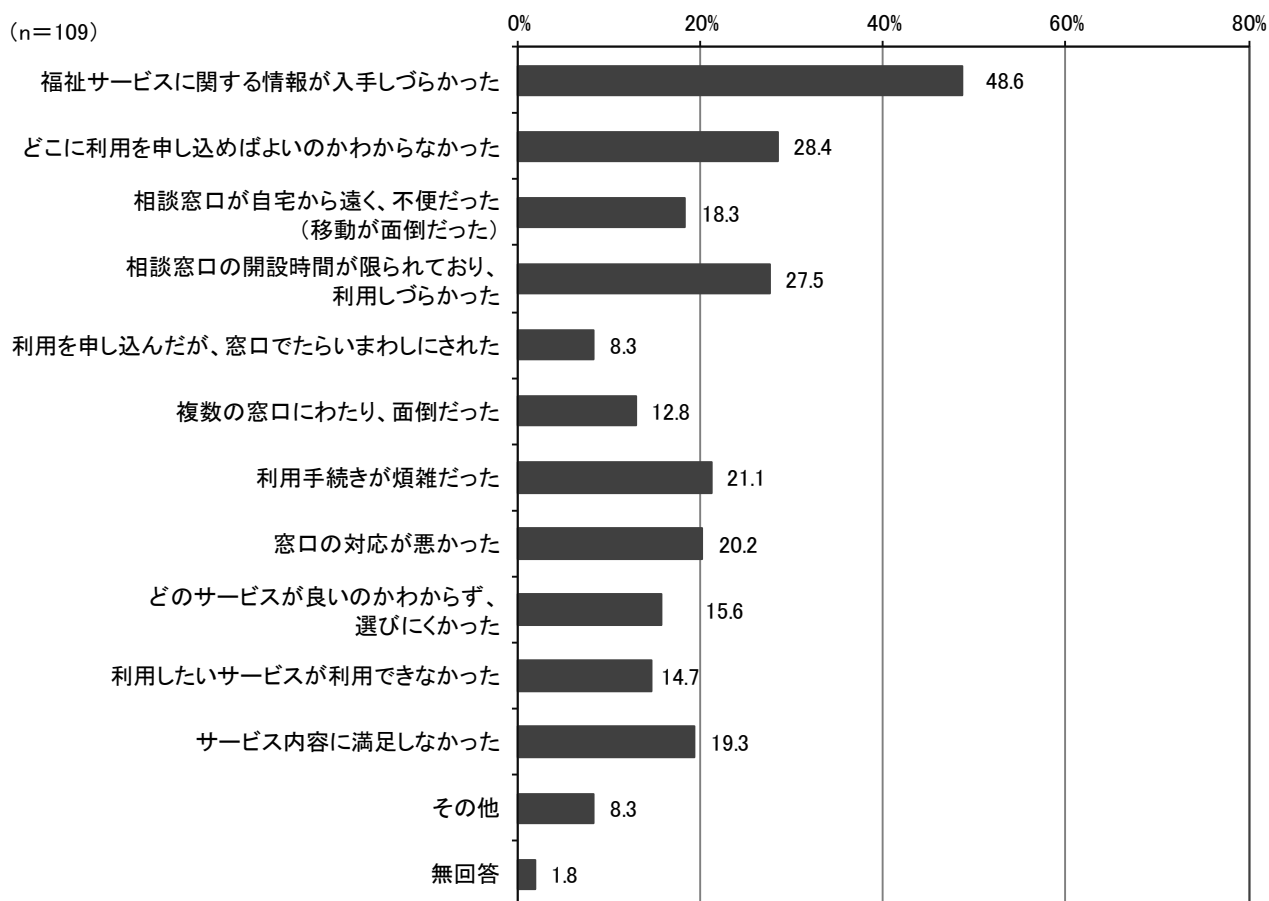
住居形態別をみると、いずれも「福祉サービスを利用したことがない」が最も多く、特に社宅では全体より10ポイント以上多くなっています。また、民間賃貸マンションでは「福祉サービスを利用し、不都合や不満を感じたことがある」が、その他では「福祉サービスを利用し、不都合や不満を感じたことはない」が、ともに全体より10ポイント以上多くなっています。

(単位：%)		こ と が あ る 不 合 や 不 満 を 感 じ た し、	こ と は な い 不 満 を 感 じ た し、	こ と が な い 福 祉 サ ー ビ ス を 利 用 し た	無 回 答	
合計	(n=1,534)	7.1	13.5	75.6	3.8	
同居者別	乳児(1歳未満)	(n=30)	10.0	13.3	76.7	0.0
	小学校前の幼児	(n=177)	7.9	9.6	80.2	2.3
	小学生	(n=172)	7.6	9.3	81.4	1.7
	中学生・高校生	(n=181)	6.1	11.6	80.7	1.7
	65歳以上の人	(n=528)	6.4	18.0	71.0	4.5
	介護を必要とする人	(n=84)	16.7	45.2	32.1	6.0
	障がいのある人	(n=102)	25.5	39.2	32.4	2.9
いずれもない	(n=518)	5.4	8.3	82.4	3.9	
住居形態別	自分又は配偶者の持ち家	(n=1,156)	7.0	12.6	76.6	3.7
	親・親せきの持ち家	(n=203)	7.4	14.3	74.4	3.9
	都市再生機構の賃貸	(n=58)	6.9	17.2	75.9	0.0
	社宅	(n=9)	0.0	0.0	88.9	11.1
	民間賃貸マンション	(n=8)	37.5	0.0	50.0	12.5
	民間賃貸アパート	(n=22)	4.5	13.6	77.3	4.5
	その他	(n=45)	4.4	26.7	64.4	4.4

(問 24 で「福祉サービスを利用し、不都合や不満を感じたことがある」を選んだ方)

問 24-1 不都合を感じたり、不満に思ったことは、どのようなことですか。(複数回答)

「福祉サービスに関する情報が入手しづらかった」が 48.6%と最も多く、次いで「どこに利用を申し込めばよいのかわからなかった」が 28.4%、「相談窓口の開設時間が限られており、利用しづらかった」が 27.5%となっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年齢別をみると、18～29歳と40～49歳では「相談窓口の開設時間が限られており、利用しづらかった」が、それ以外の年齢では「福祉サービスに関する情報が入手しづらかった」が最も多く、特に18～29歳と40～49歳では「相談窓口の開設時間が限られており、利用しづらかった」が、50～59歳では「福祉サービスに関する情報が入手しづらかった」が、全体より10ポイント以上多くなっています。また、18～29歳では「利用したいサービスが利用できなかった」が、30～39歳では「相談窓口が自宅から遠く、不便だった」が、40～49歳では「利用を申し込んだが、窓口でたらいまわしにされた」が、50～59歳では「どこに利用を申し込めばよいのかわからなかった」が、60～69歳では「どのサービスが良いのかわからず、選びにくかった」が、いずれも全体より10ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、大森・永治では「福祉サービスに関する情報が入手しづらかった」と「相談窓口の開設時間が限られており、利用しづらかった」が、ニュータウン中央北では「どこに利用を申し込めばよいのかわからなかった」が、本埜では「どこに利用を申し込めばよいのかわからなかった」と「相談窓口が自宅から遠く、不便だった」、「相談窓口の開設時間が限られており、利用しづらかった」、「サービス内容に満足しなかった」が、それ以外の地区の地区では「福祉サービスに関する情報が入手しづらかった」が最も多く、特に、木下と小林、大森・永治では「福祉サービスに関する情報が入手しづらかった」が、大森・永治では「相談窓口の開設時間が限られており、利用しづらかった」が、いずれも全体より10ポイント以上多くなっています。

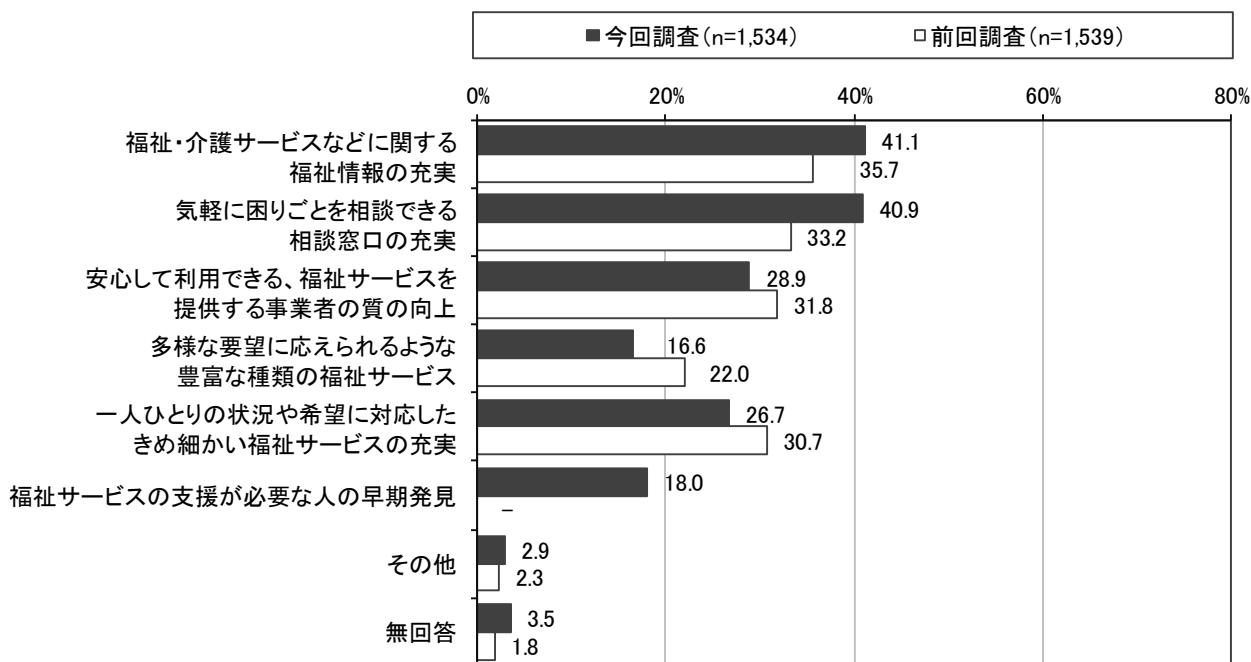
(単位:%)		入 手 し づ ら か つ た	福 祉 サ ー ビ ス に 関 す る 情 報 が	よ い の か わ ら な か つ た	ど こ に 利 用 を 申 し 込 め ば	相 談 窓 口 が 自 宅 か ら 遠 く、 不 便 だ つ た	お お り、 利 用 し づ ら か つ た	相 談 窓 口 の 開 設 時 間 が 限 ら れ	た ら い ま わ し に さ れ た	利 用 を 申 し 込 ん だ が、 窓 口 で	面 倒 だ つ た	複 数 の 窓 口 に わ た り、	利 用 手 続 き が 煩 雑 だ つ た	窓 口 の 対 応 が 悪 か つ た	わ か ら ず、 選 び に く い か つ た	ど の サ ー ビ ス が 良 い の か つ た	利 用 し づ ら か つ た	利 用 し づ ら か つ た	満 足 し な か つ た	サ ー ビ ス 内 容 に	そ の 他	無 回 答
合計	(n=109)	48.6	28.4	18.3	27.5	8.3	12.8	21.1	20.2	15.6	14.7	19.3	8.3	1.8								
年 齢 別	18～29歳	(n=7)	42.9	28.6	14.3	57.1	14.3	14.3	28.6	28.6	0.0	28.6	0.0	0.0								
	30～39歳	(n=19)	42.1	36.8	31.6	31.6	0.0	10.5	15.8	21.1	15.8	15.8	26.3	15.8								
	40～49歳	(n=15)	33.3	6.7	20.0	40.0	20.0	13.3	20.0	13.3	6.7	20.0	13.3	26.7								
	50～59歳	(n=23)	60.9	39.1	13.0	30.4	4.3	8.7	21.7	21.7	8.7	8.7	21.7	4.3								
	60～69歳	(n=24)	54.2	20.8	8.3	20.8	12.5	20.8	25.0	29.2	29.2	12.5	25.0	0.0								
	70歳以上	(n=18)	50.0	33.3	27.8	11.1	5.6	11.1	22.2	11.1	16.7	11.1	16.7	5.6								
地 区 別	木下	(n=4)	100.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0								
	小林	(n=17)	58.8	23.5	5.9	11.8	5.9	11.8	11.8	23.5	29.4	0.0	17.6	5.9								
	大森・永治	(n=5)	80.0	40.0	20.0	80.0	0.0	0.0	40.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0								
	ニュータウン中央北	(n=11)	45.5	54.5	18.2	27.3	0.0	18.2	27.3	9.1	18.2	9.1	27.3	18.2								
	船穂・牧の原	(n=29)	44.8	17.2	24.1	34.5	6.9	10.3	24.1	24.1	0.0	20.7	17.2	10.3								
	ニュータウン中央南	(n=20)	45.0	35.0	30.0	20.0	5.0	30.0	20.0	30.0	20.0	25.0	25.0	5.0								
	印旛	(n=10)	50.0	20.0	0.0	30.0	20.0	10.0	40.0	0.0	20.0	10.0	10.0	0.0								
	本埜	(n=11)	18.2	27.3	27.3	27.3	18.2	0.0	9.1	18.2	18.2	18.2	27.3	9.1								

問 25 印西市の福祉サービスに関して、必要あるいは重要と思うことを選んでください。

(複数回答／2つまで)

「福祉・介護サービスなどに関する福祉情報の充実」が 41.1%と最も多く、次いで「気軽に困りごとを相談できる相談窓口の充実」が 40.9%、「安心して利用できる、福祉サービスを提供する事業者の質の向上」が 28.9%、「一人ひとりの状況や希望に対応したきめ細かい福祉サービスの充実」が 26.7%となっています。

前回調査と比較すると、「気軽に困りごとを相談できる相談窓口の充実」が 7.7 ポイント、「福祉・介護サービスなどに関する福祉情報の充実」が 5.4 ポイント前回より多く、反対に「多様な要望に応えられるような豊富な種類の福祉サービス」が 5.4 ポイント前回より少なくなっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年齢別をみると、30～39歳と50～59歳では「気軽に困りごとを相談できる相談窓口の充実」が、40～49歳では「福祉・介護サービスなどに関する福祉情報の充実」と「気軽に困りごとを相談できる相談窓口の充実」が、それ以外の年齢では「福祉・介護サービスなどに関する福祉情報の充実」が最も多く、特に60～69歳では「福祉・介護サービスなどに関する福祉情報の充実」が、50～59歳では「気軽に困りごとを相談できる相談窓口の充実」が、全体より5ポイント以上多くなっています。また、18～29歳では「福祉サービスの支援が必要な人の早期発見」が、50～59歳では「安心して利用できる、福祉サービスを提供する事業者の質の向上」が、全体より5ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、木下とニュータウン中央南、本埜では「気軽に困りごとを相談できる相談窓口の充実」が、それ以外の地区では「福祉・介護サービスなどに関する福祉情報の充実」が最も多く、特に小林では「福祉・介護サービスなどに関する福祉情報の充実」が、本埜では「気軽に困りごとを相談できる相談窓口の充実」が、全体より5ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		福祉・介護サービス情報などの充実	気軽に困りごとを相談できる相談窓口の充実	安心して利用できる事業者の質の向上	多様な要望に応えられるサービス	対応したきり細かい福祉サービス	一人ひとりの状況や希望に合わせた早期発見の支援が必要な	その他	無回答	
合計	(n=1,534)	41.1	40.9	28.9	16.6	26.7	18.0	2.9	3.5	
年齢別	18～29歳	(n=127)	37.8	31.5	27.6	19.7	23.6	23.6	7.9	3.1
	30～39歳	(n=189)	34.9	35.4	30.2	22.8	25.4	19.0	4.2	2.1
	40～49歳	(n=251)	39.4	39.4	30.3	21.1	26.3	21.1	2.4	2.0
	50～59歳	(n=246)	33.7	46.7	35.8	16.3	26.0	19.5	1.2	2.4
	60～69歳	(n=321)	49.2	42.7	27.4	14.0	28.0	15.0	3.1	2.5
70歳以上	(n=371)	44.2	42.9	25.1	11.1	27.5	15.6	2.2	6.7	
地区別	木下	(n=96)	39.6	43.8	27.1	19.8	22.9	17.7	1.0	7.3
	小林	(n=129)	48.1	39.5	31.8	17.8	20.9	17.1	1.6	3.9
	大森・永治	(n=105)	44.8	41.0	21.9	18.1	27.6	22.9	1.0	2.9
	ニュータウン中央北	(n=197)	41.6	39.6	28.4	16.2	29.4	18.3	4.6	2.0
	船穂・牧の原	(n=363)	40.2	37.7	29.2	17.9	28.9	17.9	3.0	4.1
	ニュータウン中央南	(n=276)	40.6	45.7	32.2	14.9	24.6	19.6	2.5	1.1
	印旛	(n=211)	41.7	36.5	29.4	16.6	23.7	13.3	4.3	4.3
本埜	(n=133)	34.6	48.1	26.3	14.3	31.6	19.5	3.0	4.5	

同居者別をみると、乳児（1歳未満）では「福祉・介護サービスなどに関する福祉情報の充実」と「気軽に困りごとを相談できる相談窓口の充実」、「安心して利用できる、福祉サービスを提供する事業者の質の向上」が、中学生・高校生と障がいのある人、いずれもいないでは「気軽に困りごとを相談できる相談窓口の充実」が、それ以外の同居者では「福祉・介護サービスなどに関する福祉情報の充実」が最も多くなっています。また、乳児（1歳未満）では「多様な要望に応えられるような豊富な種類の福祉サービス」が、障がいのある人では「一人ひとりの状況や希望に対応したきめ細かい福祉サービスの充実」が、ともに全体より10ポイント以上多くなっています。

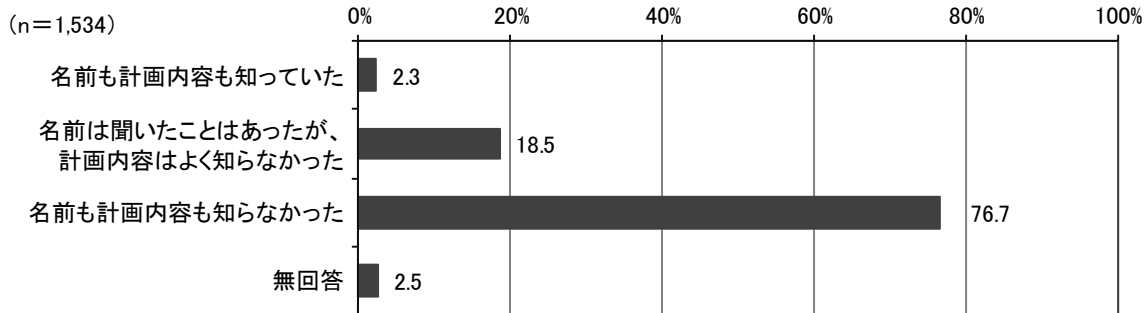
住居形態別をみると、都市再生機構の賃貸と社宅では「気軽に困りごとを相談できる相談窓口の充実」が、民間賃貸マンションでは「福祉・介護サービスなどに関する福祉情報の充実」と「気軽に困りごとを相談できる相談窓口の充実」、「多様な要望に応えられるような豊富な種類の福祉サービス」、「一人ひとりの状況や希望に対応したきめ細かい福祉サービスの充実」が、民間賃貸アパートでは「気軽に困りごとを相談できる相談窓口の充実」と「多様な要望に応えられるような豊富な種類の福祉サービス」、「一人ひとりの状況や希望に対応したきめ細かい福祉サービスの充実」が、その他では「福祉・介護サービスなどに関する福祉情報の充実」と「一人ひとりの状況や希望に対応したきめ細かい福祉サービスの充実」が、それ以外の同居者では「福祉・介護サービスなどに関する福祉情報の充実」が最も多くなっています。また、社宅では「気軽に困りごとを相談できる相談窓口の充実」が、民間賃貸マンションでは「多様な要望に応えられるような豊富な種類の福祉サービス」と「一人ひとりの状況や希望に対応したきめ細かい福祉サービスの充実」が、その他では「一人ひとりの状況や希望に対応したきめ細かい福祉サービスの充実」が、いずれも全体より10ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		福祉・介護サービスなどに関する福祉情報の充実	気軽に困りごとを相談できる相談窓口の充実	安心して利用できる事業者の質の向上	多様な要望に応えられるような豊富な種類の福祉サービス	一人ひとりの状況や希望に対応したきめ細かい福祉サービス	福祉サービスの早期発見の支援が必要な	その他	無回答	
合計	(n=1,534)	41.1	40.9	28.9	16.6	26.7	18.0	2.9	3.5	
同居者別	乳児(1歳未満)	(n=30)	33.3	33.3	33.3	26.7	16.7	16.7	3.3	3.3
	小学校前の幼児	(n=177)	36.2	34.5	28.8	23.7	26.0	22.0	2.3	2.3
	小学生	(n=172)	36.6	36.0	29.1	16.3	29.7	21.5	3.5	2.9
	中学生・高校生	(n=181)	35.9	39.8	34.3	18.8	26.0	19.9	3.3	2.2
	65歳以上の人	(n=528)	45.3	38.4	25.4	14.8	30.7	18.8	2.8	4.9
	介護を必要とする人	(n=84)	40.5	34.5	32.1	25.0	29.8	20.2	0.0	3.6
	障がいのある人	(n=102)	37.3	42.2	25.5	14.7	38.2	19.6	1.0	3.9
いずれもいない	(n=518)	40.7	45.2	29.5	16.2	23.2	16.6	3.7	3.3	
住居形態別	自分又は配偶者の持ち家	(n=1,156)	41.1	43.5	29.6	16.3	26.4	17.2	2.2	3.3
	親・親せきの持ち家	(n=203)	45.3	27.6	25.1	15.3	23.2	24.1	6.9	5.4
	都市再生機構の賃貸	(n=58)	41.4	50.0	34.5	12.1	29.3	17.2	1.7	0.0
	社宅	(n=9)	11.1	66.7	11.1	11.1	11.1	11.1	0.0	22.2
	民間賃貸マンション	(n=8)	37.5	37.5	12.5	37.5	37.5	0.0	25.0	0.0
	民間賃貸アパート	(n=22)	13.6	31.8	27.3	31.8	31.8	22.7	4.5	0.0
その他	(n=45)	40.0	28.9	31.1	22.2	40.0	17.8	2.2	2.2	

6. 地域福祉の推進について

問 26 印西市が策定している「地域福祉計画」をご存知でしたか。(単数回答)

「名前も計画内容も知らなかった」が 76.7%と最も多く、次いで「名前は聞いたことはあったが、計画内容はよく知らなかった」が 18.5%、「名前も計画内容も知っていた」が 2.3%となっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年齢別をみると、いずれも「名前も計画内容も知らなかった」が最も多く、特に 30～49 歳では全体より 10 ポイント以上多くなっています。また、70 歳以上では「名前は聞いたことはあったが、計画内容はよく知らなかった」が、全体より 10 ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、いずれも「名前も計画内容も知らなかった」が最も多くなっています。また、大森・永治では「名前は聞いたことはあったが、計画内容はよく知らなかった」が、全体より 10 ポイント以上多くなっています。

		名前も計画内容も知っていた	名前は聞いたことはあったが、計画内容はよく知らなかった	名前も計画内容も知らなかった	無回答
(単位:%)					
合計 (n=1,534)		2.3	18.5	76.7	2.5
年齢別	18～29歳 (n=127)	1.6	11.8	84.3	2.4
	30～39歳 (n=189)	0.0	11.1	88.4	0.5
	40～49歳 (n=251)	0.8	11.2	86.9	1.2
	50～59歳 (n=246)	0.8	15.9	82.5	0.8
	60～69歳 (n=321)	4.0	20.2	73.8	1.9
	70歳以上 (n=371)	4.0	30.5	59.6	5.9
	地区別	木下 (n=96)	3.1	16.7	74.0
小林 (n=129)		2.3	22.5	71.3	3.9
大森・永治 (n=105)		4.8	29.5	62.9	2.9
ニュータウン中央北 (n=197)		2.0	14.7	81.2	2.0
船穂・牧の原 (n=363)		1.7	16.8	79.9	1.7
ニュータウン中央南 (n=276)		2.5	16.3	79.3	1.8
印旛 (n=211)		1.4	16.6	79.6	2.4
本埜 (n=133)		2.3	23.3	71.4	3.0

同居者別をみると、いずれも「名前も計画内容も知らなかった」が最も多く、特に乳児（1歳未満）では全体より10ポイント以上多くなっています。また、介護を必要とする人では「名前は聞いたことはあったが、計画内容はよく知らなかった」が、全体より10ポイント以上多くなっています。

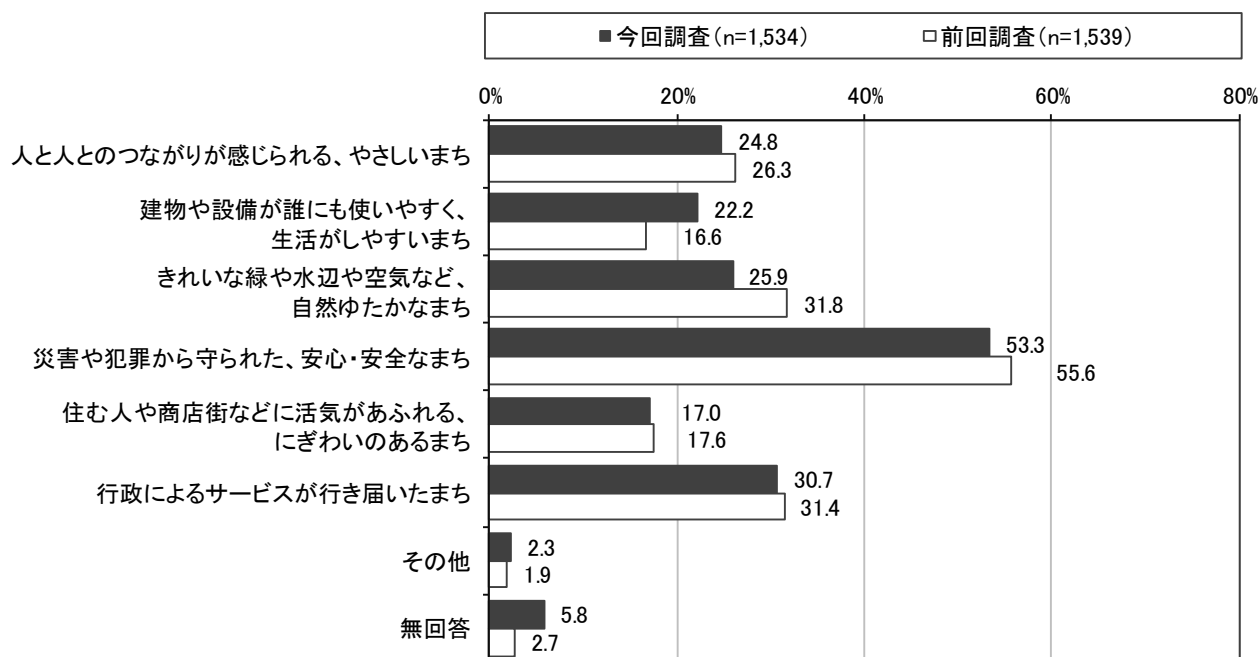
住居形態別をみると、いずれも「名前も計画内容も知らなかった」が最も多く、特に民間賃貸マンションでは全体より10ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		名前も計画内容も知っていた	名前も計画内容は聞いたことはあったが、計画内容はよく知らなかった	名前も計画内容も知らなかった	無回答									
						合計	乳児(1歳未満)	小学校前の幼児	小学生	中学生・高校生	65歳以上の人	介護を必要とする人	障がいのある人	いずれもない
合計	(n=1,534)	2.3	18.5	76.7	2.5									
同居者別	乳児(1歳未満)	(n=30)	0.0	6.7	93.3	0.0								
	小学校前の幼児	(n=177)	0.0	15.8	83.1	1.1								
	小学生	(n=172)	1.2	16.3	80.8	1.7								
	中学生・高校生	(n=181)	1.1	12.7	86.2	0.0								
	65歳以上の人	(n=528)	3.4	20.3	71.8	4.5								
	介護を必要とする人	(n=84)	1.2	31.0	66.7	1.2								
	障がいのある人	(n=102)	4.9	22.5	69.6	2.9								
住居形態別	いずれもない	(n=518)	1.7	19.1	77.4	1.7								
	自分又は配偶者の持ち家	(n=1,156)	2.3	19.7	75.4	2.5								
	親・親せきの持ち家	(n=203)	1.0	14.8	82.3	2.0								
	都市再生機構の賃貸社宅	(n=58)	5.2	17.2	77.6	0.0								
	民間賃貸マンション	(n=8)	0.0	12.5	87.5	0.0								
	民間賃貸アパート	(n=22)	0.0	18.2	81.8	0.0								
	その他	(n=45)	4.4	8.9	80.0	6.7								

問 27 安心して暮らしやすい印西市にするために、将来、どのようなまちの姿をめざすべきだと思いますか。（複数回答／2つまで）

「災害や犯罪から守られた、安心・安全なまち」が 53.3%と最も多く、次いで「行政によるサービスが行き届いたまち」が 30.7%、「きれいな緑や水辺や空気など、自然ゆたかなまち」が 25.9%となっています。

前回調査と比較すると、「きれいな緑や水辺や空気など、自然ゆたかなまち」が 5.9 ポイント前回より少なくなっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年齢別をみると、いずれも「災害や犯罪から守られた、安心・安全なまち」が最も多くなっています。また、18～29歳では「建物や設備が誰にも使いやすく、生活がしやすいまち」が、全体より10ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、いずれも「災害や犯罪から守られた、安心・安全なまち」が最も多くなっています。また、大森・永治では「人と人とのつながりが感じられる、やさしいまち」が、木下と大森・永治では「住む人や商店街などに活気があふれる、にぎわいのあるまち」が、いずれも全体より10ポイント以上多くなっています。

(単位：%)		人と人とのつながりが感じられる、やさしいまち	建物や設備が誰にも使いやすく、生活がしやすいまち	きれいな緑や水辺や空気など、自然ゆたかなまち	災害や犯罪から守られた、安心・安全なまち	住む人や商店街などに活気があふれる、にぎわいのあるまち	行政によるサービスが行き届いたまち	その他	無回答	
合計	(n=1,534)	24.8	22.2	25.9	53.3	17.0	30.7	2.3	5.8	
年齢別	18～29歳	(n=127)	26.0	35.4	26.0	50.4	22.0	18.9	1.6	3.9
	30～39歳	(n=189)	23.8	31.2	24.9	49.7	23.8	30.2	2.6	4.8
	40～49歳	(n=251)	19.1	26.7	29.9	53.0	18.7	31.1	3.2	4.4
	50～59歳	(n=246)	22.8	22.8	24.0	61.4	16.3	31.7	1.2	4.9
	60～69歳	(n=321)	24.6	16.8	29.6	53.3	13.7	32.4	2.5	5.9
	70歳以上	(n=371)	29.4	15.4	21.8	49.3	14.3	33.7	2.4	8.4
地区別	木下	(n=96)	24.0	21.9	20.8	47.9	28.1	27.1	2.1	9.4
	小林	(n=129)	29.5	14.0	29.5	48.8	25.6	24.0	2.3	4.7
	大森・永治	(n=105)	38.1	13.3	23.8	48.6	30.5	19.0	1.9	6.7
	ニュータウン中央北	(n=197)	21.8	25.9	25.4	55.8	12.2	36.0	2.0	5.6
	船穂・牧の原	(n=363)	21.2	24.5	25.9	53.4	15.4	30.9	4.4	6.1
	ニュータウン中央南	(n=276)	24.3	25.0	27.9	54.0	14.5	34.4	1.4	5.1
	印旛	(n=211)	26.5	22.7	22.3	53.1	13.7	34.6	0.9	4.3
	本埜	(n=133)	22.6	20.3	30.1	60.2	12.0	26.3	2.3	6.8

同居者別をみると、乳児（1歳未満）では「建物や設備が誰にも使いやすく、生活がしやすいまち」と「災害や犯罪から守られた、安心・安全なまち」が、それ以外の同居者では「災害や犯罪から守られた、安心・安全なまち」が最も多く、特に乳児（1歳未満）の「建物や設備が誰にも使いやすく、生活がしやすいまち」では、全体より10ポイント以上多くなっています。また、乳児（1歳未満）では「住む人や商店街などに活気があふれる、にぎわいのあるまち」が、全体より10ポイント以上多くなっています。

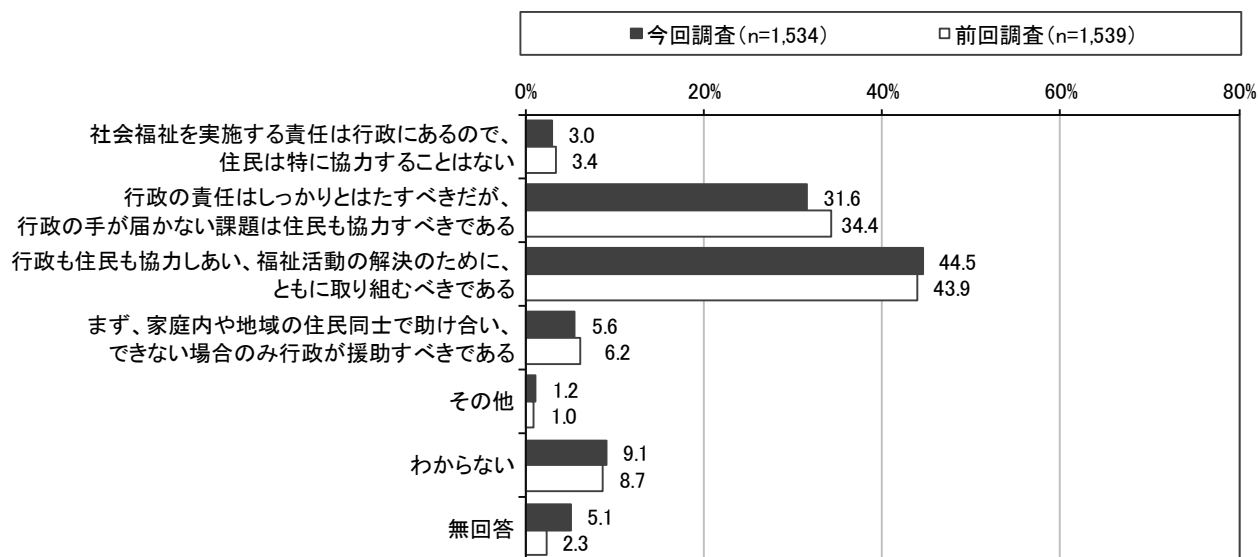
住居形態別をみると、いずれも「災害や犯罪から守られた、安心・安全なまち」が最も多く、特に民間賃貸アパートでは全体より10ポイント以上多くなっています。また、民間賃貸マンションでは「きれいな緑や水辺や空気など、自然ゆたかなまち」が、民間賃貸アパートでは「住む人や商店街などに活気があふれる、にぎわいのあるまち」が、全体より10ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		人と人のつながりがあるまち	建物や設備が誰にも使いやすい	きれいな緑や水辺や空気など、自然ゆたかなまち	災害や犯罪から守られた、安心・安全なまち	住む人や商店街などに活気があふれる、にぎわいのあるまち	行政によるサービスが	その他	無回答	
合計	(n=1,534)	24.8	22.2	25.9	53.3	17.0	30.7	2.3	5.8	
同居者別	乳児(1歳未満)	(n=30)	26.7	33.3	30.0	33.3	30.0	23.3	3.3	6.7
	小学校前の幼児	(n=177)	28.8	26.6	27.1	44.6	20.9	27.1	4.0	5.6
	小学生	(n=172)	25.0	28.5	20.9	54.1	15.1	32.0	2.3	4.7
	中学生・高校生	(n=181)	26.0	31.5	26.0	51.4	18.2	29.3	1.7	2.2
	65歳以上の人	(n=528)	26.1	18.4	26.1	50.8	14.2	33.7	2.5	8.0
	介護を必要とする人	(n=84)	29.8	15.5	29.8	48.8	16.7	29.8	0.0	7.1
	障がいのある人	(n=102)	25.5	19.6	20.6	48.0	18.6	38.2	0.0	7.8
	いずれもない	(n=518)	22.4	22.6	25.3	55.0	18.0	30.9	2.1	5.8
住居形態別	自分又は配偶者の持ち家	(n=1,156)	26.0	20.7	26.7	53.0	16.2	31.5	2.2	5.7
	親・親せきの持ち家	(n=203)	21.7	32.0	22.2	53.7	23.2	27.6	2.0	4.4
	都市再生機構の賃貸	(n=58)	15.5	20.7	31.0	53.4	13.8	31.0	3.4	10.3
	社宅	(n=9)	0.0	44.4	22.2	55.6	0.0	33.3	0.0	11.1
	民間賃貸マンション	(n=8)	25.0	12.5	37.5	50.0	12.5	25.0	0.0	12.5
	民間賃貸アパート	(n=22)	13.6	13.6	22.7	68.2	27.3	31.8	9.1	0.0
	その他	(n=45)	24.4	28.9	20.0	42.2	15.6	31.1	4.4	8.9

問 28 社会福祉サービスを充実させていく上での、行政と地域住民の関係はどうあるべきとお考えですか。（単数回答）

「行政も住民も協力しあい、福祉活動の解決のために、ともに取り組むべきである」が 44.5%と最も多く、次いで「行政の責任はしっかりととはたすべきだが、行政の手が届かない課題は住民も協力すべきである」が 31.6%となっています。

前回調査と比較すると、ほぼ同じ傾向となっています。



●クロス集計（グレー部分は最多項目）

年齢別をみると、18～29歳では「行政の責任はしっかりとはたすべきだが、行政の手が届かない課題は住民も協力すべきである」が、それ以外の年齢では「行政も住民も協力しあい、福祉活動の解決のために、ともに取り組むべきである」が最も多く、特に18～29歳では「行政の責任はしっかりとはたすべきだが、行政の手が届かない課題は住民も協力すべきである」では、全体より5ポイント以上多くなっています。

地区別をみると、いずれも「行政も住民も協力しあい、福祉活動の解決のために、ともに取り組むべきである」が最も多く、特に小林では全体より5ポイント以上多くなっています。また、ニュータウン中央南では「行政の責任はしっかりとはたすべきだが、行政の手が届かない課題は住民も協力すべきである」が、全体より5ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		はあ ない の福 社を 住 民 は 特 に 協 力 は す る こ と	住 民 が も 協 力 す る 手 が 届 か な い 課 題 は	行 政 の 責 任 は し つ つ か り と は た す べ き	の 解 決 の た め に も 協 力 し あ い 、 福 祉 活 動	行 政 も 住 民 も 協 力 し あ い 、 福 祉 活 動	援 助 す べ き で あ る	ま ず 、 家 庭 内 や 地 域 の 住 民 同 士 で	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
合計	(n=1,534)	3.0	31.6	44.5	5.6	1.2	9.1	5.1			
年齢別	18～29歳	(n=127)	4.7	37.8	35.4	7.1	0.0	11.8	3.1		
	30～39歳	(n=189)	4.8	32.3	42.9	5.3	1.6	9.5	3.7		
	40～49歳	(n=251)	2.8	34.3	43.0	6.0	1.6	9.2	3.2		
	50～59歳	(n=246)	2.8	35.4	45.1	3.7	2.0	8.5	2.4		
	60～69歳	(n=321)	2.2	30.5	47.0	5.3	1.6	9.7	3.7		
	70歳以上	(n=371)	2.7	26.1	45.6	6.7	0.5	8.1	10.2		
地区別	木下	(n=96)	5.2	21.9	44.8	8.3	0.0	10.4	9.4		
	小林	(n=129)	3.1	26.4	54.3	3.9	1.6	7.0	3.9		
	大森・永治	(n=105)	2.9	27.6	44.8	8.6	0.0	7.6	8.6		
	ニュータウン中央北	(n=197)	4.6	35.5	39.6	8.1	2.0	6.1	4.1		
	船穂・牧の原	(n=363)	3.9	29.2	47.9	3.6	1.4	9.9	4.1		
	ニュータウン中央南	(n=276)	2.5	38.0	38.4	5.1	1.4	10.9	3.6		
	印旛	(n=211)	0.9	31.3	43.1	6.6	0.9	12.3	4.7		
	本埜	(n=133)	1.5	33.1	48.9	4.5	0.8	3.8	7.5		

同居者別をみると、いずれも「行政も住民も協力しあい、福祉活動の解決のために、ともに取り組むべきである」が最も多くなっています。

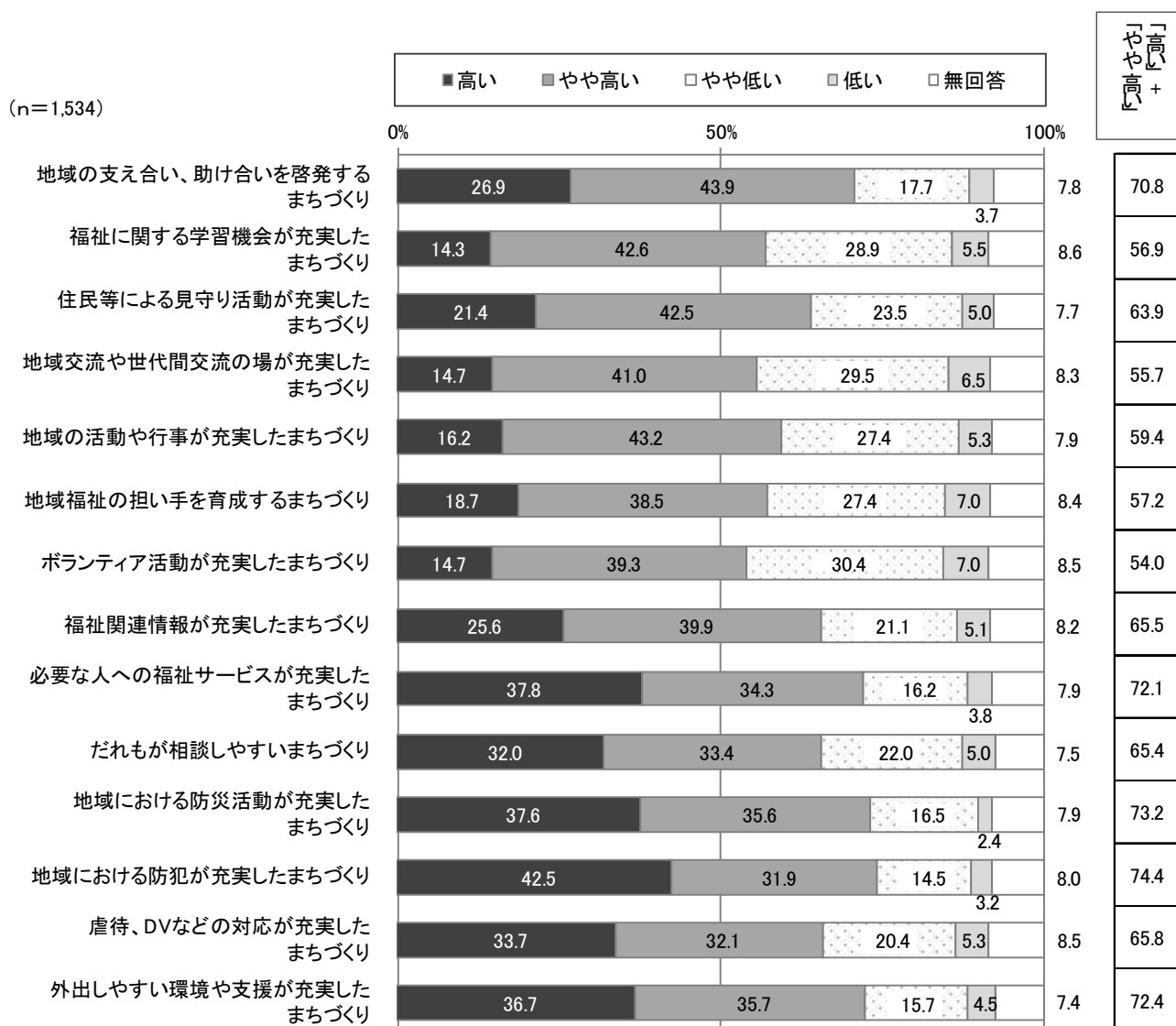
住居形態別をみると、自分又は配偶者の持ち家と民間賃貸マンション、民間賃貸アパートでは「行政も住民も協力しあい、福祉活動の解決のために、ともに取り組むべきである」が、それ以外の住居形態では「行政の責任はしっかりとすべきだが、行政の手が届かない課題は住民も協力すべきである」が最も多くなっています。また、民間賃貸マンションと民間賃貸アパートでは「わからない」が、全体より10ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		はあ ないの で、 住民 は特 に責 任は 行政 こと	社 会福 祉を 実 施す るに 協 力は 行政 こと	住 民も 協 力す べき であ る	だ が、 行政 の責 任は しつ かり と はた すべ き	行 政の 責任 はし つかり と はた すべ き であ る	の 解決 のため にも 協 力し あい、 取り 福 祉活 動	援 助す べき であ る	ま ず、 家庭 内や 地域 の住 民同 士で	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
合計	(n=1,534)	3.0	31.6	44.5	5.6	1.2	9.1	5.1				
同居者別	乳児(1歳未満)	(n=30)	3.3	40.0	46.7	3.3	0.0	6.7	0.0			
	小学校前の幼児	(n=177)	4.0	31.6	45.8	5.1	1.1	10.2	2.3			
	小学生	(n=172)	3.5	36.0	39.0	7.0	0.6	9.3	4.7			
	中学生・高校生	(n=181)	1.7	39.2	40.9	3.3	2.8	8.8	3.3			
	65歳以上の人	(n=528)	1.7	30.3	44.9	7.8	1.3	7.8	6.3			
	介護を必要とする人	(n=84)	4.8	34.5	41.7	9.5	0.0	3.6	6.0			
	障がいのある人	(n=102)	2.0	27.5	51.0	6.9	0.0	7.8	4.9			
いずれもない	(n=518)	4.2	29.9	44.2	4.6	1.0	10.8	5.2				
住居形態別	自分又は配偶者の持ち家	(n=1,156)	3.1	30.6	47.2	4.9	1.4	7.6	5.1			
	親・親せきの持ち家	(n=203)	3.4	36.5	34.5	8.9	1.0	12.8	3.0			
	都市再生機構の賃貸	(n=58)	0.0	34.5	31.0	6.9	1.7	19.0	6.9			
	社宅	(n=9)	11.1	33.3	22.2	11.1	0.0	0.0	22.2			
	民間賃貸マンション	(n=8)	12.5	25.0	37.5	0.0	0.0	25.0	0.0			
	民間賃貸アパート	(n=22)	0.0	31.8	36.4	9.1	0.0	22.7	0.0			
	その他	(n=45)	2.2	37.8	35.6	6.7	0.0	11.1	6.7			

問 29 あなたは、次のア～セの項目について、どの程度重要だと思えますか。また、どの程度満足されていますか。（単数回答）

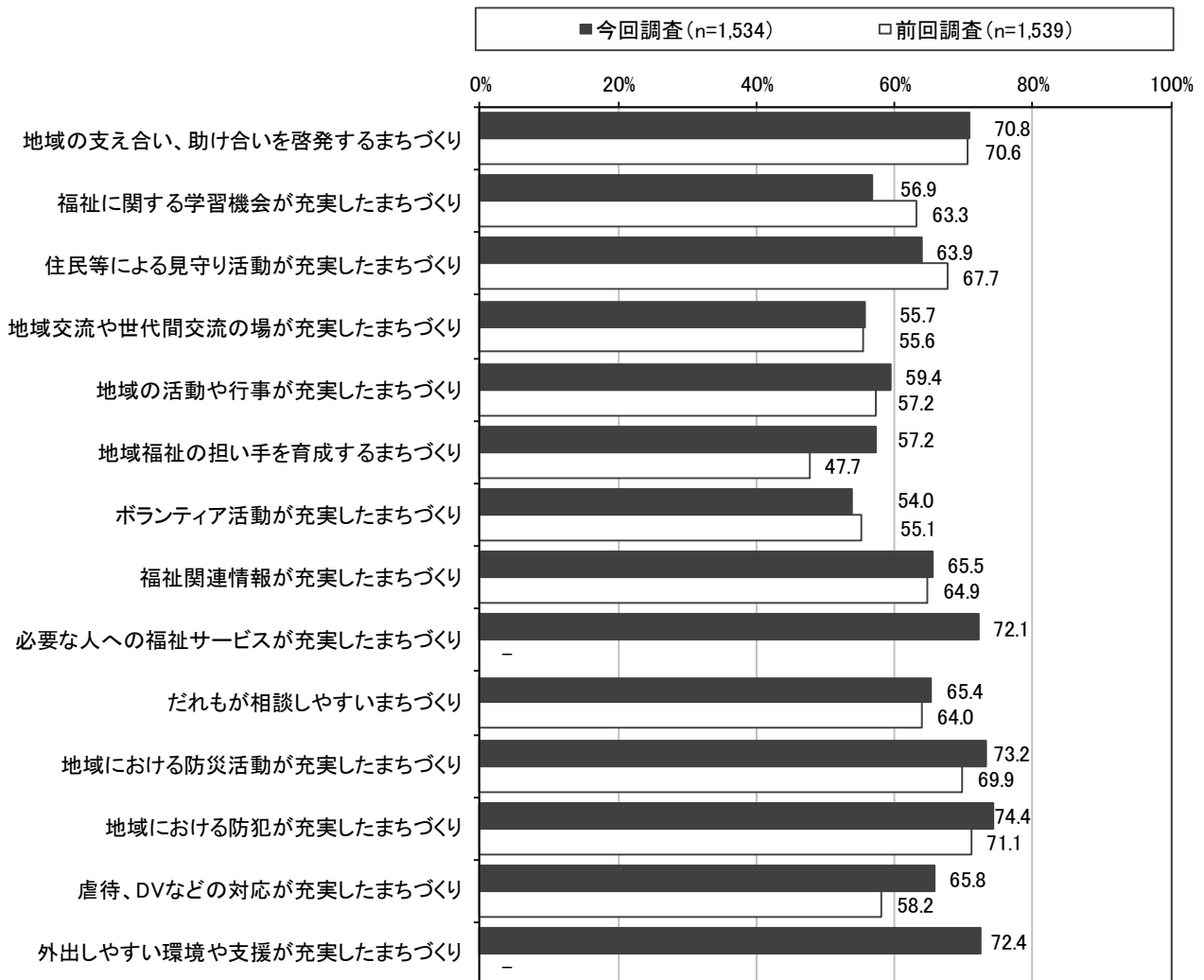
■重要度

重要度が「高い」と「やや高い」の合計をみると、「地域における防犯が充実したまちづくり」が74.4%と最も多く、次いで「地域における防災活動が充実したまちづくり」が73.2%、「外出ししやすい環境や支援が充実したまちづくり」が72.4%、「必要な人への福祉サービスが充実したまちづくり」が72.1%、「地域の支え合い、助け合いを啓発するまちづくり」が70.8%となっています。



●前回調査比較（数字は、重要度が「高い」と「やや高い」の合計）

重要度が「高い」と「やや高い」の合計について前回調査と比較すると、「地域福祉の担い手を育成するまちづくり」が9.5ポイント、「虐待、DVなどの対応が充実したまちづくり」が7.6ポイント前回より多くなっています。また反対に、「福祉に関する学習機会が充実したまちづくり」が6.4ポイント前回より少なくなっています。



●クロス集計（数字は、重要度が「高い」と「やや高い」の合計／グレー部分は最多項目）

年齢別をみると、18～29歳では「外出しやすい環境や支援が充実したまちづくり」が、60～69歳では「必要な人への福祉サービスが充実したまちづくり」が、それ以外の年齢では「地域における防犯が充実したまちづくり」が最も多くなっています。また、年齢が若くなるにつれて重要度の割合が概ね多くなっており、特に39歳以下では、全体より10ポイント以上多い項目が数多くみられます。

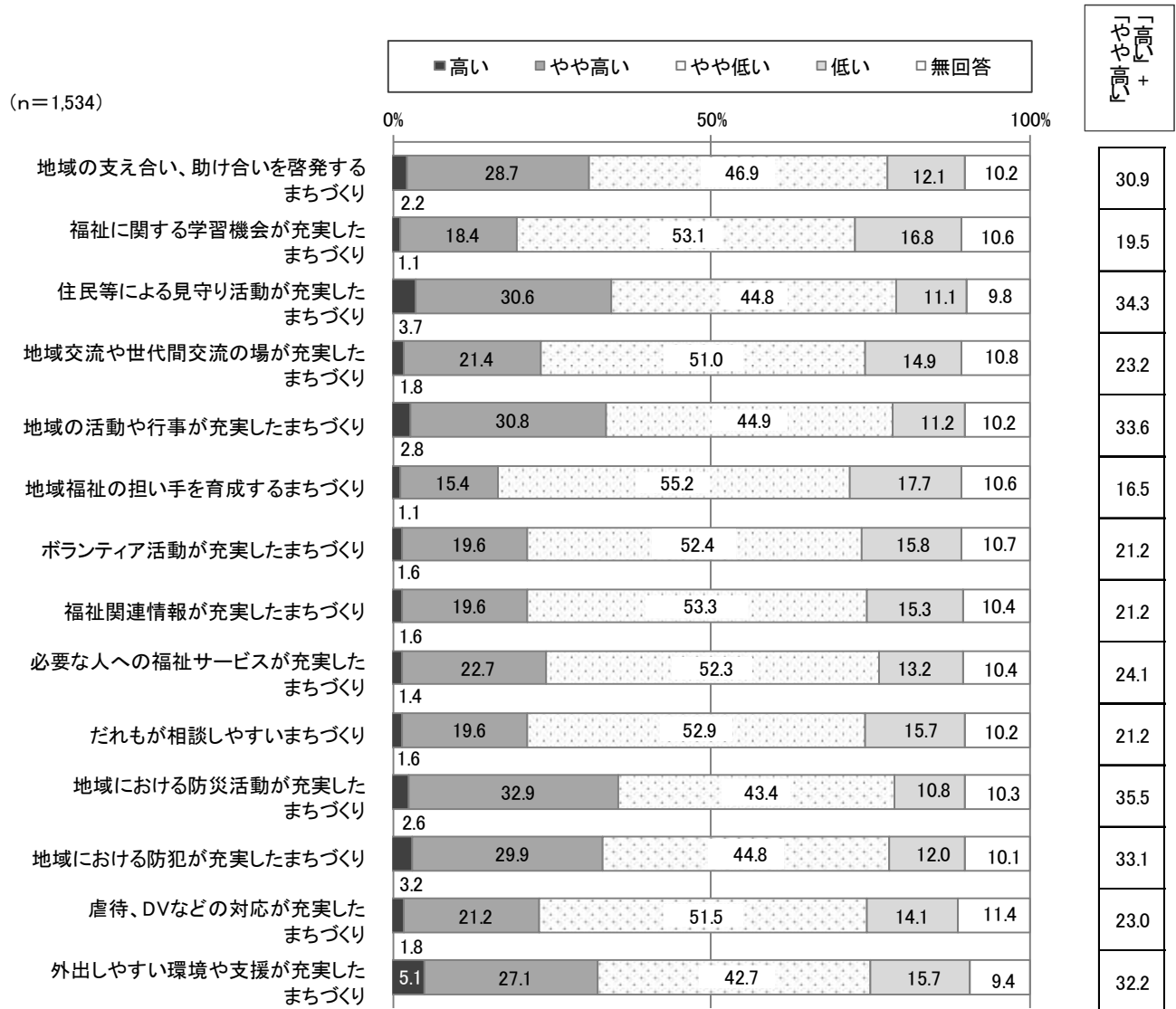
地区別をみると、小林と印旛では「必要な人への福祉サービスが充実したまちづくり」が、ニュータウン中央南では「地域における防災活動が充実したまちづくり」が、本埜では「外出しやすい環境や支援が充実したまちづくり」が、それ以外の地区では「地域における防犯が充実したまちづくり」が最も多く、特に船穂・牧の原の「地域における防犯が充実したまちづくり」では、全体より5ポイント以上多くなっています。また、小林では「住民等による見守り活動が充実したまちづくり」と「地域交流や世代間交流の場が充実したまちづくり」が、ニュータウン中央北では「地域の活動や行事が充実したまちづくり」が、船穂・牧の原では「虐待、DVなどの対応が充実したまちづくり」と「外出しやすい環境や支援が充実したまちづくり」が、全体より5ポイント以上多くなっています。

(単位:%)		啓発するまちづくり	地域に関する学習機会が充実したまちづくり	福祉に関する見守り活動が充実したまちづくり	住民等による見守り活動が充実したまちづくり	地域交流や世代間交流の場が充実したまちづくり	地域の活動や行事が充実したまちづくり	地域の活動や行事が充実したまちづくり	地域福祉の担い手を育成するまちづくり	ボランティア活動が充実したまちづくり	福祉関連情報が充実したまちづくり	必要な人への福祉サービスが充実したまちづくり	だれもが相談しやすいまちづくり	地域における防災活動が充実したまちづくり	地域における防犯が充実したまちづくり	虐待、DVなどの対応が充実したまちづくり	外出しやすい環境や支援が充実したまちづくり	
合計	(n=1,534)	70.8	56.9	63.9	55.7	59.4	57.2	54.0	65.5	72.1	65.4	73.2	74.4	65.8	72.4			
年齢別	18～29歳	(n=127)	77.2	68.5	74.0	67.7	67.7	67.7	61.4	78.0	83.5	73.2	86.6	86.6	81.9	86.7		
	30～39歳	(n=189)	82.6	67.7	76.7	66.1	74.1	67.8	60.3	77.2	84.1	80.4	89.4	91.0	85.7	87.3		
	40～49歳	(n=251)	78.1	64.5	75.7	65.7	66.9	66.1	58.5	74.9	81.2	74.5	82.4	83.7	78.1	79.2		
	50～59歳	(n=246)	75.6	64.2	67.8	60.2	56.5	61.4	59.0	71.6	78.1	70.7	79.3	80.0	69.5	79.3		
	60～69歳	(n=321)	69.8	53.2	59.2	52.6	58.9	53.0	52.0	64.1	71.6	62.3	68.0	68.2	62.0	70.1		
	70歳以上	(n=371)	54.4	39.6	47.1	37.8	45.0	41.8	42.8	46.1	52.0	48.0	54.7	56.6	42.6	52.3		
地区別	木下	(n=96)	65.6	52.1	63.5	53.1	62.5	53.1	56.3	62.5	67.7	64.6	72.9	73.9	61.5	66.7		
	小林	(n=129)	72.8	55.1	70.5	62.0	63.5	59.7	56.6	68.2	75.2	68.2	71.3	72.9	68.2	69.0		
	大森・永治	(n=105)	68.6	60.0	61.0	55.2	52.3	54.2	51.4	56.2	63.8	58.1	69.5	70.4	58.1	63.8		
	ニュータウン中央北	(n=197)	73.6	59.9	65.0	59.9	64.9	60.9	58.3	67.5	75.2	64.4	77.2	78.7	68.6	76.7		
	船穂・牧の原	(n=363)	74.4	60.1	66.1	55.4	61.2	59.2	55.4	67.7	74.1	67.5	75.7	80.5	71.3	77.7		
	ニュータウン中央南	(n=276)	70.3	58.0	62.7	55.4	55.1	56.6	50.8	67.0	69.9	64.2	70.6	70.0	64.5	69.6		
	印旛	(n=211)	66.4	51.7	56.4	49.3	56.8	53.1	51.2	63.5	72.0	66.8	71.1	71.1	62.5	71.1		
	本埜	(n=133)	71.5	55.6	66.9	60.1	60.1	60.9	57.1	65.4	74.4	67.6	75.9	73.7	63.9	76.0		

■満足度

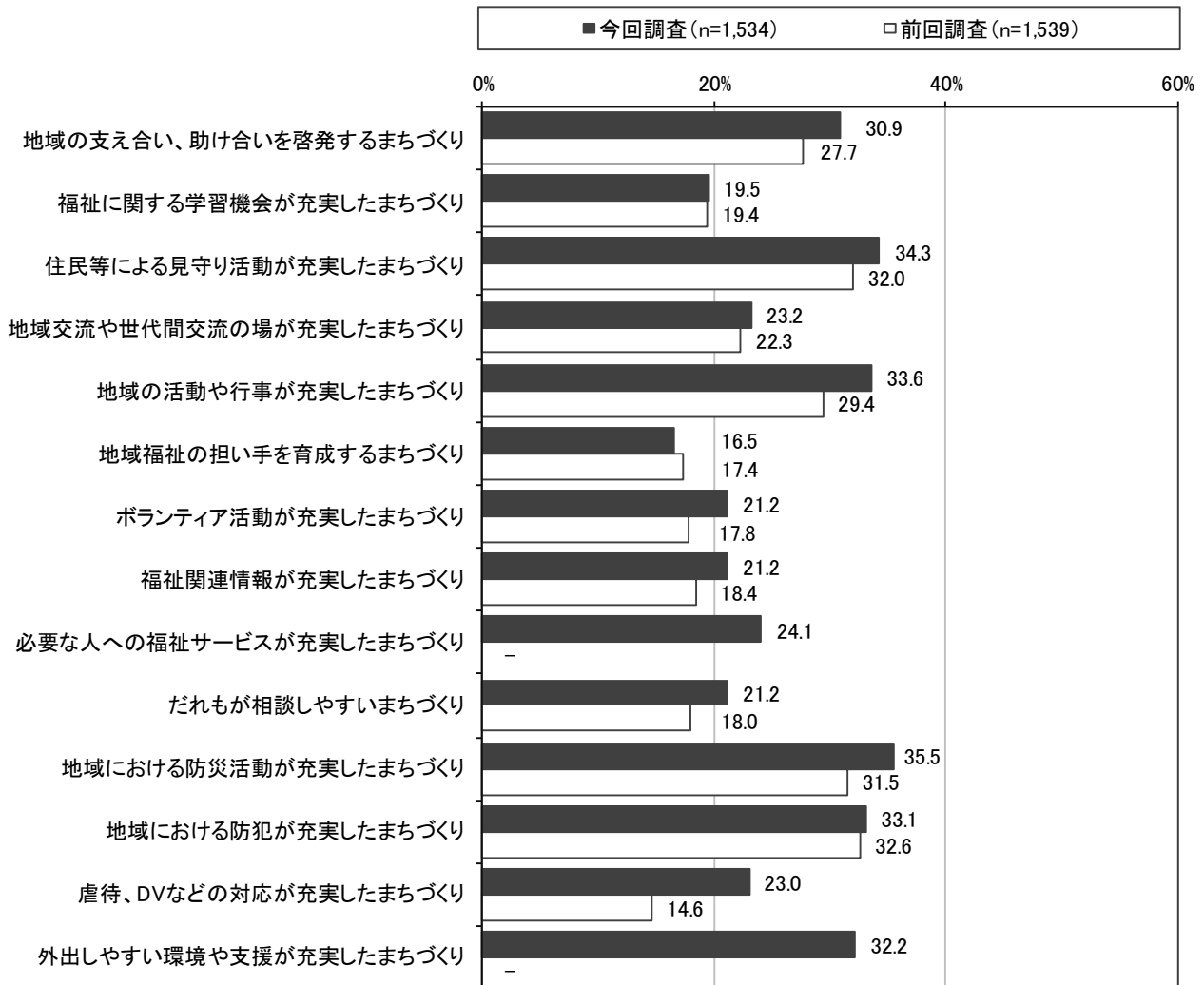
満足度が「高い」と「やや高い」の合計をみると、「地域における防災活動が充実したまちづくり」が35.5%と最も多く、次いで「住民等による見守り活動が充実したまちづくり」が34.3%、「地域における防犯が充実したまちづくり」が33.1%となっています。

反対に「高い」と「やや高い」の合計が少ない項目をみると、「地域福祉の担い手を育成するまちづくり」が16.5%と最も少なく、次いで「福祉に関する学習機会が充実したまちづくり」が19.5%、「ボランティア活動が充実したまちづくり」と「福祉関連情報が充実したまちづくり」、「だれもが相談しやすいまちづくり」がいずれも21.2%となっています。



●前回調査比較（数字は、満足度が「高い」と「やや高い」の合計）

満足度が「高い」と「やや高い」の合計について前回調査と比較すると、「虐待、DVなどの対応が充実したまちづくり」が8.4ポイント前回より多くなっています。



●クロス集計（数字は、満足度が「高い」と「やや高い」の合計／グレー部分は最多項目、数字の白抜き部分は最小項目）

年齢別をみると、18～29歳と40～49歳では「住民等による見守り活動が充実したまちづくり」が、60～69歳では「地域の活動や行事が充実したまちづくり」が、70歳以上では「地域における防犯が充実したまちづくり」が、それ以外の年齢では「地域における防災活動が充実したまちづくり」が最も多く、特に18～29歳の「住民等による見守り活動が充実したまちづくり」では、全体より10ポイント以上多くなっています。また、満足が低い最小項目をみると、18～29歳では「福祉に関する学習機会が充実したまちづくり」が、30～39歳では「ボランティア活動が充実したまちづくり」が、それ以外の年齢では「地域福祉の担い手を育成するまちづくり」が最も少なくなっています。

地区別をみると、木下と小林、本埜では「住民等による見守り活動が充実したまちづくり」が、印旛では「地域の活動や行事が充実したまちづくり」が、船穂・牧の原とニュータウン中央南では「外出しやすい環境や支援が充実したまちづくり」が、それ以外の地区では「地域における防災活動が充実したまちづくり」が最も多く、特にニュータウン中央北の「地域における防災活動が充実したまちづくり」では、全体より10ポイント以上多くなっています。また、満足が低い最小項目をみると、小林では「福祉に関する学習機会が充実したまちづくり」が、大森・永治では「地域交流や世代間交流の場が充実したまちづくり」と「地域福祉の担い手を育成するまちづくり」、「ボランティア活動が充実したまちづくり」、「福祉関連情報が充実したまちづくり」、「だれもが相談しやすいまちづくり」が、それ以外の地区では「地域福祉の担い手を育成するまちづくり」が最も少なくなっています。

(単位:%)		啓発するまちづくり	地域に関する学習機会が充実したまちづくり	住民等による見守り活動が充実したまちづくり	地域交流や世代間交流の場が充実したまちづくり	地域の活動や行事が充実したまちづくり	地域福祉の担い手を育成するまちづくり	ボランティア活動が充実したまちづくり	福祉関連情報が充実したまちづくり	必要の人への福祉サービスが充実したまちづくり	だれもが相談しやすいまちづくり	地域における防災活動が充実したまちづくり	地域における防犯が充実したまちづくり	虐待、DVなどの対応が充実したまちづくり	外出しやすい環境や支援が充実したまちづくり	
合計	(n=1,534)	30.9	19.5	34.3	23.2	33.6	16.5	21.2	21.2	24.1	21.2	35.5	33.1	23.0	32.2	
年齢別	18～29歳	(n=127)	45.6	26.7	55.1	35.4	47.2	27.5	36.2	29.9	33.8	33.1	44.8	49.6	38.6	50.4
	30～39歳	(n=189)	31.7	23.8	39.1	24.3	40.2	20.1	19.5	23.9	25.9	27.5	42.4	32.8	32.8	37.5
	40～49歳	(n=251)	35.5	19.1	43.4	32.7	40.3	17.5	23.1	21.9	24.3	23.5	37.9	34.7	30.3	37.5
	50～59歳	(n=246)	30.5	18.3	37.0	24.0	32.1	15.0	19.5	18.7	21.9	18.3	40.6	36.2	15.8	32.1
	60～69歳	(n=321)	26.1	15.2	26.5	19.0	29.9	12.7	18.1	18.3	21.8	16.5	29.3	26.1	17.1	25.5
	70歳以上	(n=371)	25.6	19.4	24.0	15.6	24.5	14.8	19.1	20.0	22.6	18.9	30.4	31.0	17.5	25.9
地区別	木下	(n=96)	31.3	24.0	41.7	25.0	35.4	20.8	22.9	29.1	32.3	30.2	36.4	36.5	28.1	31.3
	小林	(n=129)	25.6	13.2	42.6	24.1	31.8	15.5	21.7	14.8	20.9	15.5	34.9	32.6	19.4	19.4
	大森・永治	(n=105)	35.2	19.1	22.0	18.1	34.3	18.1	18.1	18.1	22.0	18.1	36.2	33.4	19.1	28.6
	ニュータウン中央北	(n=197)	35.0	22.8	36.6	27.4	37.5	19.8	24.8	23.3	25.9	22.3	46.2	41.1	27.4	40.6
	船穂・牧の原	(n=363)	29.7	21.5	33.9	24.8	35.6	17.1	19.3	21.5	25.4	23.7	32.8	33.1	23.7	38.0
	ニュータウン中央南	(n=276)	28.9	17.3	33.7	23.1	31.9	15.9	21.4	19.2	21.8	20.2	35.5	32.9	25.0	35.9
	印旛	(n=211)	34.6	19.4	32.2	23.7	35.6	15.1	21.8	24.6	27.0	23.2	33.7	27.0	22.2	25.6
	本埜	(n=133)	25.6	17.3	32.4	15.1	23.3	11.3	18.8	18.8	15.8	15.1	30.9	30.8	17.3	23.3

【参考／ポートフォリオ分析による取り組みの重要度・満足度の評価方法と評価結果】

前回調査結果と同様に、下記の手順で得点化し、分析を行いました。

STEP1 重要度と満足度の各評価の重みを考慮して、点数化。

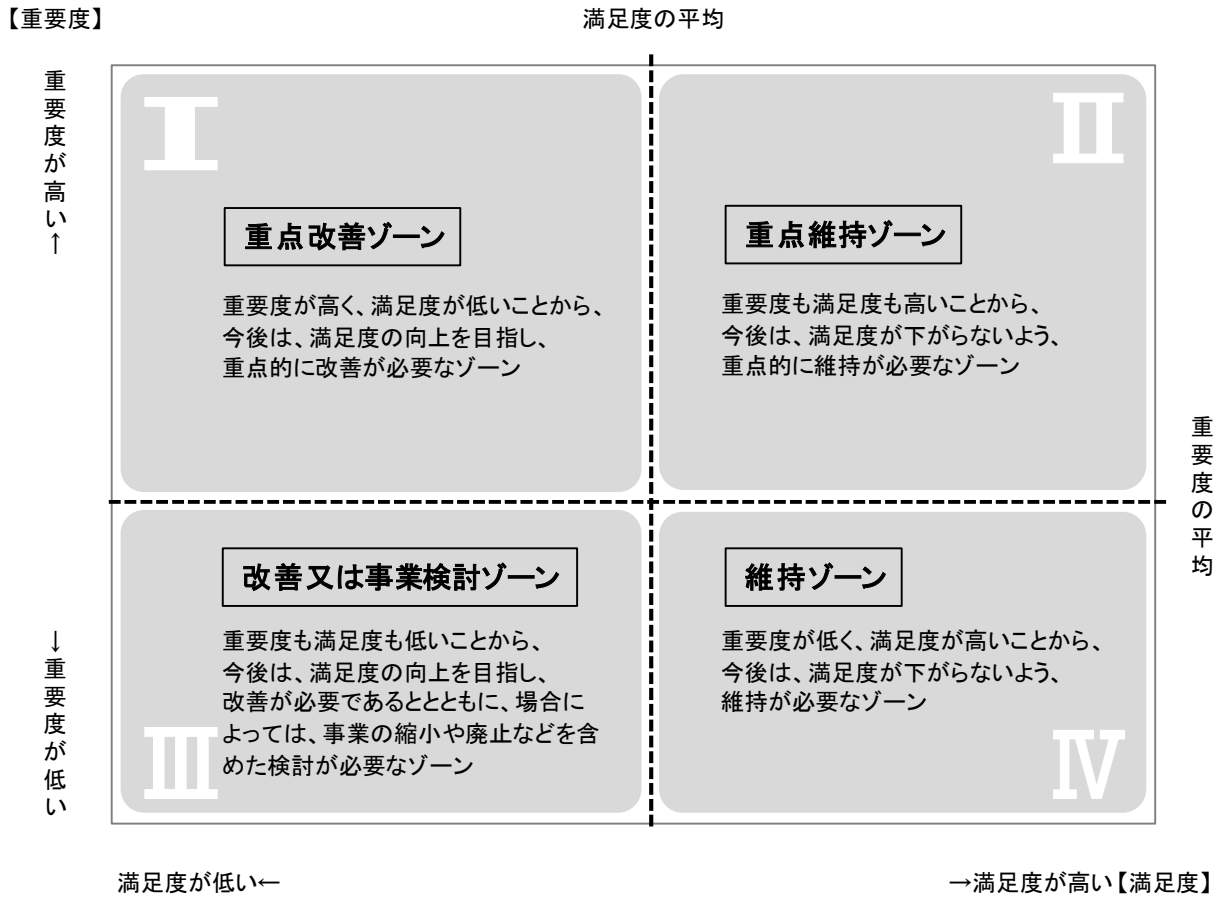
重要度と満足度の4段階評価	点数
高い	3点
やや高い	2点
やや低い	1点
低い	0点

STEP2 母数や回答数などが異なる14の取り組み評価を比較する上で、下記の数式で得点化。

$$\begin{aligned} & \text{「高い」の回答数} \times 3 \text{点} + \text{「やや高い」の回答数} \times 2 \text{点} + \\ & \text{「やや低い」の回答数} \times 1 \text{点} + \text{「低い」の回答数} \times 0 \text{点} \end{aligned}$$

無回答を除く各設問の回答総数

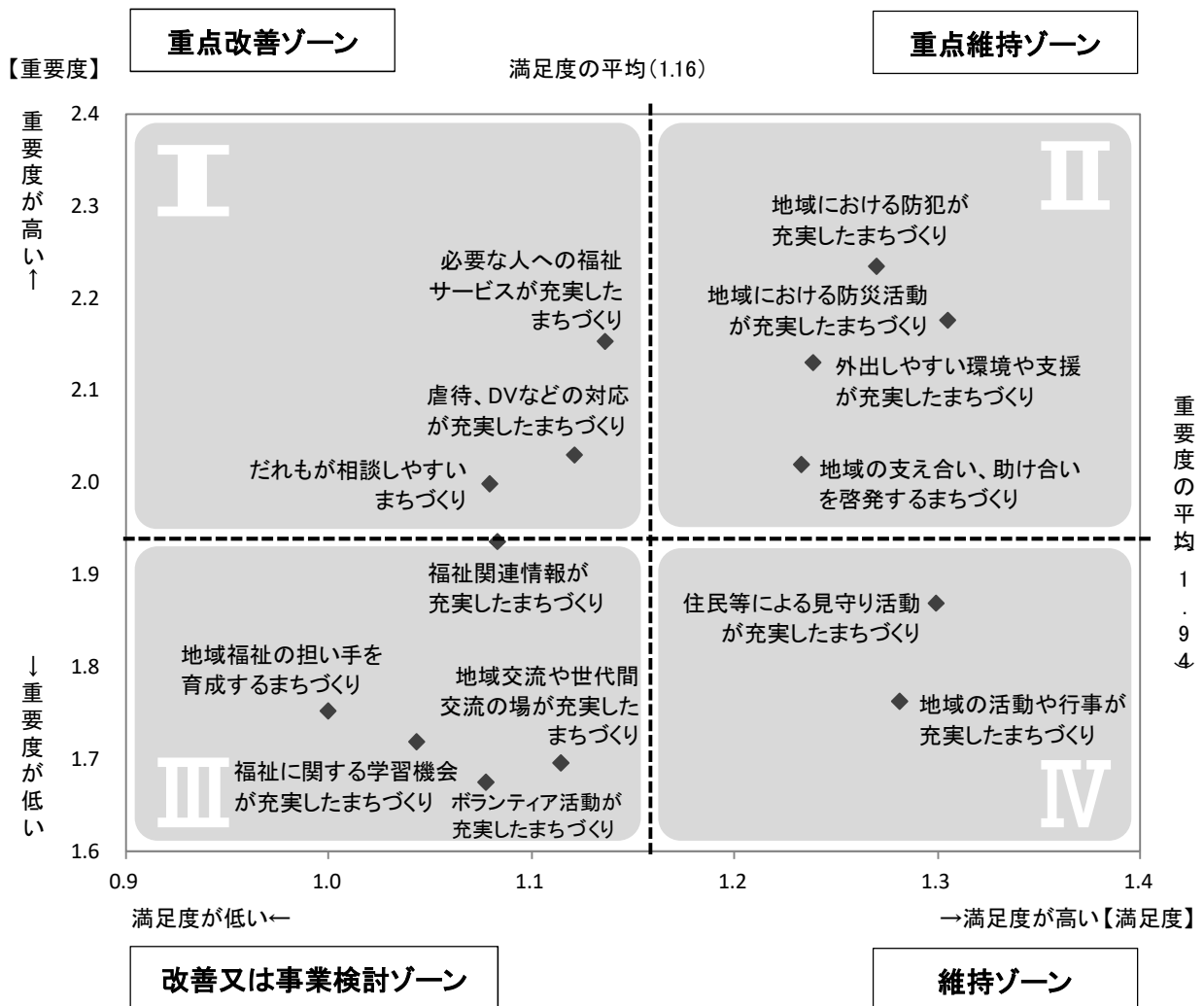
STEP3 重要度と満足度をそれぞれ縦軸と横軸にとり、STEP2で算出した重要度と満足度の得点の平均値を境界として、下記のような4つの領域に区分したプロット図を作成し、今後の事業の方向性について分析。



●ポートフォリオ分析結果

重要度が高く、満足度が低い重点改善ゾーンをみると、「必要な人への福祉サービスが充実したまちづくり」と「虐待、DVなどの対応が充実したまちづくり」、「だれもが相談しやすいまちづくり」が挙げられます。

また、重要度と満足度がともに高い重点維持ゾーンをみると、「地域における防犯が充実したまちづくり」と「地域における防災活動が充実したまちづくり」、「外出しやすい環境や支援が充実したまちづくり」、「地域の支え合い、助け合いを啓発するまちづくり」が挙げられます。



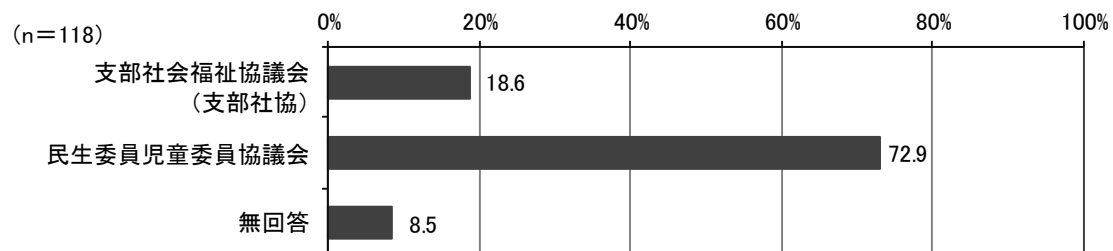
(白場)

Ⅲ 団体アンケート調査の結果

1. 団体のことについて

問1 貴団体の組織形態は、次のどれにあてはまりますか。(単数回答)

「支部社会福祉協議会（支部社協）」が18.6%、「民生委員児童委員協議会」が72.9%となっています。

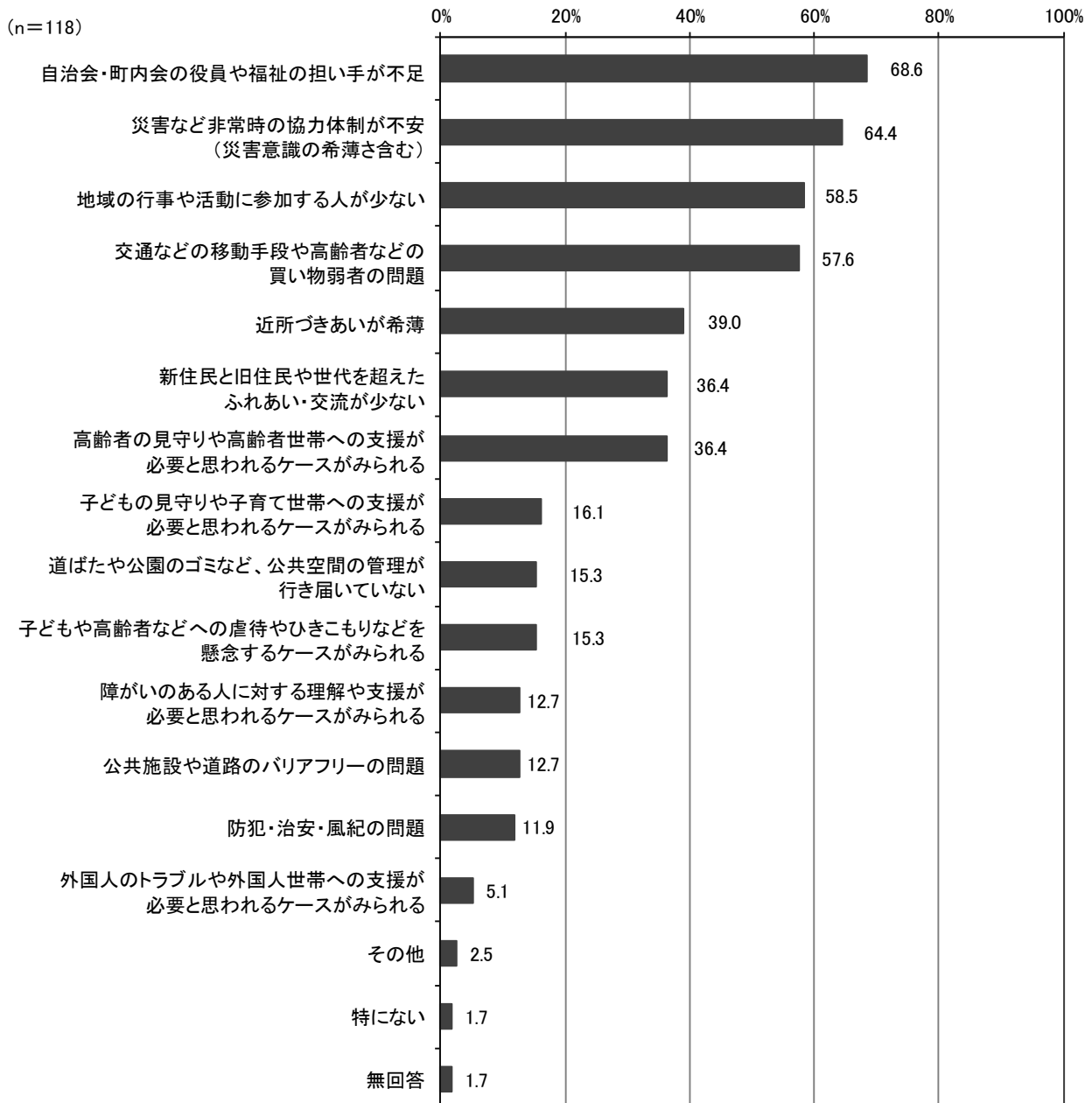


2. 団体としての活動について

問2 あなたが活動する中で、印西市の地域で気になること、問題と感ずることがありますか。

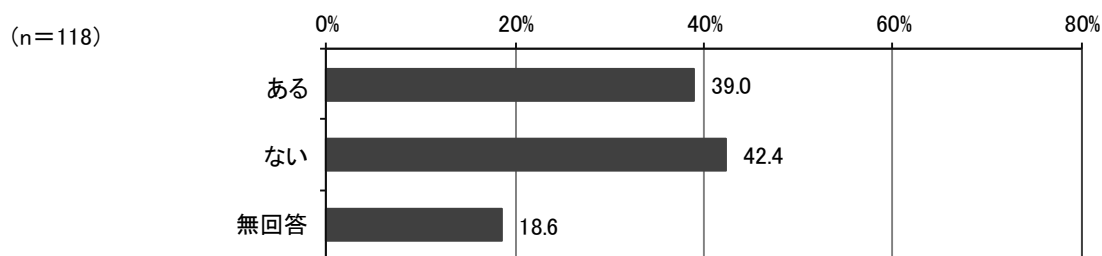
(複数回答)

「自治会・町内会の役員や福祉の担い手が不足」が68.6%と最も多く、次いで「災害など非常時の協力体制が不安（災害意識の希薄さ含む）」が64.4%、「地域の行事や活動に参加する人が少ない」が58.5%、「交通などの移動手段や高齢者などの買い物弱者の問題」が57.6%となっています。また、「近所づきあいが希薄」(39.0%)、「新住民と旧住民や世代を超えたふれあい・交流が少ない」(36.4%)、「高齢者の見守りや高齢者世帯への支援が必要と思われるケースがみられる」(36.4%)も3割台となっています。



問3 現在活動していく上で、特にご苦勞をされていることや課題はありますか。(単数回答)

「ある」が39.0%、「ない」が42.4%となっています。



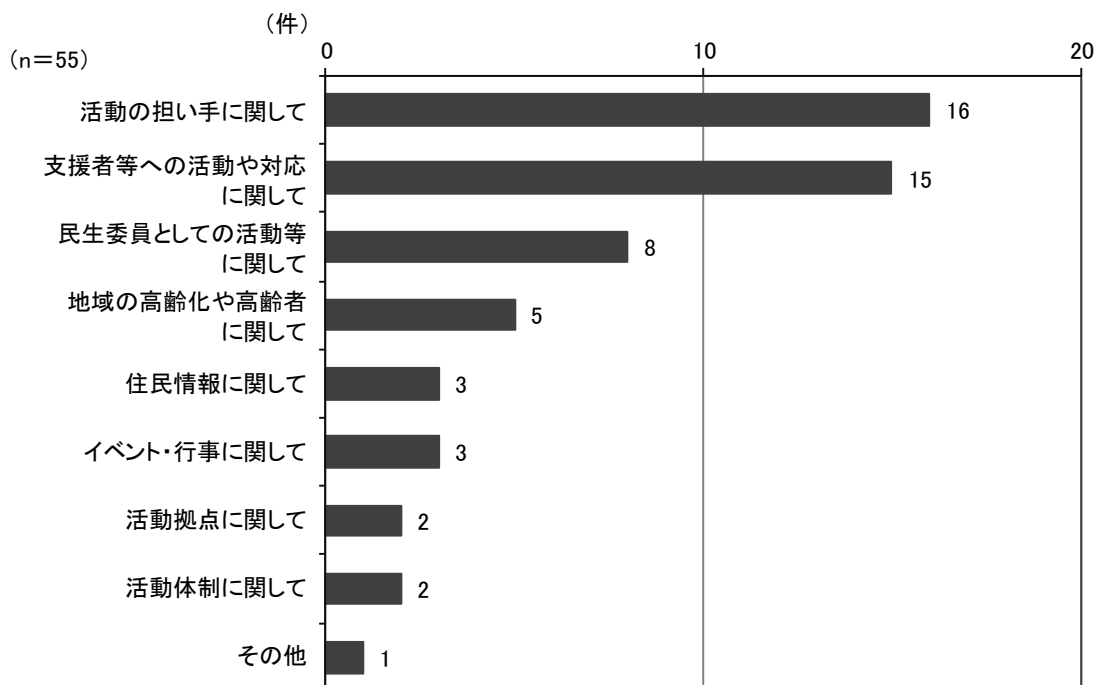
(問3で「ある」を選んだ方)

問3-1 活動をする上で、特にご苦勞をされていることや課題はどんなことですか。具体的な内容について、お聞かせください。(自由回答)

自由回答の回答件数は55件でした(問3で「ある」を選んだ方は46件で、それ以外の方も回答されていますが、回答をいただいた内容を有効に活用するため、全ての回答を記載しました)。

回答内容をみると、「活動の担い手に関して」が16件と最も多く、次いで「支援者等への活動や対応に関して」が15件、「民生委員としての活動等に関して」が8件となっています。

※個々の回答は複数の内容について触れている場合がありますが、回答を分類するに際しては、回答内容の中で冒頭に述べられたものなど、主要なものひとつに限定して分類を行っています(以下同様)。



※以下は、全ての回答を記載。

活動の担い手に関して

- ボランティアの高齢化。
- 次世代の育成が出来ていない。若い世代、退職されたOBの活用がなかなか出来ていない。
- 高齢者と児童への福祉活動の担い手が、年々に高齢化しており、若い世代の参画にかけりがみられる。
- 後継者探し、協力者探し、時間の捻出。
- 次世代の人への引継ぎが難しい。若手のなり手がいない。
- ボランティアの超高齢化。次世代の担い手がいない。バトンタッチできない。楽しく参加できるボランティアは有意義だが、サークル化している部分がある。社協と公民館の連絡が悪い。
- ボランティア活動の次世代の担い手がいない。
- 担い手不足。活動内容に対する市民の方の理解不足。各種団体との連携。
- 体制の高齢化。人材の充実、確保。
- 後継者不足。社会福祉協議会の理事になり手が少ない。高齢者が多い。特に私の住んでいる地区では65歳以上が50パーセントを超えている。来年は更に多くなる。空き家が多くなりつつある。
- 活動の担い手は、高齢の方が多く、若い人の参加は難しいので、担い手の不足が心配。支部活動に対しても、地域の認知度がまだまだ低い。活動拠点があれば、もっと地域にも周知できる活動が広がるのではないかと。
- 若い担い手がいない。固定した活動の場の確保が困難。
- 委員不足のため、活動内容を見直し、地域のための活動をしやすくするにはどのようにしたら良いか。誰でも良いからという委員ではないので、不足が出て仕方がないと思っているので、少ない人数でも地域の人のためにできる事は何かということです。
- 高齢者世帯が増えており、一緒に活動に参加してくれる人がなかなか見つからない。
- 後継者が見つからない。当団体が主催する講演会や活動への参加者が少ない。
- 活動する仲間が少なく、一人ひとりの負担が大きい。若い人が入ってこない。福祉活動で定期的に会場を使わせていただいているが、役所の行事で会場や日を変更させられ、調整に困ることがある。

支援者等への活動や対応に関して

- 賃貸団地の高齢者等の見回り活動を実施しているが、居住者の安否確認ができない場合の管理事務所との連帯が全く取れない。町内会もない場合、対応に苦慮する。
- 年々、対象者が増えていく中で、細かな見守りができにくくなるのではないかと（高齢者の場合）。
- 地域の高齢化により、民生委員の見守り対象が、65歳以上から、独居70歳以上、世帯75歳以上へ変更された。しかし、地域の高齢者の見守りを民生委員だけで行うのには限界がある。
- 一人当たりの対象者数が多いので、全員の現状を把握する事が難しく、相談や声掛けも片寄りがちになってしまうこと。核家族化や個人主義の思考が進んだせいか、近隣トラブルが増加していること。
- 一人暮らしの老人が増加し、対応に苦慮している。また、空き家も同時に目立ってきており、今後、管理が難しい状況が見込まれる。
- 民生委員と云うと、嫌な顔をされたり、拒否される方がいます（生活に困っている方が多いです）。
- 24時間、自分の気持ちだけで電話があり、訪問を言われる。病院の車で付き添いを求められる（私、車なしです）。タクシーで一日付き添ったり、迎えに行ったりしました。車について、バス、電車に乗り継いで行くのは大変とされているようです。

- どんな事も話してくれる人がいる反面、恥になるから、万一他の人に知られたらと、困り事を相談してもらえない事がある。相談より前に、民生委員は何ですかと言われることもある（社協も同じく）。
- 給食サービスを行っていますが、病気になって入院しても、連絡することが高齢者ではできません。具合が悪いのに、弁当の事など気になるはずはありません。当然ですが。独り暮らしの人は、何人かの人と情報をお互いにかかわせるように見守りが必要だと思います。ボランティアが高齢化して、次に入る人もなく心配。
- 近所付き合いが希薄で孤立している方が多い（年齢、性別にかかわらず）。触れ合いの場にお誘いをかけるが、反応が薄いとを感じる。参加後のお役が気にかかるようです。
- マンションなのですが、常時不在のため、居住の有無が確認できないケースがある。
- 高齢者の夫婦世帯の訪問で、うちは大丈夫と言い、あまり話をしようとせず、玄関を閉めようとする。そんな時、対応してご主人が元気なのは分かるが、一方の奥様は元気ですかと伺っても、大丈夫というだけで、様子が分からない。玄関で履き物を見ても、洗濯物を見ても、奥様のものが干してない。奥様の様子が分からない。
- 専門知識があるわけではないので、どのような対応が適切なのか、判断が難しい。
- 自分自身が忙しく、担当地区の高齢者と接触する機会が十分とれない。私の後任を考えなければいけないが、現時点では候補者がいない。
- 高齢者が多い事と、民生委員の仕事と自分の本職をする中で、全部を担う事に負担がある。

民生委員としての活動等に関して

- 支部社会福祉協議会、民生委員の二つの責務を負っていますが、負担が大きいと感じています。経験上、今後の課題として、個人的に民生委員の活動を重要視すべきだと思っています。その理由は、社協の活動や行事に参加してくる人達は、社会との繋がりを比較的持っている人達で、その反面、社会との繋がりが希薄で孤立しやすい状況にあり、問題を抱えやすい人達との接点を見つけるのは、民生委員の重要な視点だと考えるからです。
- そもそも、民生委員、児童委員とは何かについて、皆様が知りません。不審者と思われることもあります。逆に偉い人だと勘違いされることもあります。パンフレットなど持参しますが、そのパンフレットに載っている様な大変な仕事もしていません。自分を知ってもらうのが一苦労です。
- 活動内容に伴った補助金が少ない。行事が多い（子どもたちの分が増えた）。若い人達にボランティアは魅力がないのか、理事になる人は少ない。
- 防犯パトロールをしているのですが、参加者が少なく、ハピネスに募集の案内を載せてもらったりしているのですが、今の所、全くのゼロです。参加は私一人の時もあります。
- 十人十色で、様々な意見や考え方がある中で、調整をしなければならない。総論賛成、各論反対。
- ふれあい給食会時、送迎車で事故を起こした時、自賠責保険で支払う様に。それから75歳になり、高齢者は運転をやめるようにと言われ、若い人がいないのでやめる訳にはいかない。
- 仕事が忙しく、思うように活動できないが、地域の行事、学校関係、老人会には参加している。

地域の高齢化や高齢者に関して

- この地域は、同時期の入居者が多く、高齢化が進んでいる。170世帯で一軒家ですが、23人が一人暮らしで70歳以上の方が多いです。小学生等ほとんど見かけません。

- 現在、我々の地域は、想像を超えるスピードで高齢化が進んでおり、また少子化のため、地域内の活気が無い。我々としては、人々に元気になっていただくため、いろいろな機会を作ることが必要と考えている。
- 高齢者の交流ができない方、新しく引っ越されて来た高齢者が、独立しているように感じる。地域で高齢者の方の声を届ける場所がない。また、交流の場が少ない。高齢者の買い物等、免許返納した方の足が不足。
- 一人暮らしの高齢者（子どもがいない、いても遠方に住んでいる等）、高齢世帯（子どもが近隣市に住んでいるが、車運転ができない等）の方々が病院に通院する場合、病院へ行くまでの交通手段をはじめ、病院等では、受付から診察する所まで行くための手段、及び会計することができないことが多い。必ず付き添いが必要。
- 高齢者がほとんどなので、日常生活をする中で、買い物、病院など、普通の事が大変になってきている。民生委員ができる事など、ほんの少しで、ただ見守りするくらいしかできません。

イベント・行事に関して

- イベントに参加、出席する場合、移動手段の確保に手間取るか、参加を止める事が多い。
- お祭りについて、道路使用、警察との事。
- 活動の協力を呼びかけても、参加者が少ない。
- 行事に参加する時に、事前に連絡しておりますが、とても手間が大変です。遠方の行事に参加させる時は交通機関の問題があります。

住民情報に関して

- 新住民の人の情報が得にくい。
- お答え確認がしづらい方がいますが、個人情報の事もあり、ご近所の方々にはお願いできない。
- 民生委員の守秘義務の範囲がどこまで及ぶのか。民生委員として見守りカードの確認に伺った際の世間話として、マンション共有部分の掃除が行き届いていない話を、マンション管理組合窓口に通告して良いのか、悪い（守秘義務逸脱）のか。

活動拠点に関して

- 活動拠点の提供。
- 活動をする拠点があったら（ボランティアルームのような）良いかと。資料他、置いておける場所が欲しい。

活動体制に関して

- 行政との連帯があまり取れていない。情報が伝えられない。
- 担当地域には、自治会、自主防災会などの組織がなく、情報の周知が難しい。民生委員、社協の行事について、掲示板を使わせてもらえるが、関連した学校行事（高齢者とのふれあい交流、あいさつ運動）については不可。賃貸住宅でバリアフリーのため、高齢者の住民が多く、災害時に不安がある。私自身、担当地域に居住していないので、人との繋がりが希薄で情報が得にくい。

その他

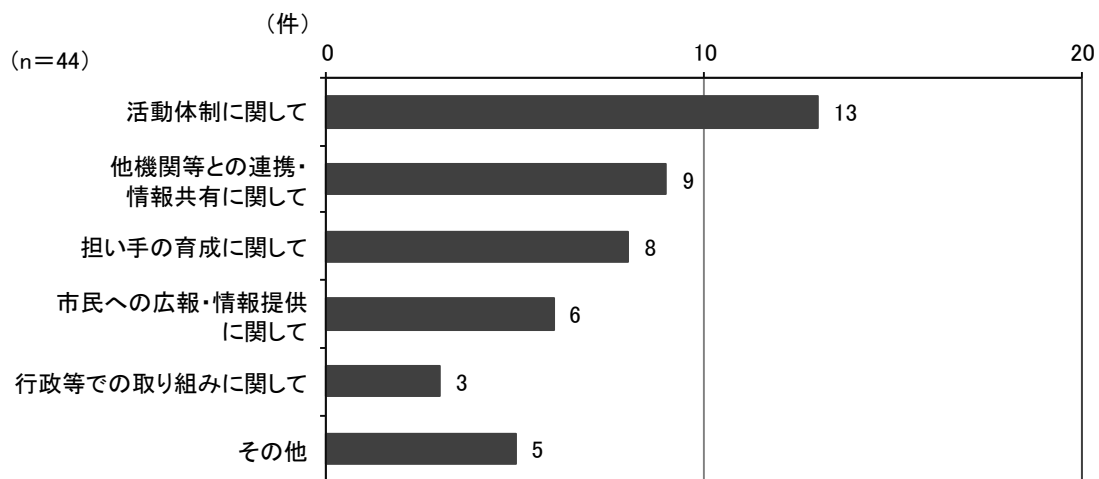
○若年層が、ボランティア活動の機会が少ない。また、子育て世代や学校生活へのボランティア活動が少ない。

(問3で「ある」を選んだ方)

問3-2 問3-1で書かれたご苦労をされていることや課題について、解決に向けたご意見・ご提案がありましたら、お聞かせください。(自由回答)

自由回答の回答件数は44件でした。

回答内容をみると、「活動体制に関して」が13件と最も多く、次いで「他機関等との連携・情報共有に関して」が9件、「担い手の育成に関して」が8件となっています。



※以下は、全ての回答を記載。

活動体制に関して

○対象世帯数の見直しや、サポーター導入等。

○プライバシーを知られたくないという点から、近くの方が民生委員としてではなく、離れた地域の方がするのも一つの方法かとも。

○受け持ち区域、戸数を少なくする。

○独居老人宅を定期的に訪問するようにしているが、民生委員（一人）だけでの活動は限界があり、市を含めた地域一帯での活動が望まれます。

○マンネリ化の打破。魅力ある組織作り。

○どんな呼びかけでも、不特定多数ではなく、ある程度的を絞ったり、あるいは、個人的に声をかけた方が協力してもらえることがある。

○当支部は、支部長からして熱心で真面目な人達が活動している。内容も充実している。それは、福祉の精神が身について、自分達より参加される方々を重く見ているからだと思います。でも、それでお金の心配をしたり、自分の時間がなくなったりするので、少し行事を減らすことも、長く続けるには必要だと思います。

- 支部ごとの活動を見直し、世帯調査の仕方や地域の団体との関わり、協力などに力を入れ、包括支援センターと協力し、高齢者対策を進めている。
- 時間と回数をかけて調整していく。抽象的な議論から具体的な議論に方向転換。一人での活動は限界があり、市を含めた地域一帯での活動が望まれます。
- 個々の意見を聞き、それに対応する体制づくりが必要。
- 防災、防犯や行事のお知らせを、直接会いお話ししたり、行政から頂いたチラシをお渡ししているが、見守りの対象者のみ。行事参加する人が少ないので、近くで気軽に参加できる催しを企画したい。
- 社会との繋がりが希薄で、家庭内で問題を抱え込んでしまっている人達との接点を見つける方法として、世帯訪問があると思います。現在、高齢者のみの世帯訪問を実施していますが、片手落ちだと思っています。子ども世帯と同一世帯になっている方の訪問は実施されていません。同居人がいるからこそ起こる問題が多々あります。自治体が、個人情報保護の名の下で、高齢者の状況が把握できない現在、地域の中で見落とされている人達がいるのは事実で、実際問題も起きています。同一世帯の高齢者訪問も実施すべきです。
- 当地区は、防災組織が確立しているので、より一層確実にしていきたい。日頃の付き合いを大切にしていって、情報を入手していく。

他機関等との連携・情報共有に関して

- 現在、地域包括支援センターが高齢者情報等を多く持っていると思われるので、その情報が入手しやすい様になるとよい。
- 民生委員が担当している住民に、入院やその他問題が起きた時に、行政が把握していても民生委員にまで連絡がこないのが、情報が回るようにしてほしい。
- 我々のような未だ経験の少ない者にとっては、問3-1（活動する上での苦労や課題）のような問題を抱えている他地域の成功例を勉強し、どのように解決していったのかを知る必要がある。この点については、市役所の方々が成功地域を視察するなどして、教えてほしい。
- 包括の方々に相談に乗ってもらいながら進めています。
- 協議会で情報共有できなかった。議題が多数あり、割り込めなかった。
- 次回は、警察の方にも連絡して、一緒に訪問した方が良いか考えている。
- （民生委員に）就任した際に、対応方法や期待されている活動について、市から説明してほしい。
- 町内会やボランティア団体との連携を深めていく事や、昔の隣組のような、気軽に顔を合わせておしゃべりできる環境を作っていく事。
- 地域包括支援センターの方でも、高齢者世帯の名簿を共有していただき、連携していく。町内の自主防災システムの確立。支部社協との情報共有。守秘義務を守り過ぎると、一人で抱え込む事になるので、ある程度は、地域の方と情報共有する必要もあると思う。

担い手の育成に関して

- 広報紙を魅力あるものにし、ボランティアを募集する。ボランティア活動を負担のないものにする（できる時に、できる事を、できる人がする）。
- 次の世代への引継ぎ者がいない。育成が思うようにできない。どうしても自分がやらなければ、という責任感が強く、それで自分を奮い立たせている部分があります。でも本心は、ボランティアが好きで、楽しい部分もたくさんあります。

- 市として、若い世代へのボランティア活動の重要性を折に触れ、啓蒙する事。
- イベント、サークル等にしても、リーダー格の方がいない。「誰かが音頭を取ってくれば、気ままに参加したい。」との気持ちがあるようです。地域を引っ張れるリーダーの育成が必須と思います。
- 少子化の問題も大きいと思う。周りに子どもが全然いない。ボランティアを募り、買い物、病院への通院をサポートしていく。
- ボランティアの担い手を育てていく必要がある。学校教育の中で、積極的に進めていく事を提案します。活動の場の確保には、廃校や空き家等、市が開放、又は借り受け等、積極的に関わって欲しい。
- 自分自身の時間を効率的に活用すべく、努力中。地域の中で、各種活動を行う中で、候補となり得る人を見つける。
- 人材をどう見つけるかが課題で、中高年層の集まる機会がない。地域交流の希薄。

市民への広報・情報提供に関して

- 相談を躊躇されるのは、信頼関係が築ききれない為だと思い、自然にコミュニケーションを増やしたり、民生委員や社協の活動内容を紹介したりと、PRも必要かと思います。
- 日頃の人間関係を大切に。ネット社会ではあるが、アナログ的な広報も必要。
- 訪問票を投函して、返事を待つ。
- 民生委員、児童委員のベースの活動を幅広く知ってもらう方法があればと思います。来期から広報部（民、児童の）ができるというので、期待しています。
- 活動事業の中に、広く一般の中高年の方が参加できる内容のものを取り入れ、周知を図る。
- 掲示、チラシ配布の他に、直接口コミによる活動の周知が効果的。

行政等での取り組みに関して

- 行政での一層の取り組み。
- 高齢者に対し、24時間相談窓口の設置は無理ですか。ワンコインサービス等を知っていますが、それとは別に、すぐ対応できる高齢者専門送迎窓口の設置はどうか。
- そうふけ公民館くらいの施設が近くにあると良い（気軽にみんなが集まり、色々な活動ができるような施設）。バスの停留所の増設や便を増やす。

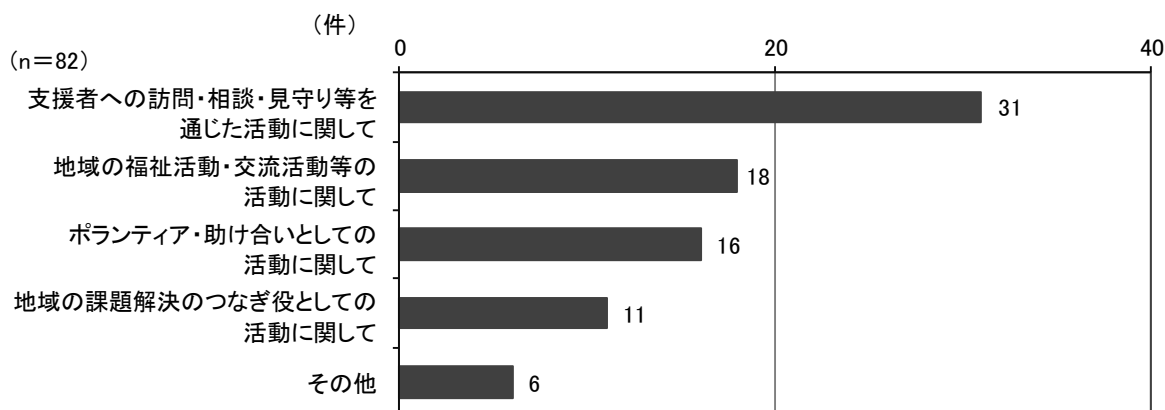
その他

- 管理事務所側（UR）の個人情報開示拒否姿勢が頑なである。必要に応じた開示の柔軟性が必要。
- 近所には高齢者が多く、若者がいない。
- 近所づきあいを全くしていない高齢の方が多いです。市の介護や福祉は受けていますが、いざ災害があった時の連絡、協力がうまくできないのではと思います。
- 根気よく訪ねて、話を聞いて理解してもらいました。
- 今の所、全くどうして良いか分かりません。お一人で散歩している方にお声をかけたりしてはいますが。

問4 今後、地域福祉を推進していく上で、貴団体の活動が求められる役割や意義は、どのようなものとお考えですか。お考えがありましたら、お聞かせください。（自由回答）

自由回答の回答件数は82件でした。

回答内容を見ると、「支援者への訪問・相談・見守り等を通じた活動に関して」が31件と最も多く、次いで「地域の福祉活動・交流活動等の活動に関して」が18件、「ボランティア・助け合いとしての活動に関して」が16件となっています。



※以下は、全ての回答を記載。

支援者への訪問・相談・見守り等を通じた活動に関して

- 人それぞれ価値観が違うので、当事者は「問題がある」と認識していないことが多いので、「聞く」役割。何かあったら言ってください、と「受け身」で待つことも大事。
- 民生委員は、個人の悩みを深く支援する。社協は、民生委員と協力しながらも、広く、楽しく活動できると思う。問題が出てきたら、その都度、皆で議論しながら、継続していく事が大切だと思う。
- 超高齢化社会に向けて、高齢者に対する民生委員のよりきめ細やかな対応が求められていくと思われ、民生委員の役割は重要であると考えます。
- 75歳を過ぎても、元気で働く人たちを励ます。少ない子どもたちが、安心、安全に通学できる様、環境を整える。
- 住民の方に信頼していただいて、相談事やお話を聴けるように。支援やサービスを理解して繋げる事。
- 高齢者とよく話をする。
- 自分が担当している高齢者には気配り等はしているが、それ以外の隠れ高齢者への配慮が必要である。
- 我々の地域の活動の対象は、主にお年寄りの方々である。従って、これから、高齢者クラブとより協力して、地域の活性化を考えたい。
- 高齢者からの相談に乗り、市役所へのつなぎ役。高齢者、児童の見守り役。
- みんなが安心して生活できることが基本であるが、特に独居による高齢者に関しては、積極的に訪問し、普段の動向をよく把握できるように努めたり、困った時の相談にはよく耳を傾け、精神面での安定が得られるように努める。但し、難題、難問の場合は一人で対処することなく、委員同志との関係、連絡を密にしながら対処する。正確な情報のキャッチが必要と考えている。

- 団体の活動として、事例報告などをしていきたいと思いますが、活動は個人でしているもので、なかなか上手くいきません。これからは、高齢者のことだけでなく、児童の見守りも更に必要になっていくので、個人個人の活動を吸い上げて欲しい。いろいろな連携が大事だと思います。
- 地区の高齢者を見守る中で、特に協力する人がいると思います。高齢者世帯が増えています。
- これからも、民生、児童委員が担当地区の人達への訪問、見守りを継続していく事が大切だと思います。
- 地域、団体との情報交換ができるようにすることで、増えていく見守り対象者をフォローしていくことにある。
- 私の地区は、今後高齢者が多くなる世帯が増えるので、重要な仕事になる。地域包括支援センターと連携して活動したい。
- 高齢者は、自分本位の方が多く、日常生活全般にわたって、毎日支援を欲求する方がいます。民生委員の立場、仕事などの説明にも納得せず、怒り出したりする。24 時間の高齢者対応窓口があれば良い。
- 高齢者の方が気軽に参加でき、集会所等でお茶会が出来たらと思います。
- 高齢化地域において、見守り対象者が多い中、他人に迷惑をかけたくない、頼りたくないと思っている方も少なくありません。まだまだ、ご自身でできると思われているようです。その気持ちを尊重しつつ、求めていることが何かを見極めながら、押し付けのない活動が必要だと考えます。
- 高齢者の見守り、児童安全を優先に活動していきます。
- 世間一般の事案ではなく、自分のいる地域で何が起きて、何を必要とされているのかを見極め、寄り添って見守る事が必要だと思います。特別な取り組みではなく、日常にある当たり前の事柄の積み重ねが大切だと思います。
- 今後、高齢化する社会が進んでいく中で、高齢の方が多くなり、見守り活動、付き添いが必要になる。大変重要である。
- 全ての人が安全で、安心して暮らせる様に、見守り活動をしていければと思っています。
- 支部活動は、一生懸命やるが、個々の地域訪問活動をあまりされていない方がいる様に見受けられる。
- 災害や、困り事などがあった場合、まずは家に伺って、様子を把握する。自分で無理な内容であったりしたら、それから市などに相談する。高齢者が安心して暮らしていけるよう、手助けをしていきたい。
- 地域の中で、お互いに安否確認ができ、一人暮らしや高齢世帯になっても、安心して発信できる環境をつくる事。
- 高齢化がさらに進む中、高齢者が生き生きと生活できる支援活動。児童の見守り。
- 現在の主な対象者を、65 歳以上で一人暮らしの方や、70 歳以上で夫婦の方としていますが、65 歳以上になると、まだ結婚していない息子、娘と一緒に暮らしていて、昼間は一人になってしまい、外にあまり出かけない方が増えてきているので、日中一人でいる方も対象にしてあげられたら良いと思います。
- 身近な相談相手として認識されること。
- 困り事、心配事など、気軽に相談してもらえ、場合によっては関係機関に繋げ、安心して暮らせる地域づくりのお手伝いの活動であると思います。
- 高齢者を（特に独居の方）支える体制を作るのが課題です。

○高齢者や子育て世帯の見守り、子どもたちの見守りや関係機関への協力依頼は大切だと考えるが、相互が「個人情報保護」云々という言葉で一方向的に終わってしまい、うまく情報共有ができないことで、手当てが遅くなっているように思う。

地域の福祉活動・交流活動等の活動に関して

○地区内の交流は、もっとあってもいいと思う。全体的に高齢に向かっている。

○永治小学校体育館の活用及び運動場の利用。グランドゴルフ、クロリティー、お花見、盆踊り。

○社会福祉協議会が担う地域福祉、災害への役割の重要性を、多くの人に認識してもらう事。

○期待されている割に、人数援助が少なく、地域内の一人ひとりの把握が難しくなっている。防災と結びついた動きを組織的に考えていく必要がある。

○地域密着の活動。

○地域の特に高齢者が、楽しく有意義に過ごせるような、リーダー、世話役を求められていると考える。

○現在、マンション住民3分の2、外部住民3分の1の構成で、印西ちょきん運動、シニアクラブを運営しています。住民の外部との交流は僅かですが、多少は役に立っていると思います。

○新住民と旧住民の交流の場を提供する事。高齢者の足腰の衰えを防止するため、歩くことによる運動と森林浴により、元気で過ごせる触れ合いと健康づくり。

○団地なのでペット問題。管理組合規約では、小動物の範囲までの扱いだが、実際には、癒しとして犬、猫を飼っている世帯があり、災害時の対応（ペットを連れて非難する意味）が空白となっている問題。

○町内会、自治体に目を向けて、積極的に行事などに参加して欲しい。

○災害時の互助活動の基盤作り。

○イベント、サークル支援情報の把握と安否確認による問題の洗い出しを行い、軽いうちの対応をしていく。

○地域の連帯、他団体との交流の活性化等を図り、地域福祉の充実としての要。

○高齢者主体の活動から、もっと広い世代を対象にした活動へとし、多くの方が地域福祉の重要性を知っていただけるような方向を目指すべきと思う。地域福祉は、今回の台風（15号、19号）被災時には、特に重要になると思います。

○固定の場所だけでは、足の便が悪くて参加できない方々のために、参加しやすい場所とボランティアの確保が出来れば、活動の場を広げていきたいと考えています。

○昔、近所同志が集まり、お茶をしたり、食事をする場所が、私達の家から無くなってしまいました。こういう茶友会を楽しみにしている人達が、年に何回か集まり、情報を共有したり、生き生きとする。そんな大きな事ではないが、まず、身近な人達を私達は考えて活動したい。近年、市のちょきん運動が活発で、そういう意味では、ある程度その部分を補ってくれていると思う。

○それぞれの世代を支える。それぞれの世代が、活動が、いい社会やコミュニティーを作ると思うが、なかなか難しい。

○地域の事情に合った活動を、町内会より広い範囲で行っている支部社協の活動は、地域にとって大切。活動内容を支部事態も考え続ける必要がある。

ボランティア・助け合いとしての活動に関して

○微力ながら、活動に行く事、それが多くの人に理解されていく事に繋がると思う。非常に消極的であるが、一番効力があるのではないかと思う。

- ボランティア精神。
- 私達の日頃行っている活動を知らない人が多い事。「民生委員です。」と伺っても、民生委員が何をしているのか分からないことがあるので、たくさんの人に知ってもらうことが何より大事だと思う。
- 役割も意義もボランティア精神につきると思います。
- 次世代に繋ぐ担い手を増やす事。人材育成。
- PR 不足もあり、地域内での認知度が低い。民生委員のなり手がいない。
- 若い方、ご高齢の方がお互いの理解を深め、何かあった時に助け合えるようなネットワークが必要だと思う。個人保護も大切だが、自治会で独居の方も分からない状態だと、助けが必要な時に何もできないので、本当は自治会とも連帯できると地域ぐるみで助け合いができると思う。
- 社会の変化が著しく、様々な問題が生じてきています。人と人との繋がりが希薄になってきている中で、一層、民生委員・児童委員の役割は大きくなっていると思う。地域における、支え合い、助け合いの輪が、広がっていけるようにしたいと思う。
- これからも、高齢化が進んでいく上で、手助けを必要とする人が増えてくると思う。その人数が、一人では出来ない時の対応を少しずつ考えていくほうが良いと思う。
- 共助を主体とした活動が良いと思われる。高齢者が多くなるこの地域では、通院、買い物、ゴミ出し等、隣り同士が助け合う事のできる組織があれば良いと思っている。
- ニュータウンでは、家やマンションが同じような間取りが多く、同世代（特に子育て世代）が、隣と違ってはいけなことを求められ、また意識し合う環境である。民生委員が、若い世代に気軽に声をかける中で、幅広い世代が助け合いながら、関わり合いが持てる街づくりに貢献出来たら良いと考えています。
- 元気な高齢者とは、日頃あまり接点がないが、元気な高齢者を含めた高齢者同志の互助、共助の仕組みが構築できると良いと思う。
- ますます高齢者が多くなる中で、果たす役割は大きくなっていくと思う。助け合いが必要になってくると思う。
- ボランティアに参加することは、難しく考えないで、気軽に参加して欲しい。些細なことでも、市へ伝える声を届けたい。
- 民児協について、一般住民に周知する手段と考え、人々が普通の暮らしができる仕組みづくりが必要である。
- 若い方が、もう少し地域福祉に目を向けてくれたらと思います。

地域の課題解決のつなぎ役としての活動に関して

- 見回り等で得られた情報を専門機関（特に地域包括支援センター、社会福祉協議会等）と共有し、福祉の増進に寄与したい。
- 問題解決への行政への繋ぎ役となること。対象様に寄り添い、話を聞き、解決への道を探すこと。住民の方の信頼を得て、相談できるようになること。
- 高齢化が進む中、多岐にわたる問題に対する柔軟な対応。
- 地域の見守り役として、支援の必要な人を地域包括支援センターや行政に繋げていく事が、地域福祉を推進していく上での役割と考える。

- 自治会でもこのことを心配して、地域での防災の取り組みや、孤立して支援を必要としている方をアンケートして、回答してもらったりしていますが、会議など出席すると、全体の会員自体が年配の方が多いです。高齢の方や独居の方は、普段から地域との繋がりを他の方より積極的に持って行かないと、いざという時、後回しにされていくような気がします。また、その方達に接する機会等、周囲も気にかけるような心掛けが必要だと思います。
- 地域住民の相談相手であり、かつ市役所などの行政と地域住民を繋げる役割が、今後もっと重要になってくると思います。相談や話ができる存在があるという安心感を、地域住民の方に知っていただく必要があると思います。
- 地域の状況や声を、行政に繋げ、反映させること。
- 活動内容が多岐にわたっているが、我々の役割は、一人ひとりの方と行政のパイプ役である。その為、自信をもって、出来る限りのことに対応する心でいたい。
- 経験上思うことは、地域住民と行政機関、関係機関との繋ぎ役と、人と人との繋ぎ役としての役割を求められているように感じています。具体的には、地域の中での近所住民同志の繋ぎ役です。互いに接点があることで、解決できる問題が数多くあるように思います。また、防災、被災後の協力体制を作るには、日常的に住民同志の接点があることが必要不可欠だと感じています。多発する災害を前にして、強く実感しています。
- 地域住民と市役所や福祉関係機関や施設等とを繋いで、生活がより良くなるように尽力するのが、民生委員だと思っています。
- 地域の福祉的課題を共有して、解決に向け行動する。人と人との繋がりを活用して、周りの人々を巻き込む。

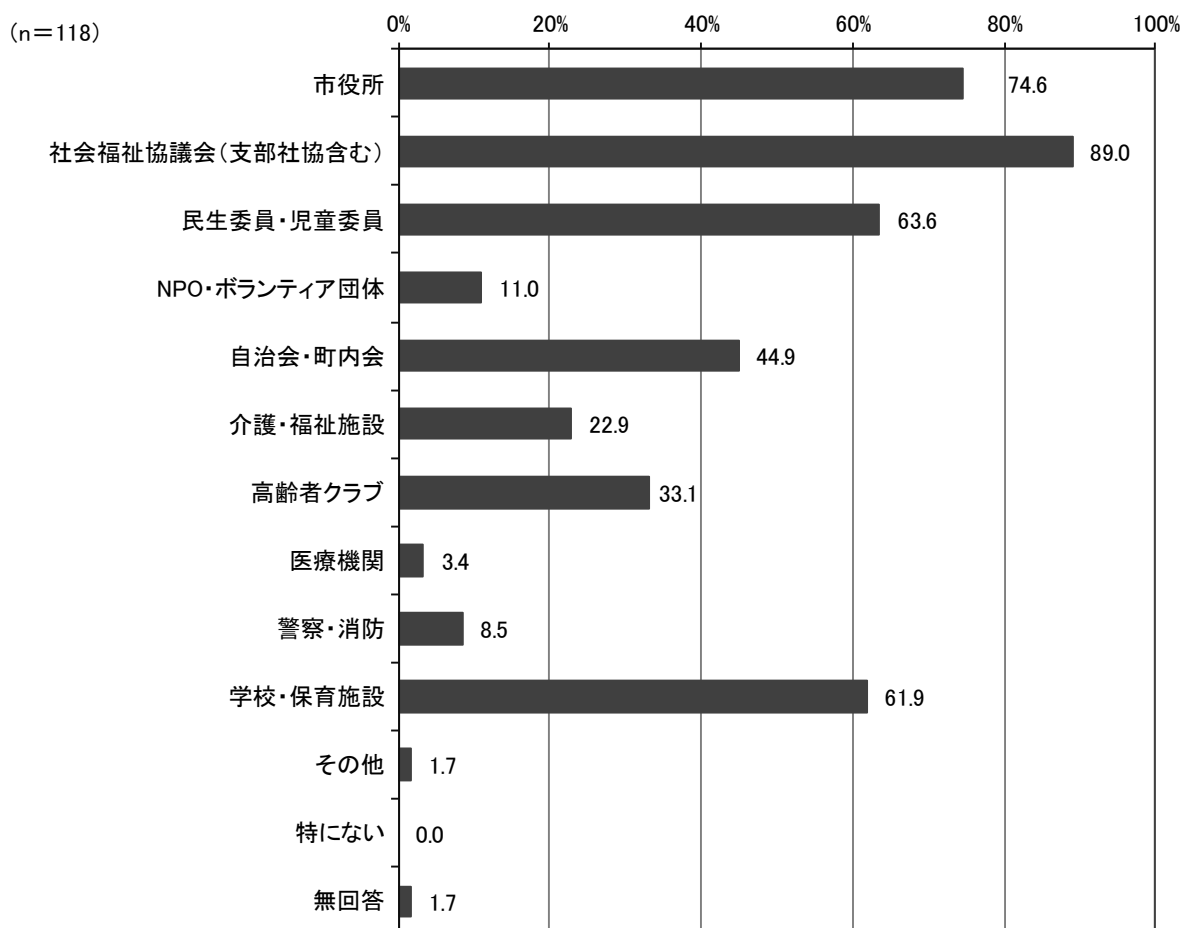
その他

- 市役所の担当者が移動で変わると困ります。長い関係が切れます。
- 高齢者に対して、敬老の日を大々的に祝う行事を遂行する。
- 民生委員・児童委員として真に何を求められ、またその事に対して、どこまで踏み込んで対応しなくてはならないのか。経験の浅い中で、良く分かりません。
- 逆に、市が何をどのくらい期待しているのかが、分からない。当団体の意義が、活動している中で、しっかり伝わってこない。
- 思案中です。
- 今まで通りで充分。これ以上は負担が多い（精神的に）。

問5 貴団体では、現在どのような機関・団体と連携していますか。また、今後新しくどのような機関・団体と連携していきたいと思いませんか。（複数回答）

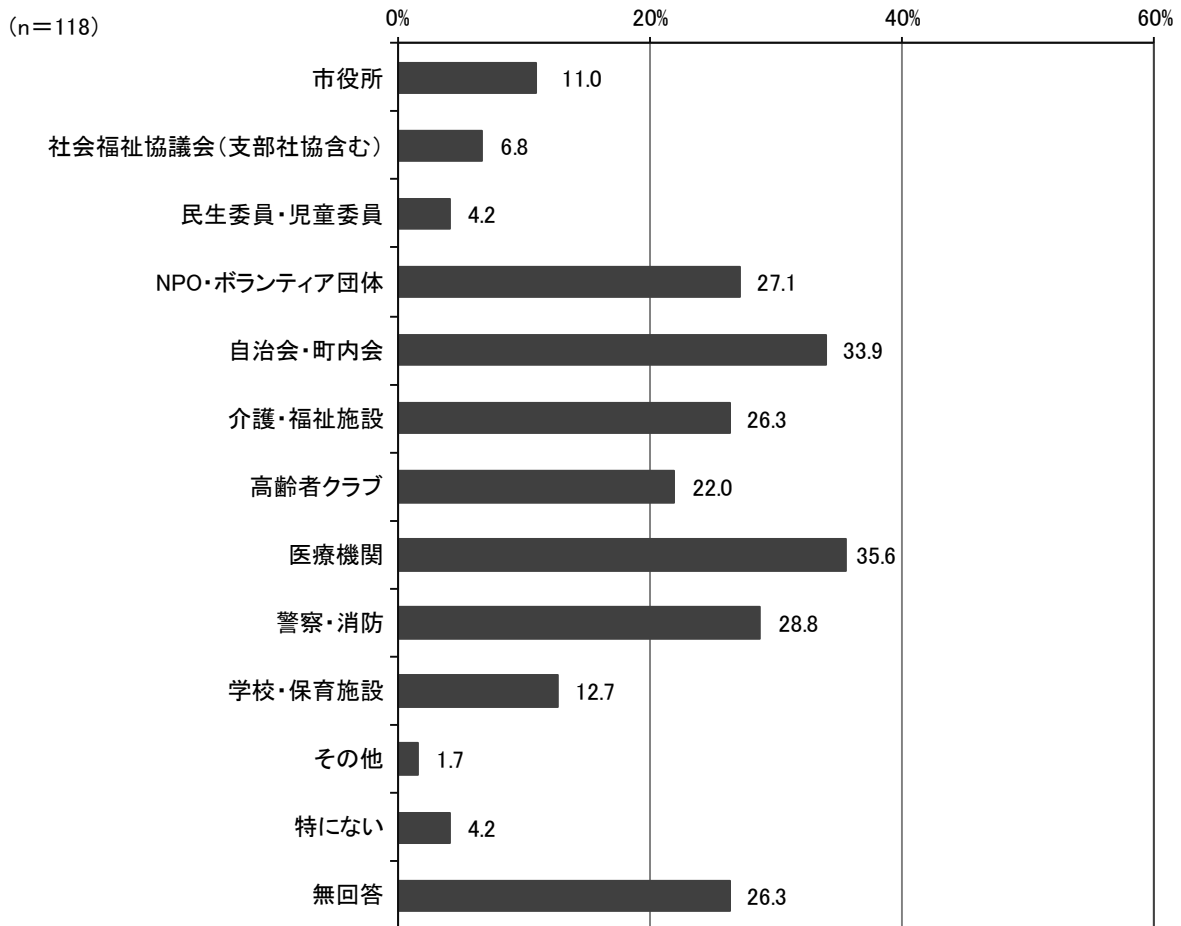
①現在連携している機関・団体

「社会福祉協議会（支部社協含む）」が89.0%と最も多く、次いで「市役所」が74.6%、「民生委員・児童委員」が63.6%、「学校・保育施設」が61.9%となっています。また、「自治会・町内会」（44.9%）、「高齢者クラブ」（33.1%）も3割以上となっています。



②今後連携したい機関・団体

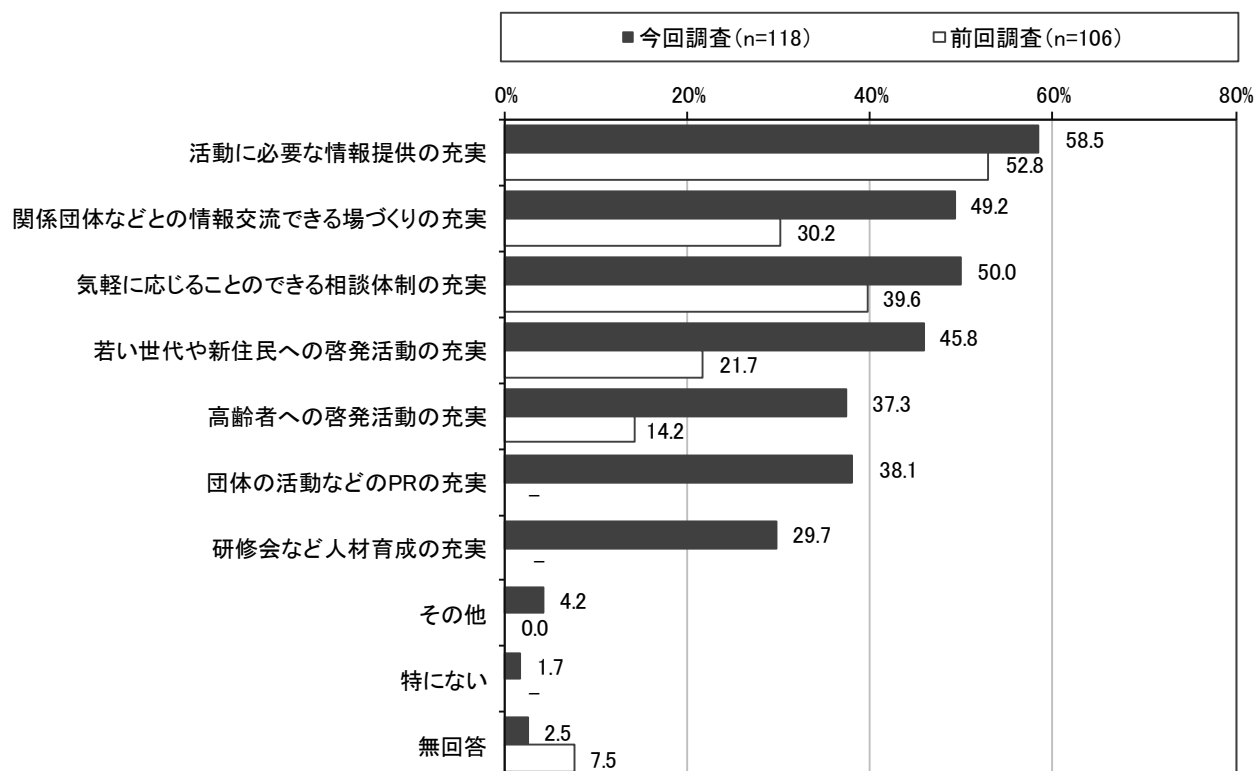
「医療機関」が35.6%と最も多く、次いで「自治会・町内会」が33.9%、「警察・消防」が28.8%、「NPO・ボランティア団体」が27.1%、「介護・福祉施設」が26.3%、「高齢者クラブ」が22.0%となっています。



問6 貴団体が地域福祉を推進していく上で、今後、重要と思うことは何ですか。(複数回答)

「活動に必要な情報提供の充実」が58.5%と最も多く、次いで「気軽に応じることのできる相談体制の充実」が50.0%、「関係団体などとの情報交流できる場づくりの充実」が49.2%、「若い世代や新住民への啓発活動の充実」が45.8%となっています。

前回調査と比較すると、「若い世代や新住民への啓発活動の充実」が24.1ポイント、「高齢者への啓発活動の充実」が23.1ポイント、「関係団体などとの情報交流できる場づくりの充実」が19.0ポイント、「気軽に応じることのできる相談体制の充実」が10.4ポイント、「活動に必要な情報提供の充実」が5.7ポイント前回より多くなっています。

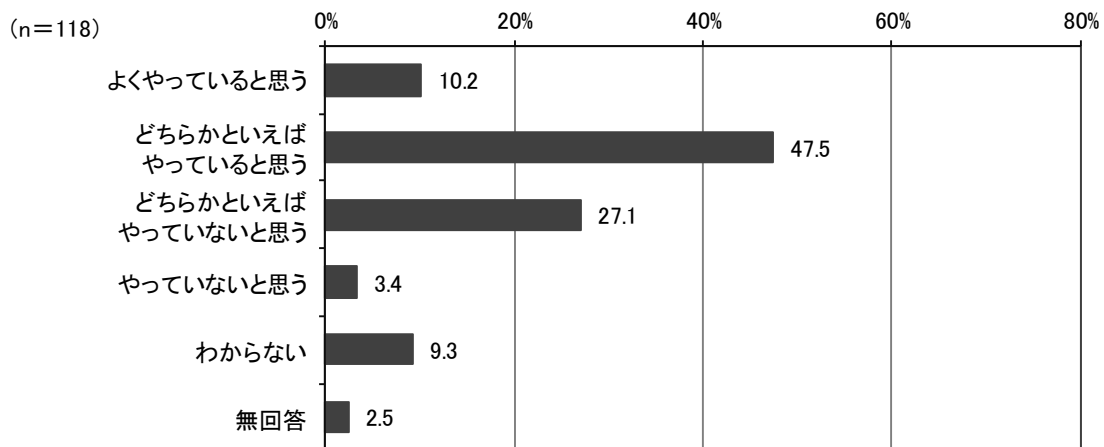


3. 地域福祉の推進について

問7 あなたは、印西市における地域での支え合い、助け合いについてどう感じていますか。

(単数回答)

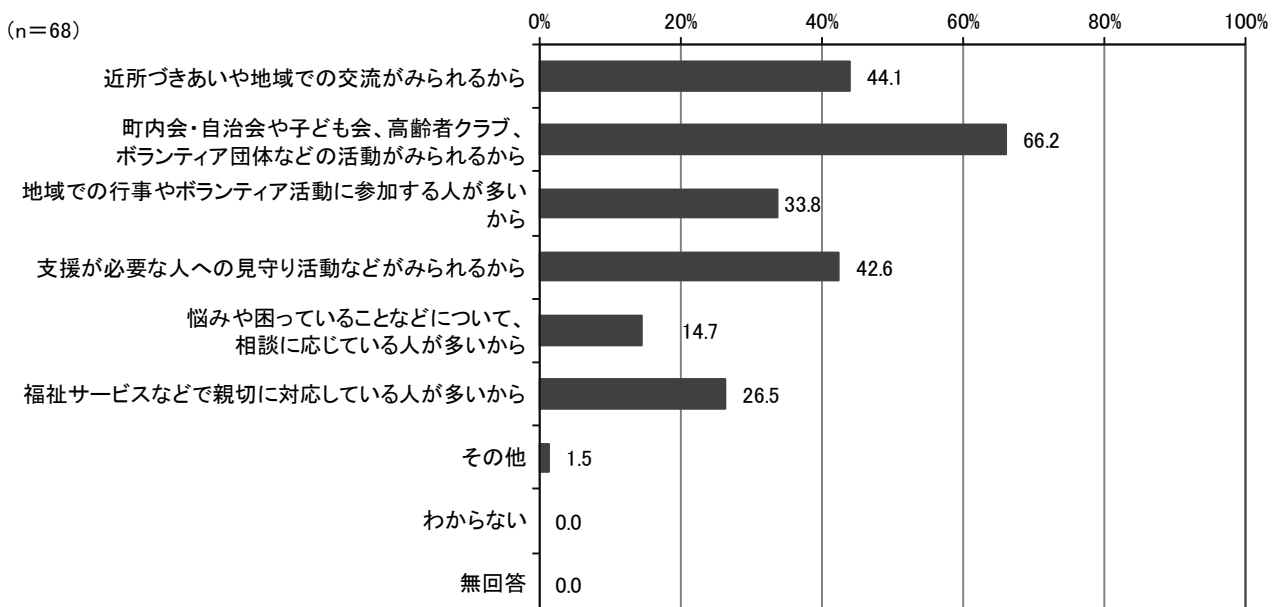
「どちらかといえばやっていると思う」が47.5%と最も多く、「よくやっていると思う」(10.2%)と合わせた“やっていると思う”は57.7%となっています。反対に、「どちらかといえばやっていないと思う」(27.1%)と「やっていないと思う」(3.4%)合わせた“やっていないと思う”は30.5%となっています。



(問7で「よくやっていると思う」または「どちらかといえばやっていると思う」を選んだ方)

問7-1 地域での支え合い、助け合いをされていると思う理由は何ですか。(複数回答)

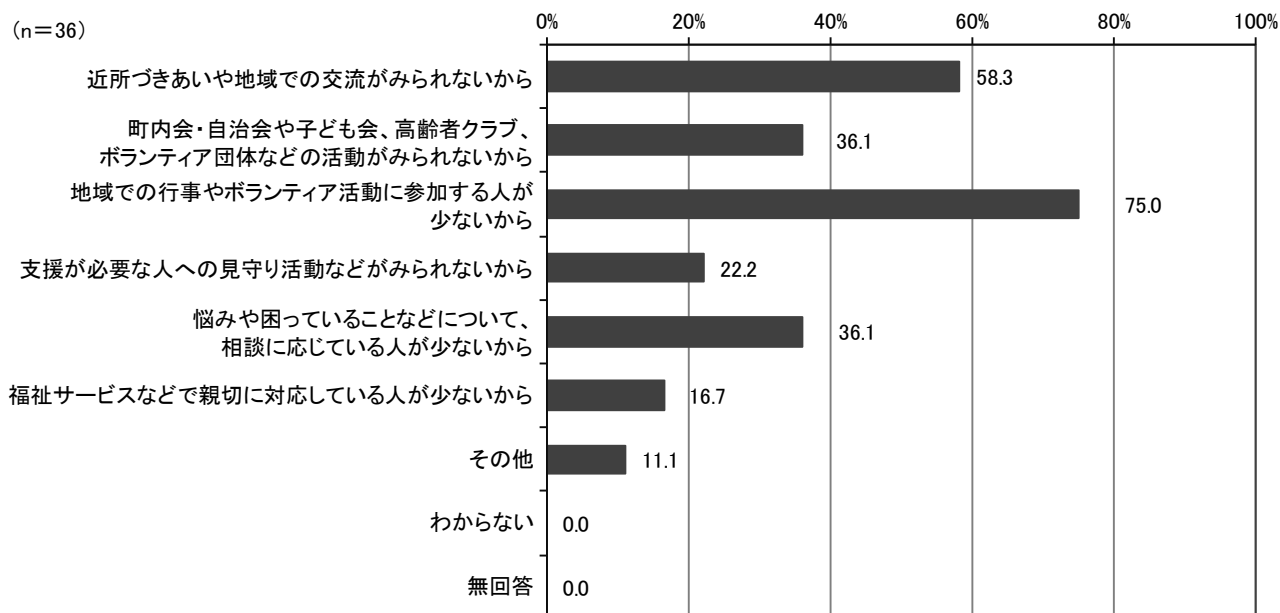
「町内会・自治会や子ども会、高齢者クラブ、ボランティア団体などの活動がみられるから」が66.2%と最も多く、次いで「近所づきあいや地域での交流がみられるから」が44.1%、「支援が必要な人への見守り活動などがみられるから」が42.6%となっています。



(問7で「どちらかといえばやっていないと思う」または「やっていないと思う」を選んだ方)

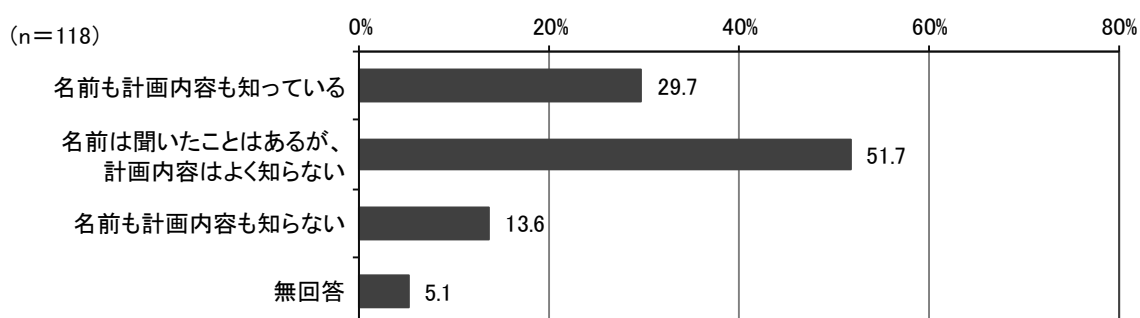
問7-2 地域での支え合い、助け合いをやっていないと思う理由は何ですか。(複数回答)

「地域での行事やボランティア活動に参加する人が少ないから」が75.0%と最も多く、次いで「近所づきあいや地域での交流がみられないから」が58.3%、「町内会・自治会や子ども会、高齢者クラブ、ボランティア団体などの活動がみられないから」と「悩みや困っていることなどについて、相談に応じている人が少ないから」がともに36.1%となっています。



問8 印西市が策定している「地域福祉計画」をご存知ですか。(単数回答)

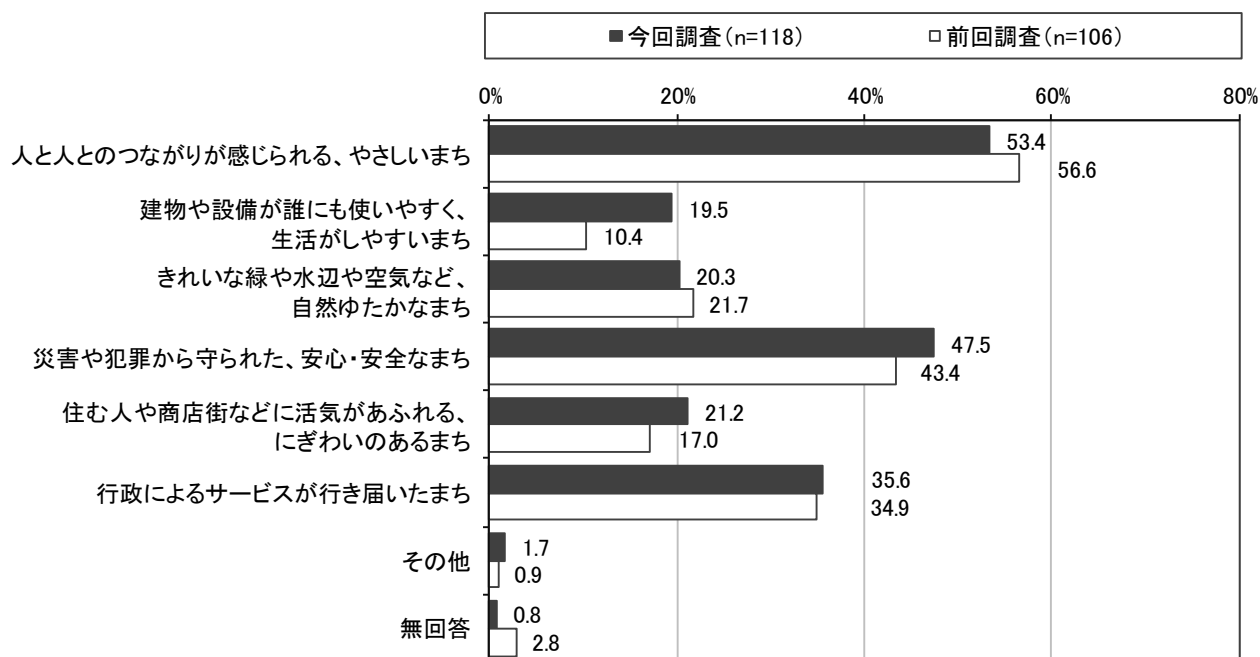
「名前は聞いたことはあるが、計画内容はよく知らない」が51.7%と最も多く、次いで「名前も計画内容も知っている」が29.7%、「名前も計画内容も知らない」が13.6%となっています。



問9 安心して暮らしやすい印西市にするために、将来、どのようなまちの姿をめざすべきだと思いますか。（複数回答／2つまで）

「人と人とのつながりが感じられる、やさしいまち」が53.4%と最も多く、次いで「災害や犯罪から守られた、安心・安全なまち」が47.5%、「行政によるサービスが行き届いたまち」が35.6%となっています。

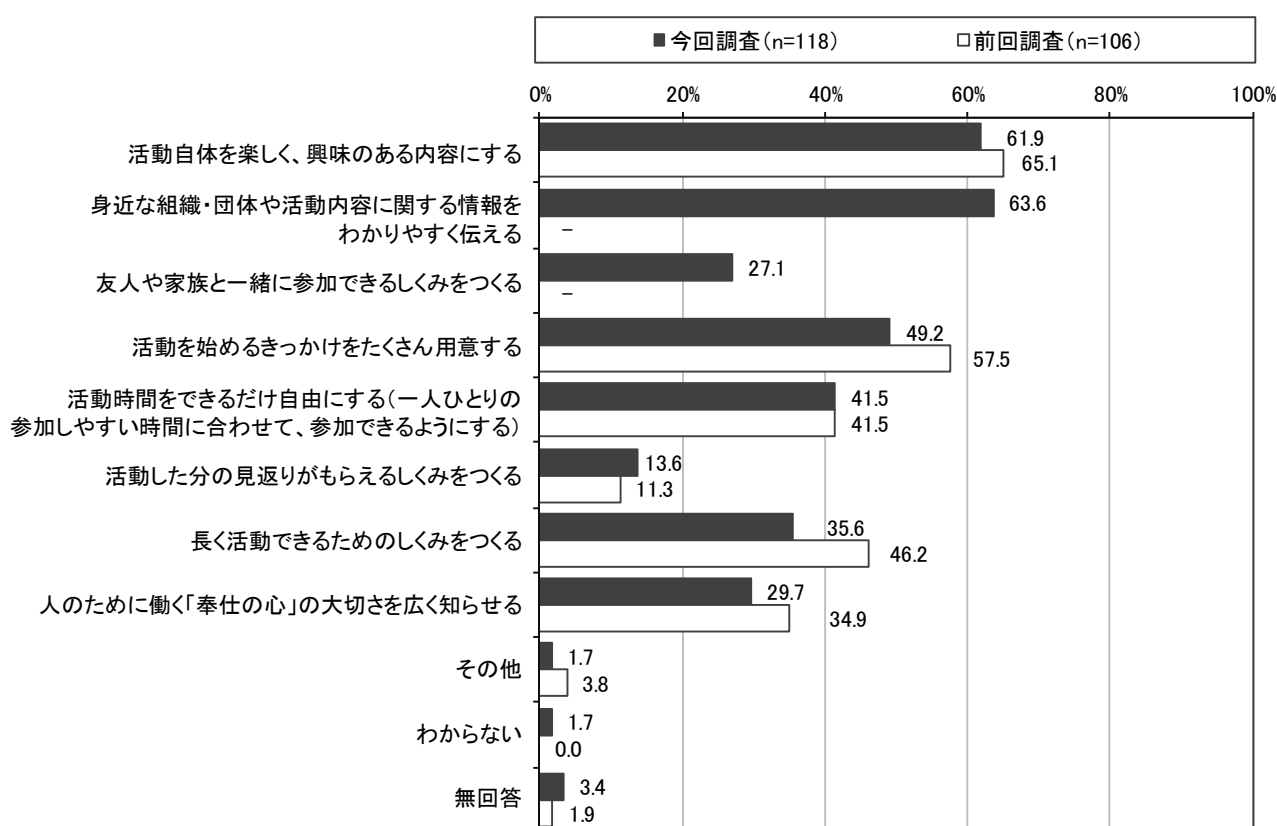
前回調査と比較すると、「建物や設備が誰にも使いやすく、生活がしやすいまち」が9.1ポイント前回より多くなっています。



問 10 たくさんの人に地域の活動やボランティア活動に参加してもらうためには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答）

「身近な組織・団体や活動内容に関する情報をわかりやすく伝える」が 63.6%と最も多く、次いで「活動自体を楽しく、興味のある内容にする」が 61.9%、「活動を始めるきっかけをたくさん用意する」が 49.2%。「活動時間をできるだけ自由にする（一人ひとりの参加しやすい時間に合わせて、参加できるようにする）」が 41.5%となっています。

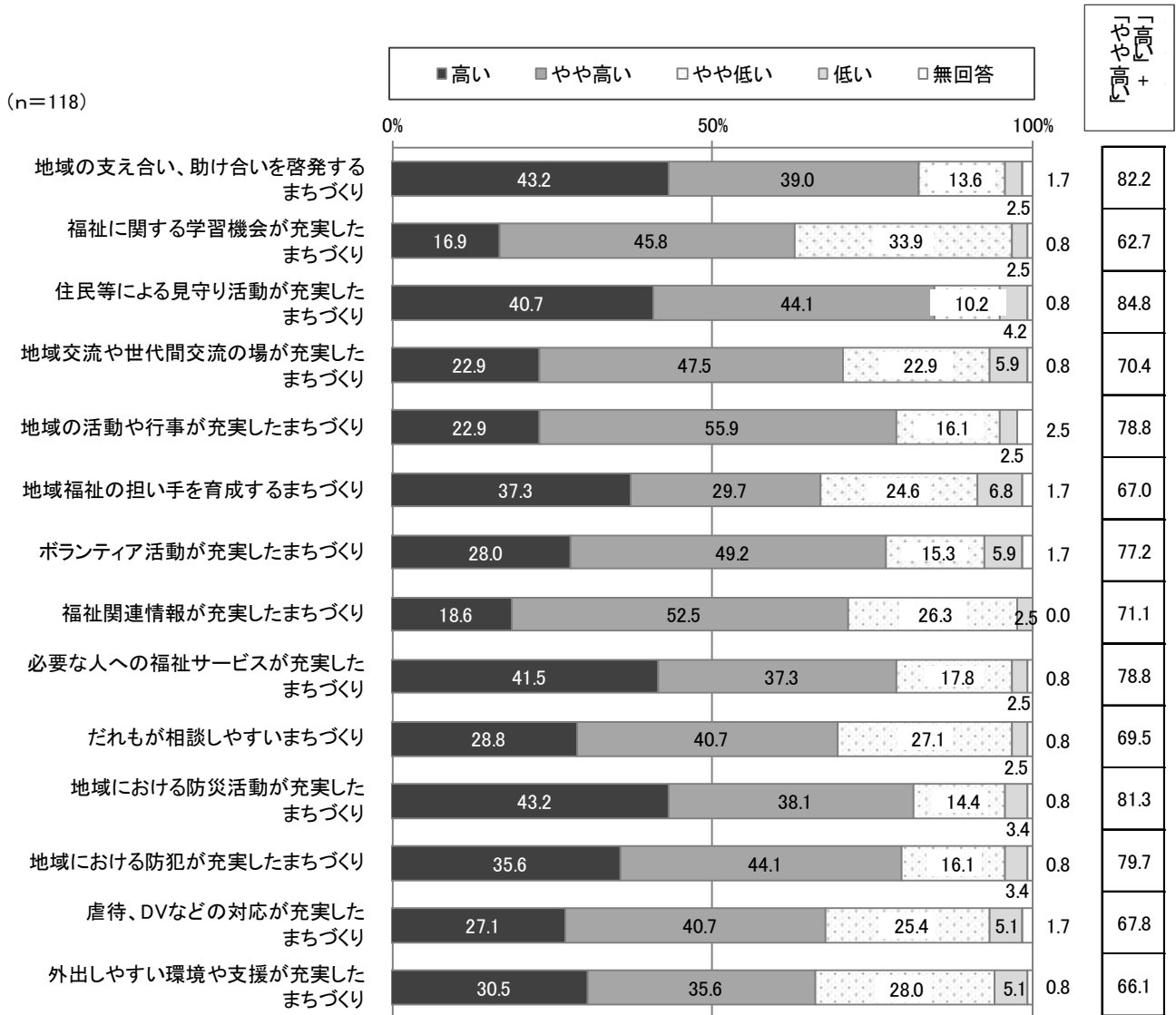
前回調査と比較すると、「長く活動できるためのしくみをつくる」が 10.6 ポイント、「活動を始めるきっかけをたくさん用意する」が 8.3 ポイント、「人のために働く「奉仕の心」の大切さを広く知らせる」が 5.2 ポイント前回より少なくなっています。



問 11 あなたは、次のア～セの項目について、どの程度重要だと思いますか。また、どの程度満足されていますか。（単数回答）

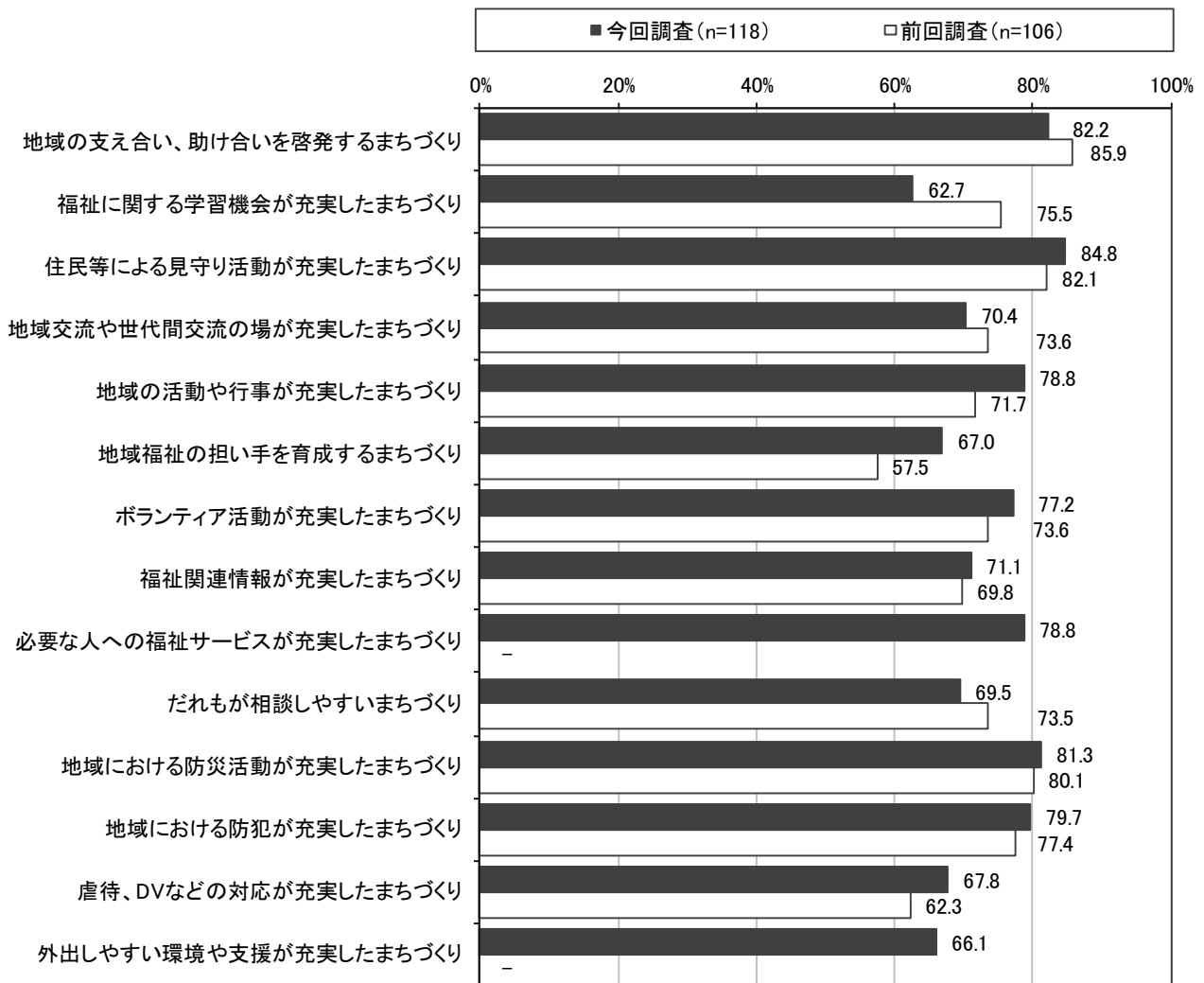
■重要度

重要度が「高い」と「やや高い」の合計をみると、「住民等による見守り活動が充実したまちづくり」が84.8%と最も多く、次いで「地域の支え合い、助け合いを啓発するまちづくり」が、82.2%、「地域における防災活動が充実したまちづくり」が81.3%となっています。



●前回調査比較（数字は、重要度が「高い」と「やや高い」の合計）

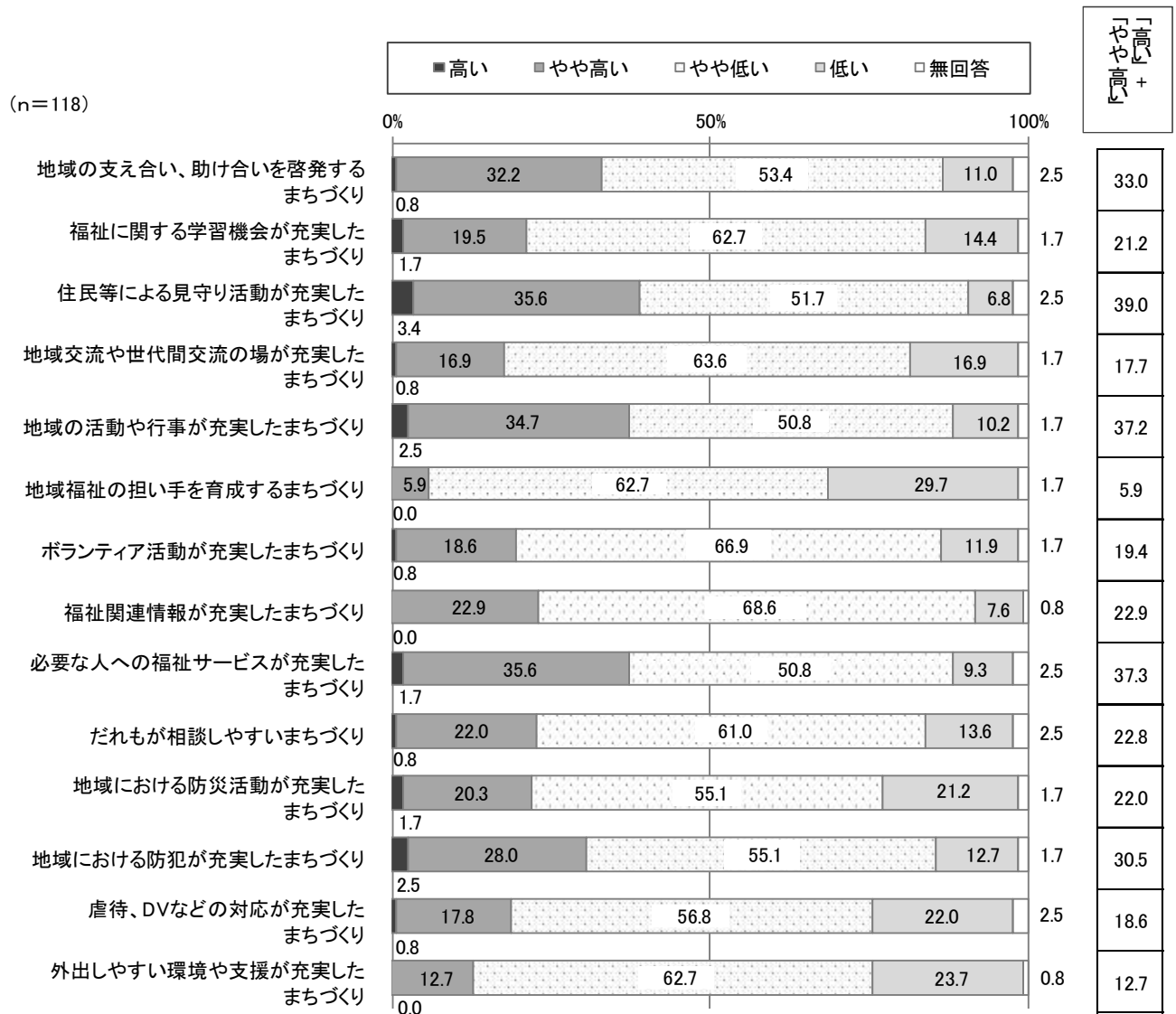
重要度が「高い」と「やや高い」の合計について前回調査と比較すると、「地域福祉の担い手を育成するまちづくり」が9.5ポイント、「地域の活動や行事が充実したまちづくり」が7.1ポイント、「虐待、DVなどの対応が充実したまちづくり」が5.5ポイント前回より多くなっています。また反対に、「福祉に関する学習機会が充実したまちづくり」が12.8ポイント前回より少なくなっています。



■ 満足度

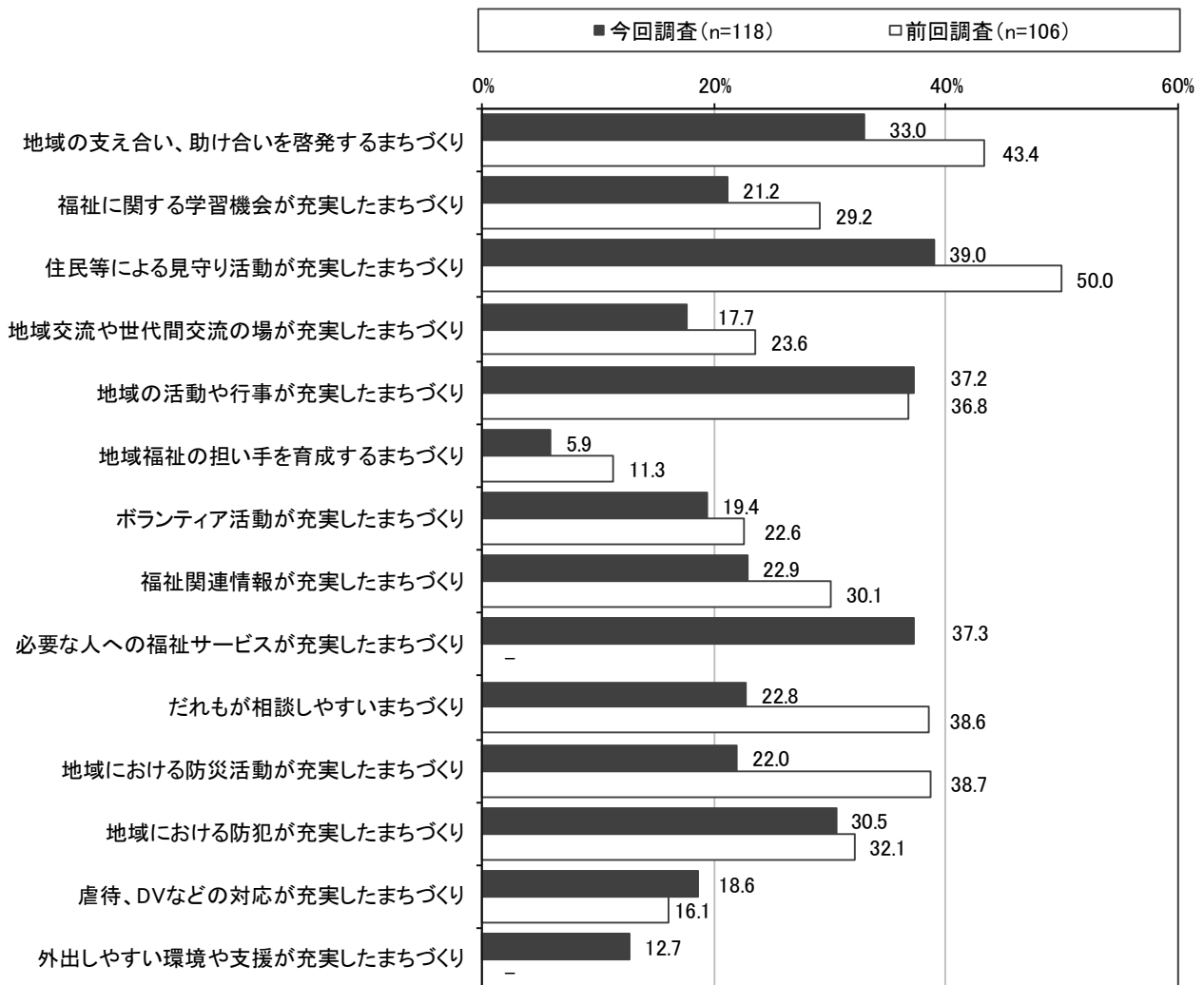
満足度が「高い」と「やや高い」の合計をみると、「住民等による見守り活動が充実したまちづくり」が39.0%と最も多く、次いで「必要な人への福祉サービスが充実したまちづくり」が37.3%、「地域の活動や行事が充実したまちづくり」が37.2%となっています。

反対に「高い」と「やや高い」の合計が少ない項目をみると、「地域福祉の担い手を育成するまちづくり」が5.9%と最も少なく、次いで「外出しやすい環境や支援が充実したまちづくり」が12.7%、「地域交流や世代間交流の場が充実したまちづくり」が17.7%となっています。



●前回調査比較（数字は、満足度が「高い」と「やや高い」の合計）

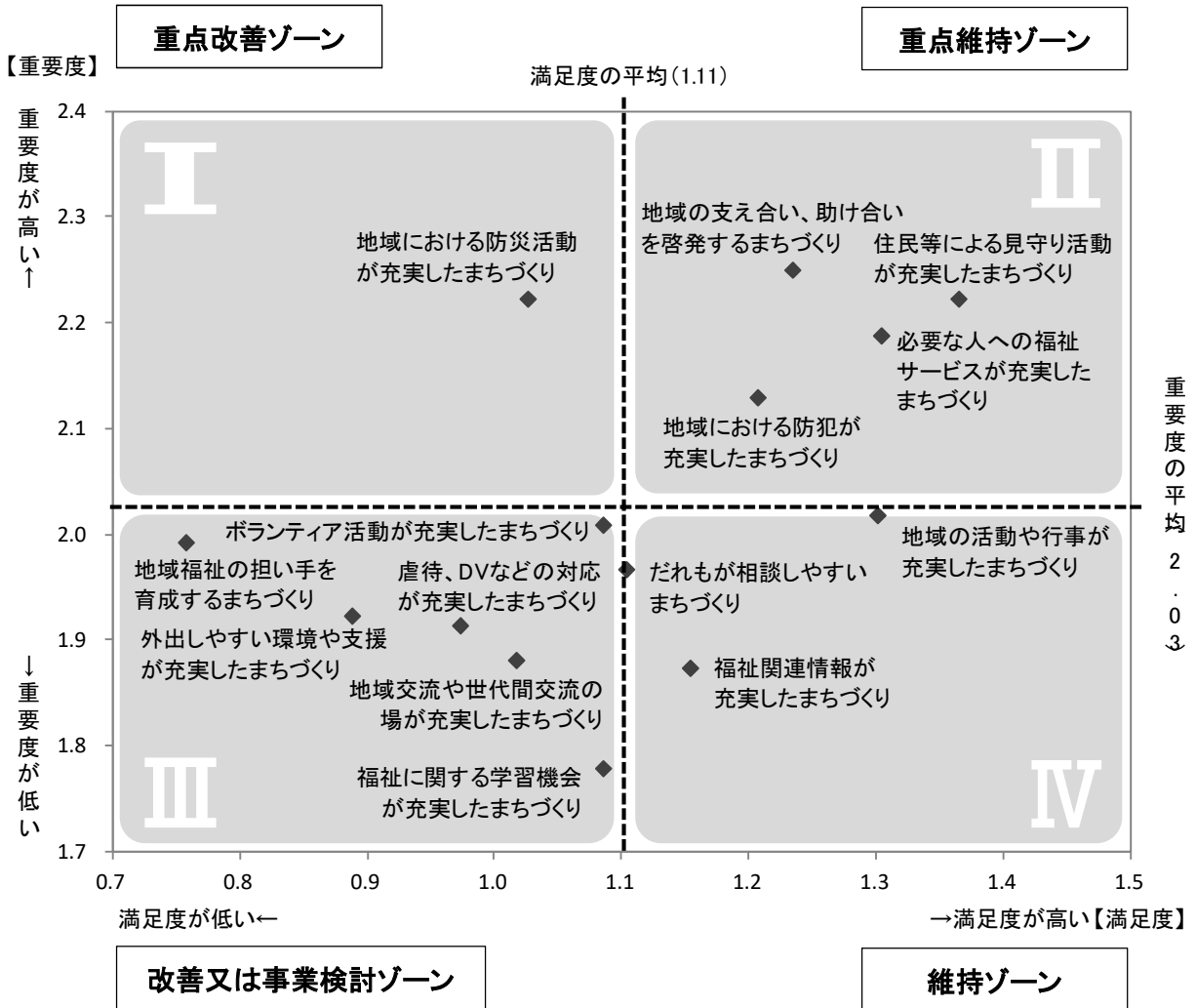
満足度が「高い」と「やや高い」の合計について前回調査と比較すると、「地域における防災活動が充実したまちづくり」が16.7ポイント、「だれもが相談しやすいまちづくり」が15.8ポイント、「住民等による見守り活動が充実したまちづくり」が11.0ポイント、「地域の支え合い、助け合いを啓発するまちづくり」が10.4ポイント、「福祉に関する学習機会が充実したまちづくり」が8.0ポイント、「福祉関連情報が充実したまちづくり」が7.2ポイント、「地域交流や世代間交流の場が充実したまちづくり」が5.9ポイント、「地域福祉の担い手を育成するまちづくり」が5.2ポイント前回より少なくなっています。



●参考／ポートフォリオ分析結果

重要度が高く、満足度が低い重点改善ゾーンをみると、「地域における防災活動が充実したまちづくり」が挙げられます。

また、重要度と満足度がともに高い重点維持ゾーンをみると、「地域の支え合い、助け合いを啓発するまちづくり」と「住民等による見守り活動が充実したまちづくり」、「必要な人への福祉サービスが充実したまちづくり」、「地域における防犯が充実したまちづくり」が挙げられます。



(白場)

IV 調査結果の総括

1. 地域の住民交流の促進

印西市での居住年数（市民・問5）をみると、「20年以上」（54.2%）が5割半ばと最も多いながら、次いで多い「5年未満」（13.6%）とともに、「5～10年未満」（10.3%）を合わせた“10年未満”（23.9%）は2割半ば近くとなっており、印西市の特性として約4人に1人近くが10年未満の転入者という状況がうかがえます。特に、年齢別では30～49歳（30～39歳61.9%/40～49歳44.6%）が、地区別では船穂・牧の原（43.5%）が、10年未満の転入者が多くなっています。

一方、隣近所とのつきあい（市民・問8）をみると、「あいさつをする程度」（42.7%）が最も多いなど、近所づきあいの希薄さがうかがえるとともに、身近な地域で気になること、問題と感ずること（市民・問11、団体・問2）をみても、「近所づきあいが希薄」（市民18.7%、団体39.0%）と「新住民と旧住民や世代を超えたふれあい・交流がない」（市民16.8%、団体36.4%）が少なからずみられることから、新旧住民や世代間を含めた地域の交流促進が重要と考えられます。

また、隣近所とのつきあい（市民・問8）を属性別でみると、年齢別の39歳以下と地区別のニュータウン中央南、同居者別の乳児（1歳未満）のいる人では「あいさつをする程度」が、住居形態別の都市再生機構の賃貸と社宅、民間賃貸マンション、民間賃貸アパートなどでは「ほとんどつきあいはない」が、いずれも全体より10ポイント以上多くなっていることから、39歳以下の世代や賃貸集合住宅の世帯などを考慮した形で、地域の交流促進のあり方の検討が必要と考えられます。

2. 地域の支え合い、助け合いの啓発の強化

印西市の支え合い、助け合いの印象（市民・問15）をみると、「よくやっていると思う」（5.2%）と「どちらかといえばやっていると思う」（29.2%）を合わせた“やっていると思う”（34.4%）は3割半ばで、反対に、「どちらかといえばやっていないと思う」（16.0%）と「やっていないと思う」（9.1%）を合わせた“やっていないと思う”（25.1%）は2割半ばとなっています（「わからない」が38.9%で最も多い）。

一方、地域での支え合い、助け合いの必要性（市民・問14）をみると、「必要だと思う」（79.6%）が約8割に達しており、市民の中に支え合い、助け合いの必要性については浸透している状況がうかがえる中、福祉の取り組みに関する重要度（市民・問29、団体・問11）について重要度が「高い」と「やや高い」の合計をみると、「地域の支え合い、助け合いを啓発するまちづくり」（市民70.8%、団体82.2%）が市民・団体ともに上位となっています。

また、団体が地域福祉を推進していく上で重要なこと（団体・問6）においても、「若い世代や新住民への啓発活動の充実」（45.8%）が上位となっていることから、若い世代や新住民を含めた支え合い、助け合いの啓発の強化が重要と考えられます。

さらに、支え合い、助け合いの推進に向けた基本となる地域福祉計画の認知状況（市民・問 26）をみると、「名前も計画内容も知らなかった」（76.7%）が約 8 割と最も多いことから、様々な機会をとらえた計画の周知強化が必要と考えられます。

3. 地域での活動やボランティア活動の参加促進

地域の自治会などの組織・団体の加入状況（市民・問 12）をみると、「はい」（33.0%）が3割強、「いいえ」（63.6%）が6割強となっており、特に、年齢別では 18～29 歳（92.9%）が、地区別では木下（74.0%）が、「いいえ」の割合が多くなっています。また、前回調査と比較すると、「いいえ」が 11.9 ポイント前回より多く、組織・団体へ加入している割合が減少している状況がうかがわれます。

また、現在の地域活動やボランティア活動への参加状況（市民・問 13）をみると、「まったく参加していない」（45.8%）と「どちらかといえば参加していない」（24.3%）と合わせた“参加していない”（70.1%）は約7割となっており、特に 39 歳以下では、「まったく参加していない」が全体より 10 ポイント以上多くなっていることから、独身や夫婦ともに働く子育て家庭といった若い世代を含めた地域活動などへの参加促進が重要と考えられます。

さらに、多くの人に地域活動などに参加してもらうため必要なこと（市民・問 17）をみると、「活動自体を楽しく、興味のある内容にする」（46.1%）が最も多く、次いで「身近な組織・団体や活動内容に関する情報をわかりやすく伝える」（44.7%）と「活動時間をできるだけ自由にする（一人ひとりの参加しやすい時間に合わせて、参加できるようにする）」（40.5%）、「活動を始めるきっかけをたくさん用意する」（39.5%）が上位に挙げられているとともに、18～29 歳では「活動した分の見返りがもらえるしくみをつくる」（22.8%）が、30～39 歳では「活動自体を楽しく、興味のある内容にする」（58.7%）と「友人や家族と一緒に参加できるしくみをつくる」（47.6%）が、全体より 10 ポイント以上多くなっていることから、これらのニーズを考慮し、地域活動などへスムーズに参加できる仕組みの強化を進めることが必要と考えられます。

4. 福祉の担い手の育成

身近な地域で気になること、問題と感ずること（市民・問 11、団体・問 2）をみると、「自治会・町内会の役員や福祉の担い手が不足」（市民 30.3%、団体 68.6%）が市民、団体ともに上位となっており、特に団体では最上位となっています。

また、団体の活動をする上での苦勞していることや課題（団体・問 3-1）をみても、活動の担い手の高齢化や次世代の担い手不足の声があることから、福祉の担い手育成に向けた取り組みが重要と考えられます。

5. 支援が必要な人を支えるきめ細かいサポートの充実

身近な地域で気になること、問題と感ずること（市民・問 11、団体・問 2）をみると、「高齢者の見守りや高齢者世帯への支援が必要と思われるケースがみられる」（市民 14.5%、団体 36.4%）をはじめ、「子どもの見守りや子育て世帯への支援が必要と思われるケースがみられる」（市民 6.4%、団体 16.1%）、「障がいのある人に対する理解や支援が必要と思われるケースがみられる」（市民 4.8%、団体 12.1%）、「外国人のトラブルや外国人世帯への支援が必要と思われるケースがみられる」（市民 2.8%、団体 5.1%）、「子どもや高齢者などへの虐待やひきこもりなどを懸念するケースがみられる」（市民 1.7%、団体 15.3%）が挙げられています。

また、福祉の取り組みに関する重要度（市民・問 29、団体・問 11）について重要度が「高い」と「やや高い」の合計をみると、「必要な人への福祉サービスが充実したまちづくり」（市民 72.1%、団体 78.8%）が上位であるとともに、印西市の福祉サービスで重要なこと（市民・問 25）についても、「一人ひとりの状況や希望に対応したきめ細かい福祉サービスの充実」（26.7%）が上位となっていることから、高齢者をはじめ、子ども、障がい者、外国人などの支援を必要とする人に対するきめ細かいサポートの充実が重要と考えられます。

6. 福祉関連サービスの情報提供の充実

印西市の福祉サービスで重要なこと（市民・問 25）をみると、「福祉・介護サービスなどに関する福祉情報の充実」（41.1%）が4割強と最も多くなっていることから、福祉関連サービスの情報提供の充実が必要と考えられます。

また、福祉サービスの利用状況（市民・問 24）で利用に不満を感じた回答者（7.1%）のうち、不満内容（市民・問 24-1）をみると、「福祉サービスに関する情報が入手しづらかった」（48.6%）が3割弱と最も多く、次いで「どこに利用を申し込めばよいのかわからなかった」（28.4%）が3割弱となっていることから、福祉サービス情報の提供方法や利用の申し込み先の明確化の検討が必要とされています。

7. 気軽に相談できる相談体制の充実

印西市の福祉サービスで重要なこと（市民・問 25）をみると、「気軽に困りごとを相談できる相談窓口の充実」（40.9%）が約4割と上位に挙げられているとともに、団体が地域福祉を推進していく上で重要なこと（団体・問 6）においても、「気軽に応じることのできる相談体制の充実」（50.0%）が上位となっていることから、気軽に相談できる相談体制の充実が必要と考えられます。

また、福祉サービスの利用状況（市民・問 24）で利用に不満を感じた回答者（7.1%）のうち、不満内容（市民・問 24-1）をみると、「相談窓口の開設時間が限られており、利用しづらかった」（27.5%）が3割弱となっていることから、利用しやすい相談窓口のあり方の検討が必要とされています。

8. 災害や犯罪から守られた、安心・安全なまちづくりの推進

身近な地域で気になること、問題と感ずること（市民・問 11、団体・問 2）をみると、「災害など非常時の協力体制が不安（災害意識の希薄さ含む）」（市民 30.3%、団体 64.4%）が、市民、団体ともに上位に挙げられています。また、安心して暮らしやすいまちづくりの方向性（市民・問 27、団体・問 9）についても、市民では「災害や犯罪から守られた、安心・安全なまち」（53.3%）が最も多く、団体（47.5%）においても上位に挙げられています。さらに、福祉の取り組みに関する重要度（市民・問 29、団体）についても、重要度が「高い」と「やや高い」の合計をみると、「地域における防犯が充実したまちづくり」（市民 74.4%、団体 79.7%）と「地域における防災活動が充実したまちづくり」（市民 73.2%、団体 81.3%）が、市民・団体ともに上位に挙げられていることから、安心して暮らしやすいまちづくりに向け、防災と防犯に向けた取り組みは重要と考えられます。

一方、災害等に備えて実施していること（市民・問 18）をみると、「地域の防災訓練への参加」（14.9%）と「近所同士で助け合える関係づくり」（10.8%）は、ともに1割台と少ないことから、防災訓練の参加促進や近所同士で助け合える関係づくりの啓発が必要と考えられます。

また、災害が起こった時に不安に思うこと（市民・問 19）をみると、「災害が迫っているときの適切な情報」（25.4%）が2割半ばで、「生活必需品の確保（食料、水、薬など）」（19.4%）と「災害後の生活の再建・被害の補てん」（12.2%）が上位となっていることから、災害に関する適切な情報提供をはじめとする体制の整備が必要と考えられます。

9. 外出しやすい環境や支援の充実

身近な地域で気になること、問題と感ずること（市民・問 11、団体・問 2）をみると、「交通などの移動手段や高齢者などの買い物弱者の問題」（市民 41.4%、団体 57.6%）が、市民、団体ともに上位となっており、特に市民では最上位となっています。

また、福祉の取り組みに関する重要度（市民・問 29）について重要度が「高い」と「やや高い」の合計をみると、「外出しやすい環境や支援が充実したまちづくり」（市民 72.4%、団体 78.8%）も上位にあることから、外出しやすい環境や支援の充実が重要と考えられます。さらに、その取り組みとして、市民・団体とも、バスの本数の増加や高齢者における運転免許証返納のきっかけづくりを求める声などが挙がっています。

10. 市民に対する団体などの周知の強化

社会福祉協議会、支部社協、民生委員・児童委員の認知状況（市民・問 20～22）をみると、「名前も内容も知っている」（社会福祉協議会 17.3%、支部社協 10.0%、民生委員・児童委員 8.9%）がいずれも2割未満となっており、市民への周知が十分でない状況がうかがえます。

また、団体の活動をする上での苦勞していることや課題（団体・問 3-1）をみると、民生委員・児童委員のことを知らない人が多く、不審者と思われることもあり、支援者への対応に苦慮している声があるとともに、団体が地域福祉を推進していく上で重要なこと（団体・問 6）では、「団体の活動などのPRの充実」（38.1%）が4割弱となっていることから、市民に対する団体や民生委員・児童委員の周知の強化が重要と考えられます。

11. 団体関係者の活動を推進する取り組みの充実

団体が地域福祉を推進していく上で重要なこと（団体・問 6）をみると、「活動に必要な情報提供の充実」（58.5%）と「関係団体などとの情報交流できる場づくりの充実」（49.2%）が、ともに上位となっています。また、団体の苦勞していることや課題に対する解決策や提案（団体・問 3-2）をみると、他地域の成功事例の勉強会の開催や地域包括支援センターとの連携・情報共有の強化などの声が挙げられていることから、団体関係者が活動を推進する上で必要となる情報提供の充実とともに、関係機関・団体との連携・情報共有の強化が重要と考えられます。

一方、団体の活動をする上での苦勞していることや課題（団体・問 3-1）をみると、見守り対象者の増加による活動負担の増加をはじめ、活動拠点の確保が必要なことや、対象支援者が拒否や嫌な顔をするなど支援者への対応をはじめ、集合住宅での居住者の安否確認ができない場合の対応や住民情報に関することの対応に苦慮していることなどが挙げられています。また、団体の苦勞していることや課題に対する解決策や提案（団体・問 3-2）をみると、活動の負担感の軽減にむけた見守り活動のあり方の検討や個人情報の取り扱いのあり方の検討などが挙げられていることから、団体関係者の活動をスムーズに進めるための活動体制や活動のあり方の検討が必要と考えられます。